

348  
226



始



44K80

奈良縣編

# 大和志料

奈良縣教育會發行

下卷

大正  
4.2.10

内交

# 大和志料目次

## 下卷

### 式上郡

村里 三輪町—長谷町—纏向村—城島村—柳本村—茅原—穴師—忍坂—芝—初利—別所—芹井—大市郷—上市郷—辟田郷—下野郷—神戶郷—小大田莊—出雲庄

山川 三輪山—纏向山—長谷山—恩坂山—鳥見山—吉隱山—笠山—笠口山—泊瀬川—磯城川—三輪川—狹井川—纏向川—忍坂川—迹鷺淵—佐野池

神社 大神大物主神社—八奉川坐大神御子神社—葛城賀茂神社—若宮大直禰神社—狹井坐大神荒魂神社—岩倉神社—曾宮止神社—大行事神社—御子宮神社—高呼神社—檜原神社—一夜酒神社—神寶神社—祓處神社—穴師坐兵主神社—卷向坐若御魂神社—穴師大兵主神社—天滿神社—志賀御縣坐神社—忍坂坐生根神社—忍坂山口坐神社—他田坐天照御魂神社—宗像神社—長谷山口坐神社—嶋倉神社—瀧倉神社—玉列神社—栗田神社—水口神社—天滿神社—桑内神社—宇太依田神社—殖栗神社—伊弉奈岐神社—綱越神社—荒神社

佛寺 長谷寺—長岳寺—眞面堂—玄寶庵—竹林寺

舊蹟 磯城瑞籬宮—纏向珠城宮—纏向日代宮—磯城島金刺宮—泊瀬朝倉宮—泊瀬列城宮—譯語田幸玉宮—野見宿禰角力傳蹟—磯城殿櫃本

海栢樹市

目次

### 式下郡

村里 都村—三宅村—黒田—西代—伊豫戸—大木—唐古—小坂—八田井ノ上—鏡作郷—大和郷—室原郷—阿刀村—村屋村—絲井莊

川池 大和川—遊部川—坂手池

原野 三宅原—中道

神社 村屋坐彌富都比賣神社—鏡作坐天照御魂神社—池坐朝霧黃幡比賣神社—絲井神社—比賣久波神社—岐多志太神社—千代神社—倭愚智神社—服部神社—富津神社—村屋神社

佛寺 法貴寺—法樂寺

舊蹟 黒田廬戸宮

城壘 伴堂壘—法貴寺壘—唐院壘—吐田壘—小柳壘—藏堂壘—唐院荒墳

### 十市郡

村里 多村—耳成村—大福村—安倍村—櫻井町—十市里—飯高—膳天—佐味—竹田—保津—常磐—川邊郷—池上郷—神戶郷—磐余村—新川村

山川 天香山—耳梨山—耳梨池—多武峰—倉橋山—石寸山—磐余川—耳梨川—磯路小野—高佐士野—磐余野—朱雀路—山田道—針路

神社 談山神社—多坐彌志理都比古神社—耳成山口神社—目原坐高御魂神社—千部神社—螺蓋神社—竹田神社—下居神社—十市御縣神社

縣主神社 天香山坐四處神社 天香山坐柳真智命神社 坂門神社  
一畝尾坐健土安神社 畝尾郡多本神社 石寸山口神社 高家阿倍神社  
社 岩櫻神社 千代神社

佛寺

崇敬寺 華嚴寺 粟原寺 東光寺 音石寺 荻田寺  
十市城 田原本營  
磐余雜樓宮 磐余藥樂宮 磐余玉穗宮 倉橋宮 磐余池邊雙樓  
宮 耳成行宮 香具山離宮 兩槻離宮

陵墓

石寸池上陵 倉橋岡陵

廣瀨郡

村里 河合村 百濟村 箸尾村 城戸郷 上下倉郷 山守郷 散吉郷  
下勾郷 細井戸莊  
山川 廣瀨山 城上岡 百濟原 廣瀨野 廣瀨川 百濟川 葛城川  
百濟池

神社

廣瀨坐和加字加乃實命神社 讀岐神社 於神社 柳玉比賣命社  
社 穗雷命神社

佛寺

長林寺 大福寺 常念寺 淨土寺 百濟寺 定林寺  
箸尾城 大輪田壘 平尾壘 南郷壘 廣瀨壘  
百濟宮 廣瀨行宮  
墳墓 成相墓 牧野墓 三立岡墓 赤穗墓 高津笠墓

葛上郡

村里 御所町 秋津村 披上村 吐田郷村 朝妻 長柄 古瀬 日置  
郷 高宮郷 平妻郷 桑原郷 上下島郷 大坂郷 檜原郷 佐味庄  
小野庄 餘戸郷

舊蹟

浮穴宮  
片岡馬坂陵 傍丘磐環南陵 傍丘磐環北陵 埴口陵 二上山墓  
片岡墓田墓 威奈大村墓 百濟意多良墓

忍海郡

村里 忍海村 津積郷 中村郷 岡人郷 栗柄郷  
笛吹山 葛城川 笛吹池  
山川 葛木坐火雷神社 笛吹神社 爲志神社  
舊蹟 角刺宮  
城壘 忍海壘

高市郡

村里 高市村 白樺村 飛鳥村 久米 烏屋 蘇我 四分 忌部 輕  
豐 阿波多 阿倍山 八釣 田中 檜前 美原 大原 巨勢  
郷 田口村 田井兵衛莊  
山川 畝傍山 南淵山 巨勢山 高取山 飛鳥山 八釣山 雷丘 甘  
檜丘 眞弓丘 佐田丘 雁坂 越野 都久野 飛鳥川 檜前川 久  
米川 蘇我川 部坂川 難波堀江 劍池 輕池 雁坂池 越智池  
益田池 井谷井

神社

檜原神宮 飛鳥坐六處神社 畝火山口神社 子島神社 天滿神  
社 高市御縣坐鴨事代主神社 高市御縣神社 久米御縣神社 天神  
神社 鳥坂神社 平佐坐神社 太玉命神社 甘樫坐神社 川俣神社  
輕樹村坐神社 宗我坐宗我都比古神社 治田神社 御歲神社 波  
多御井神社 波多神社 飛鳥山口坐神社 鸕柄神社 柳玉命神社

山川 附丘野池 葛城山 巨勢山 朝妻山 戒那山 磯間丘 玉手  
丘 重岡 高宮岡 琴引原 意富堂古原 巨勢野 葛城川 巨勢川  
腋上池 長柄池 葛城池

神社

葛木坐一言主命神社 鴨都味波八重事代主命神社 高鴨阿治須  
岐託彦根命神社 葛木御歲神社 大倉比賣神社 長柄神社 吐田神  
社 大穴持神社 鴨山口神社 葛木水分神社 高天彦神社 多太神  
社 巨勢山口神社 巨勢山坐三處神社 稻代坐神社 葛木大養神社  
寺 菩提寺 吉祥草寺 金剛山寺 葛城寺 巨勢寺 神通寺 高天

佛寺

牛田城 檜原城 巨勢壘 備羅營 葛城高丘宮 披上池心宮 室秋津島宮 朝妻行宮  
按上博多山上陵 玉手丘上陵 白鳥陵 室波賀 今木双葛

葛下郡

村里 王子村 上牧村 勢園村 當麻村 高田町 上里 蓬坂 加守  
鎌田 北花内 高瀬郷 神戶郷 岡庄 萬歲郷 平田莊  
山川 二上山 萬財山 大坂山 當麻山 片岡山 當麻道 葦田原  
小松杜 葛城川 富溪 葦池  
神社 片岡坐神社 葛木二上神社 葛木倭文坐天羽雷命神社 當麻山  
口神社 當麻都比古神社 大坂山口神社 葛木御縣神社 石岡坐多  
久豆玉神社 調田坐一事尼古神社 長尾神社 金村神社 大幡神社  
志都美神社 伊射奈岐神社 久度神社 諸縣神社 天神社  
佛寺 當麻寺 達磨寺 放光寺 福應寺 正行寺 淨願寺 現影寺  
現德寺 石光寺  
城壘 萬財城 布施城 片岡城 岡崎狐井壘 高田城 當麻壘 竹内

神社

氣都和既神社 於美阿志神社 東大谷日女命神社 瀧本神社 大歲  
神社 大仁保神社 馬立伊勢部田中神社 高生神社 縣主神社 在  
南神社 大窪神社 磐余神社

佛寺

南法華寺 龍蓋寺 岡本寺 菩提寺 木元興寺 豐浦寺 坂田  
寺 金剛寺 弘福寺 久米寺 靈鷲寺 龍福寺 慈明寺 興雲寺  
大野丘北塔 大官大寺 定林寺 本明寺 藥師寺 法光寺 檜隈寺  
大窪寺 輕寺 蘇我大寺 梓削寺 子島寺 國源寺  
城壘 越智城 高取城 慈明寺城 今井壘 巨勢壘  
舊蹟 畝傍檜原宮 片岡浮穴宮 輕曲峽宮 輕嶋豐明宮  
勾金檜宮 檜隈入野宮 遠飛鳥宮 近飛鳥宮 飛鳥岡本宮  
岡宮 後飛鳥岡本宮 飛鳥板蓋宮 飛鳥川原宮 飛鳥川邊宮 飛鳥  
淨御原宮 藤原宮 小栗田豐浦宮 島宮 雁坂宮 國府

陵墓

畝傍山東北陵 桃花島田丘陵 畝傍山西南御陰井上陵 畝傍山  
南織沙溪上陵 劍池島上陵 身狹桃花島坂上陵 橋皇后陵 檜隈坂  
合陵 越智岡上陵 太田皇女墓 檜隈大内陵 身狹桃花島坂墓 檜  
隈墓 南淵先生墓 眞弓丘陵 檜隈安古岡上陵 娘子塚 武連荒堀  
大原荒墳

宇陀郡

村里 檜原村 御杖村 神戶村 伊那佐村 曾爾村 宇賀志村 檜河  
原 浪坂郷 伊福郷 多氣郷 笠間郷 猛田郷 血原  
山川 附野 室生山 伊那佐山 赤地山 吹上嶺 曾爾山 高倉山  
國見嶺 阿紀山 男坂 女坂 墨坂 宇陀野 阿騎野 吾妻野  
神社 阿紀神社 御杖神社 宇太水分神社 墨坂神社 室生龍穴神社

白岩神社 味坂比賣命神社 門僕神社 八咫鳥神社 神御子美牟須比女命神社 丹生神社 御井神社 椋下神社 櫻實神社 劍主神社 岡田小秦命神社 都賀那木神社 篠畑神社 宇賀志神社 白鳥居神社

佛寺 室生寺 佛隆寺 大藏寺

城壘 松山城 秋山城 東郷壘 澤壘 山邊城 赤壇壘 檜牧壘 諸木野壘 龍口壘

舊蹟 鳥見山靈時

陵墓 文氏墓

宇智郡

..... 五九

村里 宇智村 坂合部村 阿太村 牧野村 五條村 宇野

山川 附 野 眞土村 狹嶺山 宇智川 丹生川 水澤川 内野 阿陀大野

城壘 二見城 小松城 上村城 居傳壘 表野村壘 小島城 今村壘

神社 宇智神社 阿陀比賣神社 荒木神社 二見神社 高天山佐太雄神社 高天岸野神社 一尾背神社 落植神社 統神社 御靈神社 火雷神社 丹生川神社 宮前露靈神社

佛寺 榮山寺 櫻井寺 犬飼寺

陵墓 宇智陵 他戸親王墓 後阿陀墓 阿陀墓 揚貴氏墓

吉野郡

..... 五七

村里 小川庄 龍門庄 北ノ庄 川上庄 國樞庄 中ノ庄 池田庄 御料庄 阿智賀庄 官上庄 黒瀧庄 加名生庄 丹生庄 檜川庄 古田庄 宗川庄 天川庄 舟川庄 十二村庄 十津川庄 北山庄

大和志料下卷目次終

上市 飯貝 六田 西河 大瀧 井戸 錠 國樞 御園 菜摘 檜尾 宮瀧 今木 下市

山川 吉野山 高見山 薊ヶ嶽 龍門山 妹背山 猪養山 水分山 袖振山 高城山 宇治間山 青根ヶ嶽 八國山 國見山 耳我嶽 小牟瀨岳 平平例山 象山 御船山 檜尾山 鳥栖山 丹生山 山上ヶ嶽 御山 釋迦ヶ嶽 朝原 蜻蛉小野 司馬野 日曉野 御垣原 吉野川 遊副川 六田澗 象小川 夏身川 大川澗 天ノ川 十津川 龍門瀧 蜻蛉瀧 宮瀧 弓弦葉井 苦清水

神社 丹生川上神社 吉野宮 高角神社 吉野山口神社 高樺神社 大名持神社 吉野水分神社 勝手神社 子守神社 金峰神社 吉水神社 井光神社 三公神社 丹生神社 川上鹿獵神社 波寶神社 波比賣神社 伊波多神社 玉置神社

佛寺 龍門寺 佛師院 龍華藥院 本善寺 金峰山寺 如意輪寺 世尊寺 龍泉寺 金剛寺 六田寺 比曾寺 今木寺 寶泉寺 龍林寺 舊跡 吉野離宮 後醍醐帝皇居 後村上帝皇居 龍門山城 丹治壘 峯川戸壘 小村城 御園氏宅 秋津城 御料庄司宅 龍王城 衣笠城 湯川庄司宅 小野氏宅 島山氏宅 和田氏宅 殿野兵衛宅 宇井氏宅 廣橋氏宅 佐野氏宅 五百瀨庄司宅 玉置庄司宅 大役庄司宅 小原庄司宅 妙圓尼宅 野長瀨氏宅 阿瀨川城

陵墓 吉野山陵 川上西陵 東河墓 空圓親王墓 自天親王墓 忠義親王墓 新深南丘墓 建弼王殯塚 平維盛墓 村上義光墓 村上義隆墓 御料庄司成正墓 安滿願墓 佐久間信盛墓 片岡八郎墓 將軍塚

大和志料 下卷

奈良縣編

式上郡



神武帝吉野ヨリ宇陀ニ入り忍坂ヲ過キ磯城邑ニ到リ給フヤ土曾兄磯城弟磯城ナルモノコレニ據リ弟磯城已ニ歸順セシモ兄磯城頑迷ニシテ來降セス乃チ之ヲ殺シ行凶賊ヲ誅シ遂ニ國中ヲ平定シ帝位ニ即キ給フ其二年功ヲ論シ賞ヲ行フニ方リ弟磯城ヲ縣主ニ拜シ之ヲ治メシム安寧帝ノ世ニ縣主葉江アリ懿德帝ノ時ニ縣主太眞若彦アリ孝元帝ノ朝ニ縣主太目アリ此等皆弟磯城ノ後ニシテ其職ヲ襲ヒシモノナルヘシ大化中縣邑莊田ヲ收メ新ニ國郡ヲ立ツルニ及ヒ東ハ宇陀山邊南ハ十市西ハ廣瀨平群北ハ山邊ニ接スル域内十四郷ヲ以テ二郡ヲ置キ其辟田下野神戶大市大神上市長谷恩坂ノ八郷ヲ以テ磯城上郡トシ其他ノ六郷ヲ磯城下郡トシ或ハ式上下ニ作レリトナシ郡郷司ヲシテ之ヲ治メシム爾後ノ沿革詳カナラズ降ツテ足利氏ノ晩世ニ郡中ノ豪族皆筒井氏ノ幕下ニ屬セリ筒井諸記ニ城上郡馬上五十騎雜兵五百二十人御改村數五十一ヶ村高二萬八千五百二十二石餘ト即チ是ナリ徳川氏ニ至リ織田氏ヲ芝柳本各一ニ分封シ幕府ノ直領藤堂氏ノ采地等亦其間ニ錯ハル元祿十五年ノ大

式上郡

和國郷帳ニ據リ各村高及ヒ領主等ヲ記スレハ左ノ如シ

一、高六百貳拾石七斗四升九合 織田播磨守  
一、七百九拾六石四斗九升 同

内百九十一石四斗九升 織田肥前守

一、四百九拾八石貳斗四升貳合 織田肥前  
一、三百五拾石八斗貳升 織田播磨

一、五百三拾九石壹斗七升五合 同  
一、三百五拾參石九升 藤堂和泉

一、千二百三石五斗六升貳合 織田播磨  
一、二百七拾六石七斗五升七合五勺 同

一、三百七拾三石三斗五升七合五勺 同  
内百石 釜口寺領

一、二百六拾九石六斗七升六合 同  
一、二百六拾八石四斗六升 同

一、三百五拾二石五斗七升 藤堂和泉  
一、三百七石四斗八升 同

一、九百八拾四石五斗七升 織田肥前  
一、七百二拾二石二斗四升六合 織田播磨

大泉村

大江包村

豊前村

東田越村

大柳本越村

下長岡村

上長岡村

北別所村

南別所村

大田村

草川村

芝岩村

上庄村

戒重村

松ノ本村

三輪村

藥師堂村

箸中村

辻谷村

瀬利村

初利村

穴師村

備後村

茅原村

馬場村

川合村

栗殿村

金山屋村

外山尾村

慈恩寺村

一、二百八拾二石七斗八升二合 織田肥前  
一、三百九石六斗三升二合 藤堂和泉  
一、四百八十石二斗一升四合 幕府直領  
一、百拾九石八斗六升二合 同  
一、六百貳拾六石八斗貳升 織田肥前  
一、二百九石六斗四升四合 幕府直領  
一、二百四拾四石五斗貳升 同  
一、二百拾六石一斗八升 織田播磨  
一、三百貳拾石九斗 織田肥前  
一、二百七拾五石四斗七升五合 同  
一、三百七拾七石貳斗三升七合 織田播磨  
一、三百八拾一石六斗壹升六合 幕府直領  
一、四百拾二石九斗六升 藤堂和泉  
一、千六百六拾九石八斗貳升 戸田兵庫  
一、四百八拾四石七斗三升八合 幕府直領  
一、千七百七拾石四斗貳升 藤堂和泉  
一、九拾石八斗二升七合 織田播磨  
一、七百四拾四石九斗七升四合 幕府直領

式上郡

一、二百六拾石四斗五升	幕府直領	脇本村
一、四百六拾四石九斗八升六合	同	黒崎村
一、六百九拾二石五斗三升九合七勺	大岡美濃	恩坂村
内 百五十二石七斗八升三合	幕府直領	
卅九石七斗五升	戸田兵庫	
一、百九拾六石四斗八升二合	幕府直領	龍谷村
一、二百拾壹石九斗七升七合	同	岩坂村
一、六百貳拾七石五斗壹升九合	同	出雲村
一、百五拾六石四斗六升九合	同	狛間村
一、六百九拾二石五斗八升	織田播磨	笠間村
一、二百四拾四石七斗九升四合	同	安田村
一、二百八拾二石九斗八升	同	白川村
一、千四百拾四石二斗六升八合	幕府直領	初瀬村
一、六百拾貳石九斗六合	藤堂和泉	吉隠村
一、百石貳斗一升	織田肥前	柳柄村
一、八拾貳石三斗	同	角柄村
一、二百八拾壹石三斗九升六合	藤堂和泉	萱森村
一、五百九十五石三斗四升一合	織田播磨	笠田村
一、百五十石壹斗九升	織田肥前	和田村

四

一、七拾八石壹斗貳升	同	中谷村
一、百十五石三斗八升	織田播磨	中白木村
一、八拾七石貳斗三升		北白木村
一、二百九石四斗八升八合	藤堂和泉	三谷村
一、百拾三石壹斗	織田播磨	芹井村
一、百三十一石八斗九升	同	瀧倉村
一、六百七十六石八斗二升九合	織田肥前	小夫村
合高二萬四千六百四十九石一斗七勺	村數五十七	

明治二十一年町村制ヲ布カル、ヤ郡中ノ諸村ヲ分合シ更ニ三輪町ノ三輪、金屋、上織田町、芝、大原、大西、箸、纏、向、豆、越、豐、前、卷、ノ内、豐田、江包、大柳本、柳本、渡谷、初瀬、出雲、吉隠、ノ六村、上ノ郷、夫、中、谷、中ノ五村、纏、向、豆、越、豐、前、卷、ノ内、豐田、江包、大柳本、柳本、渡谷、初瀬、出雲、吉隠、ノ六村、上ノ郷、夫、中、谷、瀧倉、白木、笠、芹、井、和、田、小、夫、ノ朝倉、黒崎、唐院、脇本、笠間、慈恩、高方、三谷、修理、枝ノ十一村、朝倉、黒崎、唐院、脇本、笠間、慈恩、城島、栗、殿、外、山、尾、ノ六村、坂、ノ二町六村トナス。

村里

**三輪町** 三輪ノ稱ハ三輪山ヨリ出テ説下ニ大神社大神氏亦其關係ヲ同ウセリ。崇神帝ノ世太田々根子ヲ神主トシテ大物主命ヲ祭ラシメシヨリ子孫其職ヲ襲ヒ大神公ヲ氏姓トナス。氏族蕃衍分レテ數派トナリ各其地ニ別居セリ而シテ大神氏族長ヲ以テ祭祀ヲ掌リ兼テ族政ヲ行ヒ出テハ將トナリ入テハ相トナリ王室ニ大造アリシコト國史ニ詳カナリ。大化中郡里ヲ分割スルニ及ヒ此地ヲ立テ一郷トナス和名抄ニ大神郷惣國風土記ニ三輪郷土地中肥民用不少郷北有三輪山其山足有三輪明神ト即此郷已廢シ三輪村ヲ存セシカ

明治二十一年三輪傍近三村ヲ以テ三輪町トナス

元貞集家

けふよりは霞山邊に立のほる

三輪の古里ほのかにぞ見る。

**長谷町** 長谷一ニ初瀬泊瀬ニ作ル萬葉集ニ隠口長谷小國ト詠ス雄略帝ノ御諱大泊瀬幼武尊ハコレニ因ミ其京城モ亦其方面ニアリテ泊瀬朝倉宮ト號ス長谷部ハ物部氏ノ部曲ノコニ住スルモノ氏名ニシテ姓氏錄ニ據ルニ饒速日命ノ苗裔ナリト云フ大化中長谷地方ヲ立テ一郷トナス和名抄ニ長谷郷惣國風土記ニ長谷郷土地下肥民用少古老傳云此地兩山溪水相夾而谷間長故云長谷ト即此ハツセノ原義詳カナラス地勢ヲ以テ長谷ノ文字ヲ用フ郷已廢シ長谷村ヲ存セシカ明治二十一年長谷以下六村ヲ以テ長谷町ト稱ス。

萬葉

こもりくの泊瀬小國につまはあれど 石はあれとも猶ぞ來にける

**纏向村** 垂仁帝ノ宮城ヲ纏向珠城宮ト稱シ景行帝ノ宮城ヲ纏向日代宮ト稱ス宮址相接近セリ後世纏向ノ稱ハ山河及社名ニ存シ之ヲ村里ニ亡ヒシカ明治二十一年穴師以下ノ十村ヲ以テ一村トナシ舊稱ニ因リ纏向ト名ク

**磯城島村** 附磯城島郷 紀元前ニ磯城邑アリ土曾兄磯城弟磯城コレニ據ル崇神帝ノ皇居ヲ磯城瑞籬宮ト稱シ址金屋ニアリ欽明帝ノ皇居ヲ磯城金刺宮ト稱シ址同處ノ山崎ニアリ垂仁天皇紀ニ所謂磯城嚴櫃之本ハ古事記ニ三諸之嚴櫃之本ニ作り敷島之高圓山ハ慈恩寺ノ南龍谷ニアリ恩坂ノ田畝ニモ亦シキシマト字スル所アリ以テ古ハ磯城ト稱スル地方ノ甚濶カリシヲ知ルヘシ而シテ中世磯城島郷ト稱スル一郷アリ蓋今ノ三輪金屋ノ東南慈恩寺龍谷恩坂ニ互レル間ノ名稱ナルナラン太子傳玉林抄ニシキシ島ノ事異説アレドモ皆實説ヲ知ラス彼處ノ人云勸圓房シキシ島トテ長谷ヘ參レハ山崎ニ小堂アリ今ハ武家入惣シテシキシ島トテ一郷ノ處也今ハアレテナシ然レトモ慈恩寺ノ管領ナル故ニ三輪ノ宮本ニ神役ヲスルナリ金刺宮ハ河ノ向ニ竹原アリ其内ニ小社アリ此欽明天皇内裏ノ跡也永祿二年南都般若寺收納帳宇陀郡藤原ニ一段一石五斗代八斗五升定ヲツサカ助二郎ト以テ證スヘシ明治二十一年粟殿以下六村ヲ一村トナシ名クルニ城島ヲ以テス城島ハ即チ磯城島ナリ



柳本村 惣國風土記ニ柳本郷土地中肥、民用不少有神號大和明神所祭大國魂命也ト見ユ、中世南都大乘院領トナリ楊本庄ト稱ス、同院ニ建長四年注進狀ヲ藏ス今内閣藏シテ參考ニ供ス。

注進 楊本御莊畠數并斗代事

合

畠十三町五段二百七十歩内

除

- 二段 藥興寺 御名内
- 六段半三十内 半年荒 御名内
- 一段六十ト 公文給 御名内
- 四段六十ト 藥興寺免 重松名内
- 六段六十ト 年荒 恒末名内
- 一段百七十ト 年荒 慶勢
- 小 荒 是松名内
- 六段小 所當不成申 修善坊
- 已上二町八段八十歩
- 定畠十町七段大 百五十ト分大豆二升四合三与麥同
- 熊九名 安用名 一段冊 佛藏
- 分大豆六升二合八勺五才
- 順西名 四段大 貞菊行萬
- 爲末名 一段三百歩 京實
- 大豆一斗六合四勺
- 末永名 四段 サタ分 賴賢
- 大豆二斗三升二合
- 是松名 六段小冊 サタ分 奥田名主
- 大豆三斗七升二合二勺
- 小院名 七段小 サタ分 賴賢

大豆四斗二升五合二勺

淨實半名 一段半 京實

大豆八升七合

末重名 二段 善密

大豆一斗一升六合

國貞名 五段九十ト サタ分行 貞

大豆三斗四合五勺

國末名 二段六十ト 友清

大豆一斗二升五合七勺

末元名四分一 一段 佛藏

大豆五升八合

利永名 三百歩 爲遠

大豆四升八合四勺

依貞名 一段六十ト 千祐

大豆六升七合二勺

安永名 一段半 助行 萬遠

大豆八升七合

利國名 一町一段三百四十ト 貞萬

大豆同

式上郡

大豆六斗九升三合

村早名 九十ト 時宗

大豆一升四合六勺

有恒名 大豆一斗二升五合七勺 秀行 成遠

末正名 二段半 助永

大豆一斗四升五合

延貞名 一段大 新末 住包

大豆九升六合七勺

兼正名 一段半 爲遠

大豆八升七合

五郎名 一町二段二百歩 友有 貞清

大豆七斗二升八合三勺

武次名 一段三百歩 爲末

大豆一斗六合四勺

國正名 一段六十歩 貞萬

大豆六升七合七勺

時末名 一段 則行

大豆同

九

大豆五升八合	大豆三升八合七勺
友貞名	行命名
大豆一斗一升六合	大豆三斗二升八合七勺
良義名	恒末名
大豆三斗七升七合	大豆一斗七升四合
上房名	又一斗七升四合本ハ荒今ハ新開分三段
大豆一斗五升四合七勺	大豆九升六合七勺
上恒名	正文
大豆五升八合	大豆五升八合 但荒申
武貞名	良勝
大豆五升四合八勺	大豆二升七合
恒武名	安國
大豆二斗七升一合	大豆五升八合
武末名	一段或ハ二段百十ト良 佛
大	末 清
已上大豆六石二斗三升三合三勺 加加分定	
麥同數也 段別五升八合	八合ハ交分也
建長四年壬子十月三日	
ト見ユ、某名ハ島ノ字ニシテ段數ノ下ニ記名スルハ即チ所謂其作主人ナリ、藥興寺已廢シ	

址詳カナラサルモ必ス莊内ニアリシナラン、志ニ廢柳本寺、柳本村唯、有南圓堂北圓堂西安堂之地名ト、疑ラクハ同處カ、而シテ中世柳本氏コ、ニ住シ其莊官タリシカ戰國ニ至リ壘ヲ城キ之ニ據ル、事城壘ノ部ニ詳カナリ、元和以後織田氏ノ治所タリシカ明治二十一年柳本澁谷ヲ一村トナシ柳本村ト稱ス。

**茅原** 織田村ノ大字ニ屬ス、崇神帝ノ御宇年穀登ラス疫亦行ハレ人民多ク死ス、帝群神ヲ神淺茅原ニ會シトシテ其意ヲ問ヒ給ヘルコト國史ニ見ユ、志ニ之ヲ笠山ノ下ナリト云フモ信シ難シ、此時皇居ハ磯城瑞籬宮ニアリテ宮址茅原ト相距ル遠カラサレハ所謂神淺茅原ハ今ノ茅原ニシテ神樂歌張小前ナル加左カサの朝茅チノチが原トハ自其處ヲ異ニセルモノナルヘシ、**穴師** 穴師舊神主齋部氏記全文彼社ニ穴師大兵主神社ニ穴師大兵主神社ニ社傳云下社、天鈿女命也神體著鈴之矛也、故云兵主神亦天鈿女命始作笛吹之其神鎮座之地仍云穴師ト、穴師ノ名義自明カナリ、垂仁帝ノ世ニ大倭神地ヲ穴磯邑ニ定メシコト日本書紀ニ見ユ、後世穴師ノ神職ニ大倭氏アルハ蓋コ、ニ起因スルモノカ、惣國風土記ニ穴師郷、土地中肥、民用不少是垂仁天皇宮居之地也ト、之ニ據レハ中世穴師ヲ以テ一郷トナセシト見ユ、郷已廢シ、纏向村ノ大字ニ穴師ヲ存ス。

**忍坂** 神武帝菟田ヨリコ、ニ進ミ大室ヲ作り八十梟帥ヲ誅シ給ブ、其址、オホムロ或ハ、オホムロト稱スト字シ今尙存セリ、允恭帝ノ皇后忍坂大命ハ此處ノ産ニシテ今村中ニ誕生井ト稱スルアリ、是其舊跡ナリ、火明命ノ子孫亦コ、ニ住シ因テ忍坂部忍壁ニ作ルヲ氏トナス、姓氏錄ニ忍坂連、大炊刑部造等即此大化中此地方ヲ立テ、一郷トナス、和名抄ニ恩坂郷、惣國風

土記ニ忍坂郷土地中下、民用少ト見ユ、已廢シ城島村ニ忍坂ノ大字ヲ存ス。

芝 舊岩田ト稱ス、惣國風土記ニ岩田郷土地中肥、民用不少ト即此案スルニ大乘院領段錢日記ニ院入庄正長二年十二月廿八日御兵士引付ニ十市八田分院入庄、小大尋尊僧正十月二日記ニ乃貢ノ徵使ヲ分遣スル條ニ、千菊丸、分岩田院入庄トアレハ當時大乘院領トナリテ院

入庄トモ稱セシカ、德川氏ニ至リ織田氏コ、ニ封シ之ヲ芝村藩ト稱ス、廣大和名勝志ニ芝ノ義ヲ解シテ、或云芝村舊名岩田、寛文ノ頃マテハ艾樹ト云ヒシト見ヘタリ、村長ヨリ官ニ書上シ古文書ヲ見ルニ艾樹ト草シタルヲ見誤リ芝村ト讀ミシヨリ今芝村ト改リシヨシ

リ、芝ハ艾ノ字ノ誤ナルヘシ、然トモ寛文四年三輪神職高宮越兩家訴訟覺書ニ岩田村ト記シ未タ芝村ノ公稱ナク又元祿十五年ノ大和國郷帳ニモ岩田村トアレハ其公稱トナリシハ元祿十五年以後ニ係レルモノナラン、芝、今織田村ノ大字ニ屬ス。

初利 享德二年大乘院領段錢日記ニ羽津里井莊下司井上若狹、給ト見エ往古ハ羽津里井ト稱セリ、井上若狹ハ尋尊僧正長祿四年正月十一日記ニ井上若狹公被參神妙旨仰之、又御兵士引付ニ井上若狹公トアレトモ其何人ニシテ何處ニ住スルヲ詳カニセス、但同引付ニ井上分、羽津

里莊下司、九條庄御米二十石福智堂河口莊内口地年貢ト見ユレハ九條河口ノ莊官ヲモ兼帶シ且羽津里井ハ或ハ羽津里トモ稱セシヲ知ルヘシ、今初利ニ作り其地纏向村ニ屬ス。別所 南北二方アリ共ニ柳本村ニ隸ス、建長四年楊本莊注進狀ニ恒武名、四段ヘツフ慶恩ト記セルヘツフハ別府ノ假字ニシテ古ヘ國郡司ノ次官別ニ邸ヲ構ヘ政務ヲ執ル所ヲ謂ヒ

即チ別所ト同義ナリ、疑クハ本ト別府ト稱セシヲ後チ改メ名ケシカ、尋尊僧正應仁二年二月記ニ御童子千菊丸分城上郡楊本庄但別所庄、給トアリ、當時楊本ノ莊内ニ別所庄ト稱スルモノアリシト見ユ。

芹井 上ノ郷村ノ大字ニ屬ス、古ヘ芹井氏コレニ居ル、本姓物部氏ニシテ天孫降臨ニ供奉セシ二十五部曲ノ其一ナル芹井物部ノ苗裔ナリト云フ、國民郷士記ニ城上郡芹井治部物部

天孫降臨二十五部ノ人也ト即此、芹井物部ノ事也ト、箸墓ハ箸中ニアリ、又倭大神著穂積、臣大水口宿禰……因以命淳名城稚姫命、定神地

穴磯邑、祠於大市、長岡岬ト見ユル、大市長岡岬ハ大倭注進狀ニ今狹井社地是也ト註セリ、以テ其方域ヲ概知スヘシ、蓋大市ト稱スルハ今ノ柳本ヨリ穴師箸中ニ互リ大神郷ニ接スル方面ヲ以テ一郷トナセルモノニ似タリ、已廢シ後世大乘院領ニ大市莊ト稱スルアリ、是其

名殘ナルヘシ、同院領段錢日記ニ大市莊下司普賢院、給又尋尊僧正寬正二年三月二十七日記ニ當門跡領大市莊去年之定事公事物以下無、故令無沙汰之間、舊冬百姓沙汰人等住屋少々破却了ト見ユ、下司職普賢院ハ釜口山寺ナルヘク大市今其名稱ヲ亡ヘリ。

上市郷 和名抄ニ見ユ、已廢ス、志ニ存金屋村ト、然ラハ市ハ海石榴市ニ因レルナラン、海石榴市ハ舊蹟ノ部ニ詳カナリ。

辟田郷 同抄ニ見ユ、姓氏錄大和ニ辟田首任那國主都奴賀阿羅志等之後也トアルハコ、ニ取レル氏ナルヘシ、已廢シ其處ヲ詳カニセス、志ニ東田村存ト云ヘルモ據ナシ。

下野郷 同抄ニ見ユルモ其處ヲ詳カニセス。

神戶郷 同上

小大田莊 大乘院領段錢日記ニ見ユ、尋尊僧正應仁二年二月日記ニ徵貢使分遣ノ事ヲ記シ、  
菊丸○即チ徵貢使ノ名分著中小大田庄ト云ヒ又十一月十七日ノ記ニ小大田庄反數爲、催促、田數、注  
進之了、著中三段長谷寺定使田千松小川法師給、四段釜口管絃田九反タ一段釜口地藏講田二段  
長谷川新藥師寺領一町九段給主田、九段三輪明神御寄進合三町八反トアレハ往時大田村  
近傍著中地方ニ立テラレタル莊園ナリ、今其名稱ヲ亡ヒシモ大田ハ經向村ノ大字ニ存セ

出雲莊 長谷村大字出雲ノ地ニアラス、今ノ大西東田地方ニ於ケル莊名ニシテ亦大乘院領

ニ屬ス、院ニ貞和二年々貢目錄アリ今内閣文庫藏録シテ參考ニ供ス。

貞和二年四月 日

合

- 重國名 一丁二反三百步 分米九石四斗八升八合八勺
- 國時名 一丁四反百九十步 分米十一石一斗一升八合三勺
- 久國名 一丁三反 分米七石八斗二升六勺
- 國久名 一丁一反三百四十步 分米七石六升七勺
- 助光名 一丁二反 分米八石二斗九升九合一勺
- 助安名 一丁二反 分米八石六斗三合一勺

- 貞安名 一丁四反 分米十石六斗八升二合
- 助國名 一丁反 分米七石四斗四升二合四勺
- 貞元名 一丁一反 分米八石二斗六升六合五勺
- 貞國名 一丁二反 分米七石四斗三合三勺
- 貞口名 一丁二反 分米七石七斗七升五合
- 貞次名 一丁反大 分米六石七斗七升二合
- 國宗名 一丁反半 分米七石虫食
- 八坪御佃 一丁 分米八石
- 廻佃 五反 分米四石

已上田數十七町九反十步 分米合百二十石

尋尊僧正寛正三年八月十日記ニ當莊ノ事ヲ記シテ出雲莊之内點札分注進之、西下司方名田一分二反  
ケンコ三耶一反ニシト三反タツミト一反次耶一反サイコノ四耶一反トウ太耶トア  
四耶二反西トノ一反サコノ四耶一反又四耶一反道サイ一反トウ太耶トア  
リ、ヒカイ下郡ニ屬ス式「大イツミ」ナリ「大西」ヒカイタ東ハ今尙村里ニ存セリ、亦以テ其初瀬ノ  
出雲ニアラサルヲ證スヘシ、御兵士引付ニ森屋一黨分、出雲莊御米内十三石……トアレ  
ハ當時城下郡森屋黨ノ支配所タリシナリ、今出雲ノ名稱ヲ亡フ

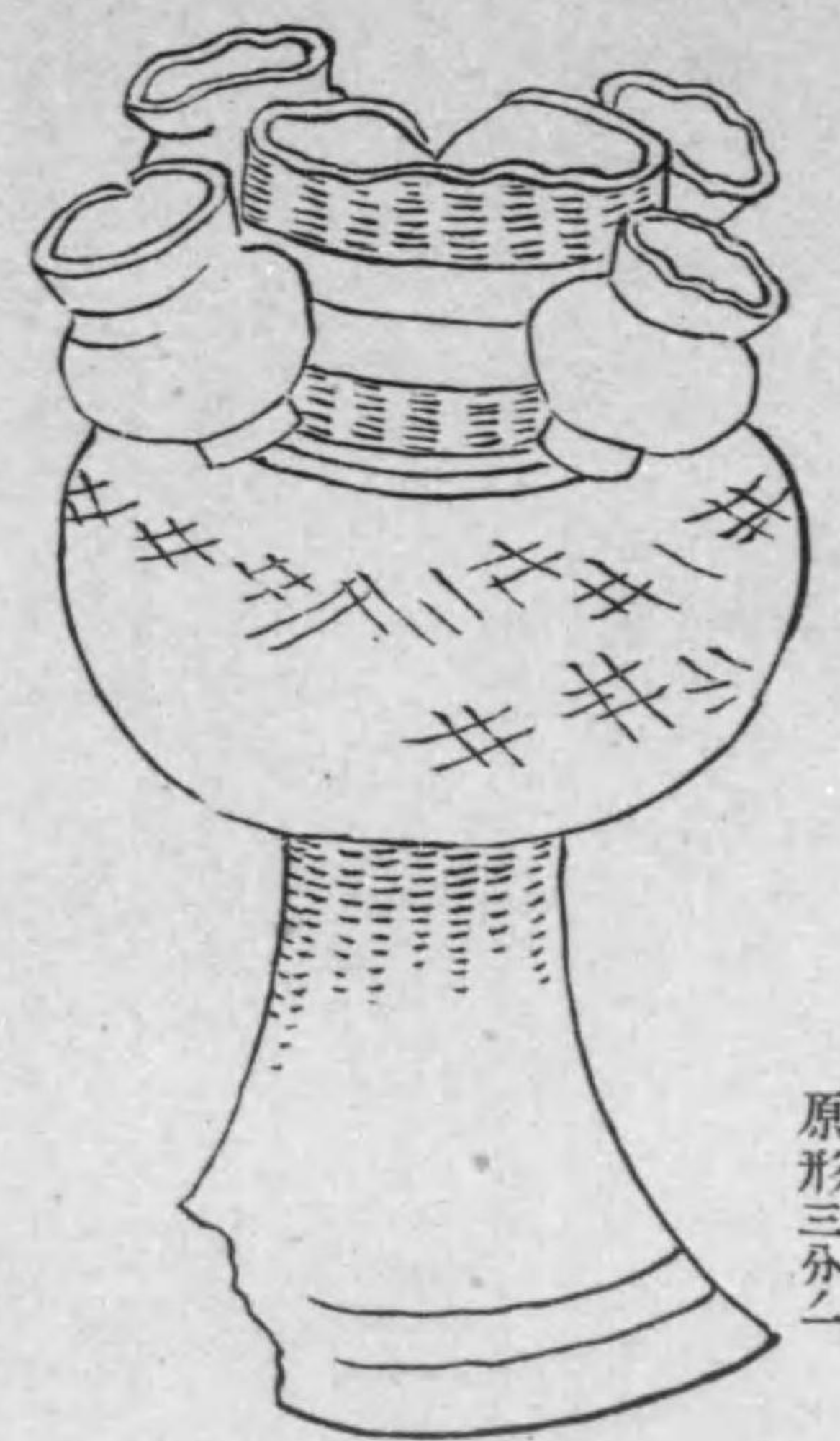
山川

三輪山 三輪ノ東ニアリ、御室山、真穂御諸山、御室ハ大物主神ノ神籬ニ因ミ、真穂ハ秀ノ古語ニシテ、神籬ハ姓氏、神南備山、神岳、出雲國造神賀詞ニ大御和乃神奈備ト見エ、神奈備ハ神地ノ古語ナリ、神籬ニ據ル、神南備山、神岳ハ萬葉集ニ登リ、神岳山部赤人作歌三むろの神なひ山にいほふさし、神籬ニ生ひたる部賀、神體山、御山等ノ別名ヲ有シ、古來著名ノ山ナリ、彼下毛氏ノ祖御諸別命ノ名モ亦コ、ニ取レルモノナリト云フ、三輪ノ名義ハ古事記ニ陶津耳命之活玉依毘賣、其容姿端正於是有神壯夫其形姿於時無比、夜半之時、倏忽到來、故相感其婚共住之間、未經幾時、其美人妊身爾、父母恠其妊身之事、問其女曰、汝者自好、無夫何由、妊身乎、答曰、有美麗壯夫、不知其姓名、每夕到來、供住之間、自然懷妊、是以父母欲知其人、誨其女曰、以赤土散床邊、以閉蘇紡、麻貫針刺其衣、爾故如教、而旦時見者、所著針麻者、自戶之鉤穴、控通而出、唯遺麻者三勾耳、爾、即知自鉤穴出之狀、而從糸、尋行者、至美和山、而留神社、故知其神子、故因其麻之三勾遺而名其地、謂美和也、ト見エ、即チ三勾ノ謂ナリト云フ、此事姓氏錄土佐風土記等ニモ見エテ、人口ニ膾炙スル所ナレトモ、神代卷舊事記ニ據ルニ、陶津耳ハ和泉ノ茅渟縣陶邑ノ人ニシテ、即チ彼處ニ於ケル事跡ナリ、陶邑後チ陶器ハ三輪山ヲ相距ル遠シ、容易ク麻糸ヲ延キ得ヘキ所ニアラス、必竟スルニ是レ俗間ノ話柄ヨリ出ツルモノニシテ、固ヨリ信スルニ足ラサルナリ、蓋三輪ハ神酒ノ古語ニシテ、神酒ヲミワト稱スルハ、土佐風土記詞林采葉ニ見ユ、而シテ、ミワハ本ト酒ヲ盛ル土器ノ稱ナルヲ其盛ル土器即チ、ミワヲ以テ直ニ酒ノ別名ト呼ヒ、倣セ、ルモノニシテ、斯ノ如キ類古語ニ往々之レ有リ、例セハ食物ヲ盛ル器ヲ筒ヲケト稱スルモ、

亦食物ノ古語ヲケトイフニ因レルカ、如キ即是ナリ、延喜式ニ載スル出雲國造神賀詞ニ伊豆乃應和トアルモ、イツハ例ノ齋清ムルノ義ニシテ、ミカワハ即チ應輪ナリ、言ハ酒ヲ盛ル應輪ノ類ハ、其緣邊圓クシテ輪狀ヲナセルヲ以テ之ヲ稱スルノミ、萬葉集フル泣澤之杜爾三輪須惠雖禱祈、我王者高日所知、奴ノ歌ハ、檜隈女王カ某ノ死ヲ悼ミ、泣澤神ヲ怨ミテ、詠メ、ル所ニシテ、言ハ泣澤神社ニ神酒ヲ盛リタル、ミワヲ掘リ坐テ爲メニ長壽ヲ祈リシ、驗モ、ナク永逝ステフ義ナリ、亦以テ、ミワノ酒器タルヲ證スヘシ、今神地若クハ古墳ヨリ發見スルヘカ、ラサルアリ、此レ土ヲ掘リテ、器ヲ坐タルモノニシテ、故ニ古歌ニ三輪ヲ詠セントシテ、味酒古語ニ陶器ヲスエモノト稱スルハ、實ニコトニ基ツク、又萬葉集長屋王ノ歌ニ、味酒乃三輪之辭ヲ冠ラセリ、崇神天皇紀ニ、宇磨佐階瀾和、又萬葉集長屋王ノ歌ニ、味酒乃三輪之祝ト是ナリ、亦美酒ヲ盛ル御瓮ノ義ニ外ナラサルナリ、然ラハ則チ三輪山トイフハ、本ト大物主神ヲ祭ルニ崇敬ノ餘數多ノ御瓮ヲ居テ奉リシヨリ出テタル名稱ナルヲ終ニ三勾ノ話柄ヲ附會セルモノナラン、今其說ニ因ミ、同山中ヨリ掘得タル酒器及其他ノ器物ノ圖ヲコ、ニ挿入シ以テ好古家ノ一覽ニ供ス、

但此等ノ器物ハ、山内禁足地字茶白山ヨリ發見スルモノナリ、茶白山ノ北ニ舊社殿址ト稱スル處アリ、地相接續セリ、思フニ茶白山ハ上古寶庫ノ在リシ處ナルヲ建物ノ移轉若クハ他ノ原因ヨリシテ、器物土中ニ埋没セラレタルモノナルヘシ、

寛政十二年所出



原形三分二



高六寸六分  
徑り大ナル處一尺五寸八分



回り尺七寸分



高二寸六分 口徑三寸八分

官幣大社大神神社ハ古來當山ヲ以テ神體トナシ別ニ寶殿ノ設ケナシ故ニ遠近畏敬シ敢テ不禮ヲ加フルモノナシ寛文六年ニ至リ禁足地ノ四至ヲ定メラル其文左ノ如シ。原書所大

和州三輪之山本社ニ定置覺  
一北ハ三光谷限麓ヨリ峠迄



式上郡

- 一南ハむくろ谷を限麓ヨリ峠迄
- 一西ヨリ東ノ峠迄町積貳拾町五拾六間
- 一横ノ廣サ南ヨリ北迄四町餘

右者三輪明神本社山ニ相定置候間自今以後不寄誰堅不可有出入者也

寛文六年丙三月二十四日

土屋忠次郎印

三輪神主

同十五年南都奉行ヨリ伐木禁制ノ勝札ヲ立テラル、其文ニ但原書社頭ニ傳ハラス  
模本南都大宮氏所藏

三輪山制札之事

一三輪山林并木葉ぬすみ捕もの於有之者手前うち捨たるへき事

一當山ぬす人の風聞於有之ハいつれの在々所々までも爲神主も遂穿鑿此方へ可申屈

事

一山ぬす人於告知者同類たりとゆふとも其科をゆるし爲褒美銀子拾枚可遣事

右條々堅可相守者也

寛永十五年卯月 日

中坊飛驒在判

トアリ當時ノ官家山林ヲ保護シ殊ニ禁足地ニハ嚴重ノ取締ヲ加ヘラレ明治六年九月ニ至リ教部省ヨリ三輪山全部ヲ以テ社地トナシ四方ノ足曳ヲ以テ其境界ト定メラル

萬葉

三輪山をしかもかくする雲たにも

心あらなんかくそふへしや

三諸つく三輪山見ればこもりくの

初瀬のひばら思ほゆるかも

味酒の三輪の祝の山てらす

秋の紅葉の知らまくをしも

纏向山

三輪山ノ北ニアリ、峯ヲ弓月嶽ト稱シ長谷山ニ連ル、因テ古歌ニ長谷之弓月嶽トモ

詠ス、南ヲ檜原山ト曰ヒ三輪山ニ亘ル、故ニ三輪之檜原ト吟セリ、西ニ小山アリ所謂珠城山

ニシテ北ハ即チ穴師山ナリ、共ニ名勝タリ。

萬葉

まきむくのあなしの山の雲あつゝ

雨はふれともぬれつゝそくる

あなし川かは浪立ぬまきむくの

由槻が嵩に雲たてるらし

長谷の弓月か下に我かくせる

つま………

鳴神の音のみきゝし巻向の

ひはらの山をけふ見つるかも

雲葉

式上郡

行河の過行人の手をしねは

うらふれたてり三輪の檜原は

夫木

里人のつとふ岩根の道たえて

たまきの山は雪ふりにけり

風雅

卷向のひはらのあらしさむくく

弓つきかたけに雪ふりにけり

哥合

風向ふひはらの時雨かきくらし

あなしの嵩にかゝるむらくも

長谷山

長谷村ノ上方ニアリ、一ニ豊山ト稱ス、與喜山消灰坂、埴倉山等ノ支別アリ、嶺紆リ谷幽ニ蹊路ヲ掩フ、因テ隱口長谷山ト稱シ、其野ヲ泊瀬小野ト曰ヒ路ヲ豊泊瀬路ト曰ヒ共ニ名勝タリ、雄略天皇紀ニ六年天皇遊于泊瀬小野觀田野之體勢慨然興感、歌曰隱口の泊瀬の山は、いてたちのよろしき山、走出のよろしき山の、隱口の、泊瀬の山は、あやに、うらくはしあやにト、其他古詠多シ、古ヘ帝室ノ御料ニ屬シ之ヲ看守スル部屬ヲ長谷山部直ト稱セシカ後桓武帝ノ御諱ヲ避ケ長谷山直ト改ム、姓氏錄ニ長谷山直、石上朝臣同祖、神饒速日命六世孫伊賀我色雄命之後也ト是ナリ、延喜式神名帳ニ所謂長谷山口神社ハ即チ其山靈ヲ祭ル

所ナリ。

萬葉

隱口の豊泊瀬路はとこなめの

かしこき道はこふしくはゆめ

草根

我かたに心ひけとていのりをく

弓槻あまたの小はつせの山

恩坂山

城島村大字忍坂ノ東ニアリテ慈恩寺龍谷ノ二村ニ連互ス、支別ニ高圓山小倉山アリ。

萬葉

隱口の長谷の山、青幡の忍坂山は、走出のよろしき山、立出の妙しき山ぞ惜しき山の荒

まくをしも

新古今

敷島や高圓山の雲間より

光さしそふ弓はるの月

鳥見山

一ニ登美ニ作ル、外山村ノ東ニアリ、此ヨリ宇陀郡萩原村ニ至ルマテ古ヘハ惣ヘテ鳥見ト稱ス、神武天皇紀ニ戊午年十月……皇軍之得瑞也、時人仍號瑞、今云鳥見是訛也、陳迹名鑑圖ニ外山里、神武天皇日向大和國ニ入給フニ御弓筥ニ金色、齋居名ケテ齋里ト

式上郡



云ト即此然ルニ大和志名所圖會等ニ此地ヲ以テ長髓彦ノ饒速日命ヲ奉シテ據有セシ處トスルハ謬レリ彼レハ添下郡ノ鳥見ニシテ名同キモ其處ヲ異ニセリ相混スル勿レ  
吉隱山 附猪飼山 持統天皇紀ニ九年十月幸菟田吉隱ト今本郡ニ屬シ即チ泊瀬村大字吉隱ニアリ其野ヲ浪柴野ト稱ス猪飼山ハ吉隱山ノ支別ナルヘシ

萬葉

吉隱のゐかひの山に伏す鹿の  
つまとふ音をきくかともしき

同

我か門の淺茅色つく吉魚張の

浪柴の野のもみちちるらし

笠山 附淺茅原

笠村ニアリ、巒峰笠ノ如シ、因テ名ク其野ヲ淺茅原ト謂フ。

萬葉

雨ふらは著むとおもへる笠の山

人になきせそつゆはひるとも

神樂歌小前張

我おきてふた妻とるや、

とるなてふ加左の朝茅か原に

釜口山

柳本村ノ東ニアリ、辨阿闍梨カかまの口こかれて見ゆる紅葉かななへての世には

泊瀬川

わらしとそおもふ集沙石ト口占セシ處ナリ。  
一ニ長谷川ニ作ル源ヲ小夫白木ノ二處ヨリ發シ長谷ヲ過キ稍北シ城下郡ヲ流レ

平群郡ニ至リ大和川ト稱セラレ終ニ河内ニ入ル古詠多シ。

繼體天皇紀

隱國の泊瀬の河ゆ流れ来る竹の幾み竹四竹本つ枝へを箱につくり末へをは、笛に作り吹きなす御諸が上に登り立ち我見は角障石余の池の水下經魚も上に出て歎くやす八隅知我か大君のおませるさらのみおひの結び垂れたれやす人も上に出てなけく。

萬葉

初瀬川古川のべに二の杉

年をへて又も逢ひ見ん二杉

磯城川

應神帝ノ時武内宿禰其弟甘内ト盟湯ヲ磯城川ノ濱ニ探リ情偽ヲ神祇ニ質セシコト國史ニ見ユ磯城川ハ長谷川ノ磯城島地方ニ於ケル名稱ナリ。

三輪川

三輪山中ニ平等寺川御洗手川狹井川活日川ノ諸流アリ三輪川ハ其汎稱ナリ。

萬葉

ゆふさらず蛙なくなり三和川の

清き瀬音をきよはしよしも

發心集

式上郡

三輪川の清きなかれにすゝきてし  
衣のそては又はけかさし

狭井川 三輪山ヨリ發シ狭井社ヲ遶リ箸中ニ至リ卷向川ニ入ル、俗ニ藥川ト稱ス、狭井社ノ

大神荒魂神ハ疾疫ヲ鎮遏スルヲ掌ル、其社邊ヲ流ル、水ナルヲ以テ之ヲ飲メハ病ヲ癒ス  
テフ傳説ニ因レルナラン。

纏向川 源ヲ纏向山ヨリ發シ穴師、初利、辻ヲ經テ初瀬川ニ入ル、穴師川ハ穴師社邊ヨリ珠城  
山ノ北ニ沿ヘル小流ナリ、一説ニ穴師川ハ卷向川ノ別名ナリトモ云フ。

萬葉

黒玉の夜なりくれは卷向の

川音たかし夜もあらしかも

同

痛足川河波たちぬ卷向の

由槻か嶽に雲たてるらし

忍坂川 廢栗原寺露盤銘和銅ニ忍坂川姓氏錄ニ十市郡刑坂川ト即此、源ヲ十市郡栗原山ニ

發シ忍坂赤尾ノ諸村ヲ經、河合ニ至リ寺川ニ入ル。

迹、驚淵附瀧 天武天皇紀ニ白鳳八年帝幸泊瀬、迹、驚淵、上枕草子ニ轟瀧は、いかにかしまし

くおそろしからんと見ユ志ニ據ルニ長谷村ノ白川ニアリト云フ。

佐野津附三輪崎 三輪山ノ南ノ尾崎ニ山崎ト宇スル所アリ、舊跡幽考ニ三輪ヶ崎ハ三輪山

の南の尾崎にして長谷川なかれたり佐野のわたりもこゝに侍るとかやト即此、山崎ハ實  
ニ三輪山ノ岬ニシテ即チ三輪カ崎ナリ、佐野津ハ山崎ヨリ長谷川ヲ渡ル津頭ナリ、今尙飛  
石船繫松ノ名殘ヲ存セリ。

萬葉

くるしくも降り来る雨か神之崎

狭野のわたりに家もあらなくに

拾遺

駒とめて袖うちはらふかけもなし

さのゝわたりの雪のゆふくれ

草根

駒とめて船をやいそく末遠き

さのゝわたりにかゝるたひ人

神社

大神大物主神社 三輪山ニアリ、俗ニ三輪社、大神社ト稱ス延喜式ニ大神大物主神社 月次相嘗新ト見ユ當國一ノ宮ニシテ今官幣大社タリ

祭神 創立

大物主神ニ大己貴少彥名ノ二神ヲ配祀ス、事嘉祿二年十一月十六日社家大三輪氏ヨリ官家ニ注進セシ大三輪鎮座次第ニ詳カナリ、曰ク當社古來無寶殿唯有三箇鳥居而已、與津磐座大物主神、中津磐座大己貴命、邊津磐座少彥名命、蓋大己貴命之幸魂奇魂鎮座于當山是也此大三輪大物主神是也、腋上池心宮御宇天皇御世、神明憑吉足日命、曰吾國造大己貴命也太初己命之和魂取託八咫鏡名曰倭大物主櫛瓊玉命鎮座大三輪神奈備云々、令造瑞籬奉齋焉隨神托立瑞籬於大三輪山遣吉足日命、令崇齋大己貴命、大物主神詔吉足日命自今已後可爲宮能賣是神宮部造先祖也

前節ハ全篇ノ大綱ニシテ三神ヲ祭ルコトヲ記シ就中大物主神ハ其主神トシテ神代ヨリコ、ニ鎮座スルノ義ヲ示シタルニテ延喜式ナル出雲國造神賀詞ニ大己貴命ノ國土ヲ天孫ニ譲リ出雲ニ退キ皇室ヲ守護セント誓ヒ給ヒシ言ヲ載セテ大穴持命乃申玉久皇御孫命乃靜坐、大倭國申天己命和魂乎八咫鏡爾取託且倭大物主櫛瓊玉命登名乎稱天大御和乃神奈備爾坐……トアルニ符合セリ

後節ハ孝昭帝ノ世ニ神託ニヨリ大己貴命ヲ中津磐座ニ配祀セル由來ヲ記シタルナリ、

但此一節姓氏錄ニ符合ス、參考スヘシ、磯城瑞籬宮御宇天皇御世、疾疫有死亡於是天皇請罪神祇時大物主神憑倭迹々百襲姬命曰天皇何憂國不治是吾心也能敬祭吾者必當自平矣……天皇沐浴齋戒而祈之夢覺曰以太田々根子令祭吾則立平矣……求太田々根子於茅渟縣陶邑……爲祭大物主神主以太八十平盆令敬祭定神地神戶於是疾疫始息國內漸□五穀既成百姓饒之、每年首夏仲冬卯日祭起于此時詳日本紀

此一節ハ當社ノ官幣ニ預リ且卯日祭ノ起原ヲ記セルモノナリ、磐余甕栗宮御宇天皇勅大伴室屋大連奉幣帛於大三輪神社祈禱無皇子之儀時神明憑宮能賣曰天皇勿憂之何絕天津日嗣哉上古吾與少彥名命戮力一心所以經營天下其所以而今少彥名命來臨吾邊津磐座與吾及和魂共能可敬祭守皇孫濟人民矣於是立磐境崇祭少彥名命于時天皇元年冬十月乙卯日也仍鎮座次第如件十一月十六日夜勤作之

此一節ハ清寧天皇ノ御宇少彥名命ヲ邊津磐座ニ配祀ノ事歷ヲ記セルモノニシテ大三輪勘文ニ引ケル大神崇祕記元永二年從七位ニ邊宮在中磐座南無神殿有磐座稱邊津磐座□少彥名命也清寧天皇御世依神□令賀茂君荒少□命八世孫齋祠之ト見ユルニ符合ス

トアリ开モ我カ國古代ニ於テ分魂ノ說アリ分魂ハワケミタマト稱シ即チ人心ノ感動動靜ニヨリテ本身ノ外更ニ數箇ノ分身ヲ現ハスヲ云フ之ヲ大別シテ二トナス所謂和魂荒

魂是ナリ和魂ハ溫和ナル精魂ニシテ仁ニ比スヘク故ニ一ニ幸魂奇魂トモ稱ス荒魂ハ勇壯敢進ノ精魂ヲイヒ以テ武ニ比スヘシ故ニ軍旅ノ事ハ多ク之ヲ祈ル而シテ精魂ヨリ現ハレタル形體即チ分身ハ本身體即チ實ト相並ンテ事業ヲナシ且互ニ相語スルヲ得ヘキモノトセリ奇ト謂フヘシ或云フ此レ古代蒙昧ノ人類カ夢裡ニ印象セル傳説ナリト要スルニ此等ハ自ラ心理學上ノ疑問ニ屬スルヲ以テコ、ニ贅セス當社ノ主神タル大物主ハ大己貴命ノ和魂ヲ稱スル名ニシテ大國魂ハ即チ其荒魂ヲ稱スルナリ大己貴命和魂荒魂ノ作用ヲ以テ國土ヲ經營シ民産ヲ授ケ國家ニ大功績ヲ奏シ既ニ中洲ノ大部分ヲ所領シツツアリシヲ天孫降臨スルニ當リ更ニ之ヲ天孫ニ獻シ自ラ出雲ニ避ケントスルヤ其和魂ヲ大物主櫛咫玉ト稱シ三輪山ニ鎮座セシメ永ク帝室ヲ守護センコトヲ誓ヘ給ヘリ實ニ是レ當社ノ創始ナリ其後孝昭帝ノ世ニ至リ其本體タル大己貴命ヲ配祀シ爲メニ神宮部ヲ置キコレニ侍セシメタルモ未タ神主神地ヲ定ムルニ及ハサリシ然ルニ崇神帝ノ世ニ疾疫大ニ行ハレ人民多ク死亡ス帝以テ大物主ノ所爲トナシ其神裔ヲ覓メ神主トナシ同時ニ神地神戶ヲ定メラル清寧帝嗣ナシ大伴室屋ヲ遣ハシ之ヲ祈ラシメ神宮部ノ言ニ依リ少彥名命ヲモ配置ス是ニ至テ大三輪三座ノ稱起ル夫レ大物主神ハ少彥名命ト共ニ國家ヲ經營シ或ハ草萊ヲ拓キ稼穡ヲ教ヘ或ハ醫藥ヲ痢メ天疫ヲ濟ヒ或ハ山ヲ鑿チ川ヲ通シテ民居ヲ開キ其國家ニ大造アル載セテ方策ニアリ況ンヤ當社ハ帝室ノ守護トシテ自ラ其威靈ヲ留ル所ナレハ歷世ノ聖主臣民殊ニ之ヲ崇敬シ國中ノ大神トイヘハ問ハスシテ當社タルヲ知り遂ニ大神ノ字ニオホミワノ義訓ヲ附スルニ至レリ

社 殿

鎮座次第ニ當社古來無寶殿唯有三箇鳥居而已ト見エ今尙三輪山ヲ神體トナシ別ニ寶殿ノ設ケナシ崇神天皇紀ニ當社ニ行幸シ給ヘル時ノ御製ヲ載セウまさけのみわのとの、朝戸にも又宴于神宮……開神宮門而幸行ノ文字アリ所謂神宮ハ即チ拜殿ニシテ宴ヲコ、ニ設ケラレ後チ其神門今ノ鳥居門ノ類ナラシヲ開キ三輪山ニ幸シ給ヘルノ義ナレハ當時寶殿ナカリシコト明カナリ但出雲神賀詞ニ據ルニ八咫鏡ヲ大物主神ノ靈代トシテ鎮座セシメタレハ之ヲ覆フヘキ屋代ハ必ス在リツラント思ハルモ其在否記録ニ所見ナシ姑ク記シテ後考ヲ俟ツ但今ノ神門ヨリ二町許東ニ茶白山ト字スル所アリ有名ノ切子玉茶臼ニ稱スハ實ニ之ヨリ出ツ古來曲玉管玉石劍頭槌石等ノ發見スルコト往々ニシテ現ニ三輪町奥山氏祕藏ノ曲玉モ亦此處ヨリ發見セルモノト云フ其北ニ舊殿地ト稱スル處アリ興廢詳カナラスト雖疑クハ往時ノ拜殿コ、ニ在リシヲ後チ今ノ處ニ遷セシナラシカ日本記録ニ長保二年六月十六日御卜依大神社鳴動也七月十三日奉幣二十一社依大神社寶殿鳴動也有辭別ト此寶殿ハ拜殿ヲ尊稱セルモノナルヘシ而シテ建物ノ沿革詳カナラスト雖舊記ニ據ルニ文保元年造營アリテ足利氏ノ治世數度ノ修繕ヲ加ヘラレ文祿二年豐臣秀吉其弟秀長ヲ奉行ニ補シ修繕セシメシト云フ寛文三年幕府高取城主植村家吉ヲ奉行トナシ社殿及ヒ附屬ノ建物ヲ造替セシム即チ現在ノ拜殿ニシテ元祿元文ノ修繕ヲ閱シ來レルモノナリ

舊神官越氏記録享保中曰一人皇九十四代花園院御宇文保元年丁巳御造營有之棟札ニ有之

一尊氏公後孫相續度々御修覆有之一太閤秀吉公御代文祿二年癸未御修覆有之御普請奉行大和納言秀長公也一嚴有院殿御代寛文三年癸卯年御造營有之御普請奉行植村左衛門佐殿也棟札明甲辰年三月吉日也一常憲院殿御代元祿十六年極月ニ御修覆有之御見分として御出<sup>大石興右衛門殿</sup>鈴木修理殿……寛文三年ヨリ元祿十六年迄四十一年ニ成也江戸地震ニ付御修覆御延引被<sup>仰</sup>出今ニ御沙汰無之候

寛文造營ノ費額ハ奉行ヨリ神主ニ交附セシ決算書ニ詳カナリ其書社頭ニ亡ヒシモ載セテ高宮越公事覺書<sup>寛文五年</sup>ニアリ左ニ錄シテ參考ニ供ス

三輪御社御造營入用請取拂目録

一金貳千兩 請取之辻

内千九百五兩銀ニ兩替但壹兩ニ付五拾九匁壹分五厘五毛

此代銀百拾貳貫六百九拾目六厘

内之拂方

- 一銀四拾八貫五百九匁貳分 材木方ニ拂
- 一五貫五拾目 大鳥居 但柏
- 一三貫四百拾壹匁五分 二ノ鳥居 但柏木
- 一三百五匁三分 鐮初 入用
- 一三百七拾七匁 足代木ニ拂
- 一九貫九百三拾目 大工理兵衛ニ拂
- 一四百拾匁貳分 大工茂左衛門拂
- 一貳貫五百七拾八匁 木挽方ニ拂
- 一四貫四百貳匁九分 鍛冶方ニ拂
- 一九百六拾八匁 鐵金物拂
- 一五貫九拾參匁壹分三厘 檜皮方拂
- 一拾貫七百四拾三匁貳分 屋根方拂

- 一五貫五百三拾九匁貳分五厘 瓦方ニ拂<sup>但手間共</sup>
- 一壹貫五拾六匁九分八厘 竹方ニ拂
- 一四百七拾四匁貳分 繩方ニ拂
- 一八百三拾四匁三分五厘 壁方ニ拂
- 一壹貫四百八拾貳匁貳分五厘 石方ニ拂
- 一三百九拾六匁五分七厘 塗師方拂
- 一七百貳拾壹匁參分壹厘 疊方ニ拂
- 一五百八拾目三分貳厘 鍔金物ニ拂
- 一貳百拾五匁 みすの代
- 一七拾九匁五分 木口はりの代
- 一五拾壹匁八分 萬紙之代
- 銀ノ百拾貳貫六百參拾七匁五分貳厘
- 右拂殘<sup>金九拾五兩</sup>銀<sup>五拾貳匁五分四厘</sup>
- 一參百目 木之切賣申候代有銀也
- 一八拾目六分 齋者ニ拂
- 一百五拾目 古拜殿ニはし
- 一八拾四匁三分四厘 大工小屋年買米
- 一七拾九匁四匁 大工小屋損料
- 一貳百七拾目 佛師方ニ拂
- 一百六拾目九分壹厘 拜殿諸末社並棟
- 一貳百壹匁貳分 張付之代
- 一壹貫貳百四拾七匁七分五厘 小買物方ニ拂
- 一五貫貳百七拾九匁參分 日用方ニ拂
- 一壹貫拾四匁九分 上棟之入用

寛文四年甲辰三月  
高宮右京殿  
式上郡

植村右衛門佐内

村瀬 又右衛門

遠山 久太夫

其造營ノ規模ハ越氏記録享保中ニ據ルニ左ノ如シ。

大鳥居 尺高二丈三尺柱末口徑二尺二鳥居 尺高一丈六尺柱末口徑一尺

拜殿 間數四間大床、小組天井、千鳥、破唐破風、金物并三方五尺縁高欄、屋根檜皮葺、切通兩

方唐戸、三方遣戸、葎同上、西面九間之内障子

三ッ鳥居 扉、金物錠アリ、兩方玉垣北南九間彫物アリ、拜殿ヨリ鳥居ノ間左右ニ瑞籬二重

アリ

寶藏 二間四方扉二重屋根瓦葺

末社 大行事宮表行壹間奥行壹間半屋根板 神寶宮同上 天王宮表行三尺二寸奥行四寸屋根板 岩上宮同上 一夜酒

宮同上 花鎮宮表行貳間奥行壹間半屋根板 檜原拜殿表行五間奥行二間 神上宮表行三尺二寸奥行四寸屋根板 祓

所宮同上 御鈴宮同上

勅使屋表行五間奥行二間屋根とち 社家屋同上 御供所表行六間奥行四間屋根瓦 神拜所表行五間奥行三間半屋根瓦 樓門表行三

二階高欄二間屋根瓦 橋梁 淵ヶ橋長二間中一間半 三ノ橋同上 四辻橋一名繩かけはし二間中一間 御手洗橋 社參

橋長五間半中一間 下ノ橋一名盜人橋 一夜酒橋一名八橋長 かつか坂橋同上 大行事橋同上

社職

崇神帝七年大物主神ノ五世孫太田々根子神主ニ任セラレシヨリ子孫其職ヲ襲ヒ大三輪

公ノ氏姓ヲ負ヒ祭祀ヲ掌リ兼テ其族長タリ、大友主ハ中臣物部大伴ト相並ンテ仲哀神功

ノ際ニ大夫トナリ機務ニ參預シ功績國史ニ著ハル、宗族蕃衍分レテ三輪引田、宇多依田、真

髮田、賀茂等ノ數流トナリ門望甚隆シ、高市鷹ハ壬申ノ功臣ニシテ天武持統ノ二朝ニ歷任

シ嘗テ忠鯁ヲ以テ聞ユ、天武帝天下ノ氏姓ヲ八等ニ秩スルニ及ヒ大三輪氏朝臣ノ姓ヲ賜

ハレリ、子忍人ハ靈龜中氏上トナリ神主ニ補セラレ其子伊可保、父ノ職ヲ襲フ、天平寶字中

三輪山ニ奇藤アリ蟲食ミ自ラ文ヲナセリ以テ祥瑞トナシ伊可保ニ從四位下ヲ授ク、爾後

子孫連綿傳ヘテ勝房ニ至ル、勝房ハ神主綱房ノ子ニシテ正五位下左近將監タリ、此時ニ當

リ後醍醐帝武臣ノ跋扈ヲ震怒シ將ニ天誅ヲ加ヘントシテ却テ賊ノ爲メニ蒙塵シ給ヘリ、

勝房慨然衣冠ヲ投シ三輪城ニ據リ勤王ノ兵ヲ舉ク、毎ニ功效アリ、帝吉野ニ幸スルニ臨ミ

神主職ヲ長子元房ニ譲リ子弟宗族ヲ率キテ行在ニ宿衛シ後チ薙髮シテ西阿ト號ス、太平

記ニ勤王ノ士ヲ舉ケテ大和には三輪、西阿、眞木、寶珠丸……ト云ヒ又祇園執行日記抄ニ

正平七年宮方勢數輩討死……主上經奈良御下向大和三輪城之由有風聞云々ト其王室

ニ倚賴セララル、斯ノ如シ、元中年中南北ノ和成リ南帝北京ニ還御スルヤ四條三位資行日

野右少辨邦氏ノ二卿越智楠、和田、橋本及ヒ三輪左衛門尉名等ノ諸士ハ夙ニ見ル所アリテ

尙吉野ニ留リ天下ノ形勢ヲ觀セシカ北朝約ニ背キ後花園院ヲ立ツルニ及ヒ痛ク之ヲ憤

リ永享元年義兵ヲ大和紀伊ニ舉ケ恢復ヲ圖リシモ、北軍ニ敗ラレ四條日野ノ二卿、左衛門

尉等ハ多武峰ニ走ル、七年越智通賴再ヒ兵ヲ高取城ニ起スニ及ヒ左衛門尉等二卿ヲ擁シ

兵ヲ舉ケ高取城ト倚角ノ勢ヲナシ、永ク北軍ニ抗セシモ志ヲ得ル能ハスシテ多武峰ニ戰

沒ス、事十津川記ニ詳カナリ、宜シク參考スヘシ、大三輪氏一門南帝ニ勤仕シ宗族國難ニ殉

シ殆ント盡キタリト雖、遺藁ノ存スルモノアリテ其故地ヲ有テ地方ノ豪族タリ、伊賀國關

式 上郡

三五

岡家始末ニ永正七年筒井氏ト勢州ノ神戸氏ト合戦ノ事ヲ記シ其麾下ヲ擧ケタルニ三輪太郎左衛門尉同四郎依定ト見エ、又國民郷士記ニ高宮主水正大己貴方十一代大友主ノ孫氏中世以後主水ト通稱トスルモノ多シ系圖ニ據ルニ勝房ノ祖父充房ハ天文中ノ人ナレハ郷士記ニク之ヲ襲用ス勝房ノ子神主元房及ヒ宗房氏房等皆之ニ依レリ氏房ハ天文中ノ人ナレハ郷士記ニ載スル主水正ハ即ト即此舊神主高宮氏ハ其家名ヲ相續スルモノニシテ家ニ系圖一卷ヲナ氏房ナルヘシト

越本ト巨勢氏ニシテ武内宿禰ノ苗裔ナリ、宿禰ノ五男雄柄當國ノ巨勢ニ居ル、因テ巨勢雄柄宿禰ト稱ス、實ニ此巨勢氏ノ祖ナリ、雄柄ノ子孫ニ金岡アリ丹青ノ技ヲ以テ世ニ著ハル、孫金田故アリテ葛上郡巨勢ニ住ス、昌泰三年詔シテ巨勢公忠ヲ三輪ノ奉幣使トナシ且ツ永ク三輪ニ留メ勤仕セシメントス、公忠之ヲ辭シ族金田ヲ薦ム、是ニ於テ金田ヲ三輪ノ神殿預職ニ補シ永ク之ヲ勤仕セシム、子孫其職ヲ襲ヒ或ハ權神主ト稱シ高宮氏ト權力ヲ爭フニ至ル、巨勢光資ハ護良親王ニ從ヒ軍功アリ、親王母衣ヲ賜ヒ其功ヲ賞セラレシヲ後チ之ヲ社頭ニ奉納スト云フ、蓋シ是レ現今寶庫ニ藏スル有名ノ矢母衣ナルヘシ爾後巨勢氏專ラ干戈ニ從事シ城壘ヲ葛上郡巨勢ニ築キ國中ノ豪族ト相戦フコト數世、事系圖ニ詳カナルモ繁キニ依リ之ヲ略ス、宜ク本書ニ就テ見ルヘシ。

神戸

崇神帝七年神地神戸ヲ定メラレシコト國史ニ見ユルモ其位置戸數詳カナラス、天平二年大和國大稅帳ニ大神々戸、穀貳佰壹拾柒斛柒斗肆升貳合升斛別貳升、定貳佰壹拾參斛肆斗柒升貳合、替依稻貳仟壹佰參拾肆束漆把、顯稻壹仟柒佰捌拾五束玖把、租伍佰伍拾伍束壹

把、合肆仟肆佰柒拾伍束柒把、用肆佰伍拾陸束肆把祭神廿六束、神嘗酒料佰束、神田一町八段、種稻卅六束、祝部三人、食料二百八十四束、四把、殘肆仟壹拾玖束參把、新抄勅格符抄ニ大神々戸百六拾戶大和四十五戶、攝津廿五戶、遠江十月、美濃五十五戶、長門卅戶、天平神護元年九月八日符、大神々戸大和五戶、攝津五戶、已上本封之外トアリ、此レ天平大同ニ係ル現在ノ神戸ナリ、爾後ノ沿革文書ノ徵スヘキモノナシ、舊神官中井氏ノ記錄ニ據ルニ昔時ハ社頭二萬石ニ達シ神主ノ食祿五千石ナリシト云フ、後チ漸ク削減セラレ德川氏ニ至リ社頭僅ニ六拾石ヲ有スルノミ、其朱印配當目錄左ノ如シ但本書社頭ニ亡シ。

寬永十三年十一月九日

朱印

三輪社領六拾石配當之覺

一貳拾石	御供并祭禮修理料等	右社家
一貳拾石	神主	五兵衛
一貳拾石	總社人中	清三郎
一參石五斗	越半兵衛	勘三郎
一貳石貳斗	土屋權左衛門	五郎助
一貳石貳斗	糞倉八左衛門	久藏
一貳石貳斗	岡本勘左衛門	彌太郎

式部上郡

一七斗	長助	一壹斗八升	助右衛門
一七斗	三郎	一壹斗八升	彌七郎
右口保人分		右八乙女分	
一壹斗八升	甚五郎	一壹斗八升	小七郎
一壹斗八升	仁兵衛	一壹斗八升	源助
一壹斗八升	久右衛門	一壹斗八升	十右衛門
一壹斗八升	五兵衛	右神樂男分	
一壹斗八升	與左衛門		

右書付之通今度新令配分向後相守此旨不可有相違者也仍如件

寶文五年七月十八日

井河内 加々甲斐

奉幣

崇神帝即位八年高橋邑ノ人活日ヲ以テ大神ノ掌酒トナシ神主太田々根子ヲシテ之ヲ祭  
 ラシメ群臣ヲ率キテ幸行シ直會ヲ神宮ニ張リ君臣相唱和シ給フ。  
 崇神天皇紀曰八年四月以高橋邑人活日爲大神之掌人十二月天皇以太田々根子命令祭  
 大神是日活日自舉神酒獻天皇仍歌之曰許能瀨根破和餓瀨根那羅受柳磨等那瑠於朋望  
 能農之能介瀨之瀨根伊句臂佐々々々々如此歌之宴于神宮即宴竟之諸大夫等歌之曰宇  
 磨佐開瀨和能等能々阿佐始瑠毛伊弟由介那瀨和能等能波塙於是天皇歌曰宇磨佐階  
 瀨和能等能々阿佐始瑠毛於辭比羅箇瀨瀨和能等能塙即開神宮門而幸行之

雄略帝ノ世ニ身狹青等ガ吳國ヨリ將キ來ル衣縫ノ工女ヲ以テ當社ニ獻ル。

雄略天皇紀曰十二年四月身狹村主青與檜隈民使博德出使於吳十四年正月身狹村主青  
 等共吳國使將吳所獻手末才伎漢織吳織及衣縫兄媛弟媛泊於住吉津云々以衣縫兄媛弟  
 媛奉大三輪神

天平九年四月新羅禮ナシ朝廷使ヲ來タシ幣ヲ奉リ之ヲ告ク續日貞觀元年七月使ヲ諸社  
 本紀ニ立テ神寶幣帛ヲ奉ル從二位兵庫頭藤原口時當社ノ勅使タリ三代其他立使奉幣ノ事史  
 乘ニ見ユルモ繁キニ依リ之ヲ省ク。

攝未社

幸川坐大神御子神社 奈良町大字子守ニアリ。

葛城賀茂神社 葛上郡御所町ニアリ、今縣社タリ。

二社共ニ當社ノ別社タリ、故ニ嘉祿ノ鎮座次第ニ之ヲ別宮小社ノ部ニ收メタリ、祭神鎮  
 座ノ由來彼郡ノ下ニ詳カナリ、但幸川社ハ今尙攝社タリ。

若宮大直禰神社 大三輪氏ノ祖太田々根子ヲ祭ル、成務帝ノ御宇大三輪君大友主ノ御祀  
 スル所ナリ、鎮座次第ニ大直禰神社、太田々根子命也、大物主命五世孫日方命、武飯勝命、建  
 命、食立命、武飯片隅命之子、母美良媛、土佐賀茂部臣之女也、磯城瑞籬宮御宇七年十二月勅爲神

主、賜大三輪君氏、其子孫永任其職、志賀高穴穗宮御宇天皇御世、大三輪君大友主命依靈夢  
 立祠奉齋、ト即此當社ハ古來若宮ト稱シ攝末社中最崇敬セラレシモノニシテ僧慶圓社  
 地ニ就キ堂塔ヲ創立シ本地佛トシテ觀音ヲ安置シ之ヲ大御輪寺ト稱ス、徳川氏ニ至リ



社領三十五石ヲ寄附セラレ、朱印左ノ如シ。但原書社領ニ亡シ蓋大御輪寺廢絶ノ際紛失セシナラシ三輪若宮領大和國廣瀨郡大塚村之内貳拾四石同池尻村之内拾壹石都合三拾五石之事如前々寄附之訖、社納永不可有相違者可抽國家安全之情誠之狀如件

寛永十三年十一月九日

狹井坐大神荒魂神社 本社ノ北狹井川ノ南ニアリ、俗ニ華鎮社又シづめの宮ト稱ス、華鎮

ハ其祭儀ヲ鎮華ト稱スルニ因リ、しづめハ即チハなしづめノ略稱ナリ、延喜式ニ狹井坐大神荒魂神社五座、初見エ、大國魂中、大物主左、姫踏躰五十鈴、姫右勢夜多々良、姫ノ左事代主ノ右、三ノ五神ヲ祭リ、氏次大倭注進狀、越垂仁帝ノ御宇、淳名城稚姫命勅ヲ奉シテ創祀スル所ナリ、古ハ山邊郡大和社ノ別宮ニ屬シ、大和氏之レカ祝部タリ、故ニ創立祭神ノ事彼社ノ注進狀ニ詳カナリ、曰ク

別社狹井神社在大和國城上郡 傳聞狹井神者大己貴命之荒魂、大國魂神、即當社、別宮也、日本書紀曰倭大神著穗積臣云々、因以命淳名城稚姫命、定神地於穴磯邑、祠於大市、長岡岬、所謂大市長岡岬、今狹井社地是也

相殿

大物主神

姫踏躰五十鈴命

勢夜多々良比賣

古事記三島湟咋之女、名勢夜多々良比賣、津杵姫、攝津國島下郡湟咋神社一座、神名帳其容姿麗美、故美

和之大物主神娶、其人生子名謂比賣多々良伊須々、餘理比賣、故謂大神御子也、其伊須々餘理比賣之家、在狹井川之上、神倭伊波禮毘古天皇幸行比賣之許、一宿御寢坐、然後參入宮内、阿禮坐御子名神沼河耳命、天孫神名帳曰大和國添上郡率川坐大神御子神社三座事代主神

トアルニテ明カナレトモ、其當社ノ所管ニ屬セシハ何レノ時代ナルヲ詳カニセス、鎮座次第ニ載スル別宮小社ヲ閱スルモ、葛城賀茂春日三枝、大直禰三穗、曾富止、五府ノ六社ヲ載スルモ、狹井社所見ナシ、但五府社ノ事ヲ記シテ、五府神社有大市邑、大倭天日事振魂命、天道本聖性命、天氣壽根靈命、天風表道精命、天人體振魂命也、各高皇產靈尊之子、主五臟肝心脾五穴、目耳口之事、○有大市邑以下十一字、越氏藏ト云ヘリ、今大神社ノ攝社ニ五府社ト稱スルモノナシ、然ルニ大神分身類社鈔ニ

狹井神社五座、城上郡神名帳云狹井座大神荒魂神社五座

一座 大國魂命 火德神

二座 大物主命 木德神

三座 顯國玉命 水德神

四座 葦原醜男命 金德神

五座 大國主命 土德神

加祭神一座 勢夜多々良姫命

加祭神一座 積葉八重事代主命

加祭神一座 姫踏躰五十鈴姫命

加祭神一座 三島溝織女

垂仁天皇御宇、依神託造營神社於大市長岡岬、以天津日玉串嚴平矛爲神體、號曰狹井神社、亦五座所祭神、准心肝腎肺脾五臟神、稱云五世王子

式上郡

ト見ユ祭神ハ大倭注進狀越氏記録ニ少カ相違アルモ其創祀ヲ垂仁帝ノ御宇ニ係ケ五座ノ神靈ヲ人體ノ五臟ニ準シ鎮祭スルニ依リ之ヲ五世王子ト號スト云ハルハ正ニ是レ三輪ノ神官相承ノ傳説ナルヘシ果シテ然ラハ鎮座次第ニ所謂五府社ハ即チ狹井社ノ別名ナルコト自ラ明ナリ五府ハ五臟府ニシテ五世ハ其轉訛ナラン古來當社ニ疾疫ヲ遏鎮スル所ト稱シ毎年鎮華祭ヲ行ハセラルハ亦偶然ニアラサルナリ

鎮華祭

延喜

一華鎮トモ稱ス養老令ニ季春鎮華祭ハナシツノ義解ニ謂フ大神狹井ノ二祭也在ニ春華飛散之時疫神延喜式ニ三月鎮花祭二座狹井社一坐付祝等令供祭又曰不定日者臨時擇日祭之大神祝部者大倭直等也ト見ユル如ク春華飛散ノ頃疫病流行スルニ依リ之ヲ鎮遏セシカ爲メ毎歲季春ヲ以テ二神ヲ慰メ祭ル故ニ鎮華祭ト名ケタルモノニシテ當社ヲ華鎮社又シツメ宮ト字シ古來病疫流行スル毎ニ遠近來リ禱ルハ實ニ此祭事ニ基ケルモノナリト云フ而シテ鎮座次第ニ此祭自大寶元年而始矣トアリテ大寶創始ヨリ爾後恒例トナリ延曆廿年ニ至リ特ニ官符ヲ以テ此祭禮ヲ闕息スル者ハ中祓科物ヲ科スルノ制ヲ定メラル事類聚三代格ニ詳カナリ其之ヲ重ンセラル斯ノ如クナリシモ中世禮典弛廢シ古代ノ祭式傳ハラスト雖今尙陰曆三月十八日ヲ以テ華鎮ノ祭日トナシ其神饌ニ百合忍冬ノ藥草ヲ加フルハ蓋シ舊式ノ殘レルモノナルヘシ

神 戸

天平二年大和國大稅帳曰佐爲神戶穀壹拾參斛五斗貳升貳斗陸升定壹拾參斛貳斗

伍升參合替依稻壹佰參拾貳束伍把半額稻壹佰肆拾陸束柒把租參拾束合參佰玖束貳把半用肆束祭神殘參佰伍束貳把半新抄勅格符抄曰佐爲神二戸大和

岩倉神社

三輪御社獨案内越氏藏本社より壹町北ニ在トアルヲ越氏藏三輪社記ニ石神

皇后神社三穗津姬命神主高宮同藏享保記録ニハ岩上宮表行三尺二寸所祭神一座三

津穗姬命ト見エ一ニ岩上社皇社トモ稱セラレ即チ大物主命ノ配三穗津姬命ヲ祭ル故

ニ古ハ三穗神社ト稱セリ鎮座次第別宮小ニ三穗神社三穗津姬立社奉齋ト以テ證スヘシ

三穗津姬一ニ石椋妣ト稱ス葛上郡石椋妣社岩倉ノ社名コレニ因レルノミ三輪御社獨案

内及ヒ其挿圖越氏享保記録ニ據ルニ山内字大黒谷ニアリテ一夜酒社ヨリ狹井社マテノ

間ニ貴船社ト稱スルモノ即チ岩倉社ナリ

曾富止神社 異本鎮座次第別宮小ニ曾富止神社久延彦命立社奉齋トアレトモ其在所ヲ記

セス越氏三輪社記ニ鳴宮久延彦ト見ユレハ中世鳴宮ト稱セラル鳴宮ノ事記録ニ所見ナ

シ同氏享保記録ニ御鈴宮表行三尺二寸トアリ鈴ハ鳴ヲ主トナス鳴宮御鈴宮義ニ於

テ異ナルナシ疑クハ同所ナルヘシ

大行事神社 三輪ノ上市ニアリ舊説ニ當社ハ大物主ノ太郎王子ニシテ世人ノ善惡ヲ幽冥

ノ間ニ成敗スルヲ掌ル故ニ大行事ト稱スト往時ハ盛大ナル社頭ニシテ規模亦宏ニ一ノ

鳥居ハ遠ク數丁ノ外即チ大道ニ在リシハ平等寺藏三輪山古圖ヲ案シテ知ル事ヲ得ヘシ

祭神ハ越氏三輪社記ニ大行事社ハ尋熊罴神左事代主神中賀夜奈流美神右〇同氏享保

アリ創祀詳カナラサルモ三輪ノ惠比須ハ當社ヨリ勸請スル所ト稱シ今尙彼社ノ祭日ニ

ハ先ツ當社ニ奉饌ノ儀アリ但天正二十年ノ三輪山假名縁起ニハ當社ヲ以テ御子宮トス

御子宮神社 ルハ謬レリ。 みこのみやニアリ、西村氏舊藏三輪山古圖ニハ神子宮ニ作レリ、延喜名神式ニ神

坐日向神社 新大月次同察式ニ大神夏祭料 緋帛二丈 日向王子帶 トアルハ當社ナル

ヘシ、元要記ニ日向社第一王子天日方寄日方命ト見ユ、即チ大物主ノ子天日方命ヲ祭レリ、神子宮ノ稱蓋コ、ニ因レリ、但大神崇祕書大神分身類社鈔ニハ高峰社ヲ以テ式内日向社トナセリ。

高峰神社 ニカウノミヤカウノミヤ 一高宮上宮又神峰社ト稱ス、三輪山ノ絶頂ニアリ、大神崇祕書ニ高宮亦曰上宮在

三輪山峯青垣山無神殿有神杉稱奥杉是也、神名帳云大神坐日向神社一座、一所日本大國主

命也、孝昭天皇御宇御鎮座也、天皇元年四月何日卯前夜半峯古大杉上有如日輪之火氣放光

照山、其曉神天降宮女託宣謂我日本大國主命也、今遷來此國也、令山田吉川比古奉崇祕我廣

前云、天皇依御託宣勅吉川比古命 川久延彦命八世孫 定高宮、神主分身類社鈔ニ三輪上神社

一座 社名帳云神坐日向神 日本大國主命、神體杉木、孝昭天皇御宇來臨于此處焉トアリ之ニ據

レハ當社ハ式内日向社ニシテ孝昭帝神託ニ依リ吉川比古ニ勅シ大和國主神ノ靈ヲ山

頂ノ古杉ニ憑ケ奉祠セシメタルモノナリ、案スルニ此事跡ハ恐クハ本社中津磐座大己貴

命ノ創祀ニ係ル由來ト混淆セルモノナランカ、中津磐座ハ孝昭帝ノ御宇大己貴ノ神託ニ

依リ吉足日ヲシテ創祀セシムル所ニシテ事上ニ引ケル鎮座次第及ヒ姓氏錄ニ見エタリ、

同時ニ大國主命ヲ山上ニ祭ラシムルト云フ、少カ疑ナキニアラス、然レトモ古ハ同一ノ神

ニシテ異名ノ靈ヲ以テ別ニ祭祀セラル、モノナキニアラサレハ倘クハ大己貴命、中津磐

座ニ祭ラル、ト同時ニ大和大國主ノ名ヲ以テ更ニ山頂ニ祭ラレタルモノナランモ知ル

ヘカラス、姑ク記シテ後考ヲ俟ツ、但當社ヲ式内日向社ナリトスルハ恐クハ非ナリ、上ニ引

ケル延喜四時式元要記ヲ以テ證スヘシ、若シ高峯ノ大國主命果シテ日向社ナランニハ之

ヲ王子ト稱スヘキ理ナカルヘシ。

檜原神社 本社ヨリ北八丁許ニアリ、祭神ハ越氏三輪社記ニ檜原天照大神若御魂神 〇同氏

録ニハ天照若御魂伊弉諾尊伊弉册尊大賀茂氏神主ト見エ、天照若御魂神ニ諸册二神ヲ配

祀ス、創始詳カナラス、舊跡幽考ニハ豐受大神ノ暫時鎮座シ給ヘル舊跡ト云ヒ土人ハ倭磯

城笠縫邑ト稱シ、豐鍬入姫天照大神ノ爲メニ神籬ヲ立テシ處ナリト傳フルモ記録ノ徵ス

ヘキナシ、但三輪御社獨案内ニハ日原社慶長年中ニ天照大神此所に御鎮座有し所なり荒

木田神主奉迎之トアリテ創祀ヲ慶長年中ニ係ルモ當社ハ平等寺藏三輪山古圖ヲ案スル

ニ慶長ノ創始ニアラス、荒木田氏ノ勸請セシ天照大神ハ當社ノ末社ナリシヲ本末相謬リ

斯ク傳ヘシモノナルヘク將タ天照大神ヲ境内ニ勸請セシハ此地古ノ笠縫邑ナリト云ヘ

ル傳説ニ本ツケルナラン。

創祀ノ事ハ暫ク措キ昔時ハ盛ナル社頭ニシテ古圖ヲ案スルニ亦檜原山ヲ神體トナシ

別ニ寶殿ヲ設ケス、三箇鳥居門 輪形 三ヲ構ヒ之レニ拜殿ヲ建テ石壇ノ下ニ左右末社 天照大

神アリ御供所アリ、二鳥居アリ馬場遠ク大道ニ接シ、一鳥居ハ遙カニ大神社ノ大鳥居ト相

並ヘリ、以テ其規模ヲ想見スヘシ、古老云フ神主大鴨氏十市遠忠ノ兵亂ニ没落シ今箸中ノ

東北ニ屋敷跡ヲ存スト、社頭ノ興廢詳カナラス、寛文四年七月三輪社家越半兵カ神主高宮



我庵は三輪の山もと戀しくは  
ともなひ來ませ杉立てる門

續後撰

御注連ひき三輪の杉むら古にけり

矢母衣ヤモロ 當社寶物中ニ矢母衣ト稱スルモノアリ、由來詳カナラス、社傳ニ備前岡山ノ儒臣

熊澤了介ノ奉納スル所ト云フモ據ナシ、越氏系圖巨勢光資ノ下ニ奉、屬大塔宮護良親王

有、戰功仍御感之餘、御母衣一筒被下置、雖然存恐、以御母衣、三輪社奉納之ト見ユ、此レ矢母

衣ヲ謂ヘルモノニシテ之ニ據レハ本ト大塔宮ノ光資ニ賜フ所ノ者ナリ。

平等寺 山内ニアリ、玄寶僧都ノ本願ニ成レリ、七大寺巡禮記ニ平等寺、本尊阿彌陀、本願、玄

寶僧都、眞言開闢、小野良融上人也、件、三尊、定貞作ト即此、本ト三輪社ノ本地堂トシテ創立

スル所ナリ、故ニ古來神宮寺ト號シ、社務ニ預ル、徳川氏寺領八十石ヲ寄ス、當時大智院、中

之坊、常樂院、桂林院、多樂院ノ坊舍アリ、維新ノ際、寺僧還俗シテ社頭ニ出仕セリ、今ハ建物

撤却シ僅ニ其礎ヲ存スルノミ、平等寺藏三輪山古圖ハ塔中多樂院寶庫所納ノモノ、今ハ建物

シニシテ三百餘年以前ノ物ト云フ、又明治二十五年十二月織田村大字茅原ノ西村氏ノ

社頭ニ寄附セラレシ、古圖ハ平等寺ノモノニ比スルニ一層古キヲ覺フ、二者對照セハ社

寺ノ位置及名勝舊跡等歷々指掌スヘシ。

空師坐兵主神社 經向村大字穴師ニアリ、延喜神名帳ニ穴師坐兵主神社名神大月次ト見エ

古ハ名神大社ニシテ月次相嘗新嘗ノ官幣ニ預レリ、今郷社タリ、但從來穴師社ト稱スルモ

ノニ兩社アリ、一ハ上社ト稱シ、本弓槻嶽ニアリ、志ニ之ヲ以テ穴師大兵主社トスルハ誤レ

リ、弓槻ノ上社ハ即チ名神大社ノ穴師坐兵主神社ナリ、一ハ下社ト稱シ、今ノ穴師坐兵主社

ノ地ニ在リシモノ是即チ穴師大兵主神ナリ、然ルニ應仁ノ亂ニ弓槻ノ上社即チ穴師坐燒

失後其神體ヲ下社ナル大兵主社ノ相殿ニ遷シ祀リシヨリ遂ニ下社ヲ穴師坐兵主神社ト

稱シ來リ以テ現今ノ如クナレルモノナリ、事下ニ詳カナリ。

祭神 創始

兵主神ヲ祭ル、兵主ハ史記封禪書ニ、八神、一曰天王、二曰地主、三曰兵主云々トアリテ、本ト漢

語ヲ以テ神名トナセルモノ兩師社、龍穴社、河伯ナレハ宜ク舊訓ニ仍リ、ヘウズト讀ムヘシ、

然ルニ維新後之ヲツハモノヌシト訓スルハ杜撰ノ甚キモノナリ、而シテ兵主ハ何神ノ別

名ナルヲ知ラス、社傳及ヒ神祇正宗ニ大國主神ト稱シ、神名帳考證ニハ素戔鳴命ナリト云

ヒ、元要記ニハ穴師坐兵主神社三所、天富貴命、健御名方命、廣田大明神ト見エ、孰カ是ナルヲ

知ラサリシカ、頃日大倭社注進狀裏書ヲ閱シ、嘗テ不明ニ屬セル當社ノ祭神及ヒ之ニ係ル

事跡ヲ知り得タリ、此裏書ナルモノハ本大倭社祝大倭歲繁ノ自筆ニ係リ、應永中牟佐社禰

宜宮道述之ヲ寫シ、後チ寶永中南都ノ人今出川、上司ノ二氏轉寫スル所ナリ、獨リ當社ノ

事跡ヲ知り得ルノミナラス、古史ノ缺文ヲ補フニ足ルヘキモノ且他ニ類本ナキヲ以テ繁

冗ヲ厭ハス左ニ其全文ヲ掲ク。

大倭社注進狀裏書

式 上 郡

四九

齋部氏家牒

天地初發之初於天中成出神申天御中主神其御子申高御產靈神次申神御產靈神次申津速

產靈神高御產靈神子申天思兼命次申天太玉命次申櫛明玉命次申栲幡千千姬命天思金命子申天手力男命阿智遠祖神天太玉命子申天鈿女命猿女君遠祖次申天富國太命齋部遠祖櫛明玉命子申天明玉命玉作遠祖

神御產靈神命其申止賣命遠祖津速產靈神子申與口產靈命其子申天子屋根命中臣遠祖

天地初判之時伊弉諾伊弉册神二神爲夫婦生日神亦曰天照大神次生月神亦曰月讀神二神天地照臨故天上送昇給次生素戔男神此神心暴惡故根國追逐給然天照大神奉相見而天昇之時櫛明玉命入坂瓊之曲玉獻上受而天照大神獻上然天照大神有濁心而不相見言語素戔男神約誓而曰吾者有濁心生女有清心生男而八坂瓊之曲玉天眞名井振濯佐加美仁食吹棄氣吹之中成出神申天忍穗耳命天照大神清心感天忍穗耳命子孫也

其後素戔男命天津罪行而無道故天照大神怒于石窟幽居而石戶閉給天地常闇成晝不知八十萬神等愁迷天思金神深慮使石凝止賣命作八咫鏡天明玉命作八坂瓊之曲玉天子屋根命五百箇眞坂木根起而上枝懸玉中枝懸鏡下枝懸青和幣白和幣天太玉命捧持稱申天子屋根命命相副祈禱申天鈿女命眞佐木爲鬘日羅葛爲櫛小竹飲穗葉爲草鐸付之矛持而伏槽庭火燃踏響神懸佛優歌舞又石凝止賣命鑄日像鏡初鑄少不意是木國日前神次鑄其象美麗是伊勢

天照大神也天太玉命捧持而此寶鏡者明麗恰如汝神御戶開而御覽稱辭申天子屋根命其祈禱申于時天照大神少開戶而御覽給天手力男命石戶引開奉出時天子屋根命天太玉命斯利久女繩廻懸請申又還幽給勿仍罪乎素戔男神歸千座置戶科世且首髮手足爪爲贖物而天子屋命青和幣白和幣以天津太告刀乃利天除而諸神追降給素戔男命天上與利降到出雲國日川上十握劍以斬大蛇給草薙劍尾中取天金口根命乎使獻上後奇稻田姬爲夫婦生大己貴命終入根國給

天照大神栲幡千千姬乎天忍穗耳命爲妃而生天津彥瓊々杵尊天照大神高皇產靈神皇孫命崇養而勅曰豐葦原瑞寶國者吾子孫可主之地也皇孫降而安國可治天津日嗣天地無窮以八咫鏡草薙劍授賜而永爲天璽亦此寶鏡吾如見床同殿共爲齋鏡才玉自從仍天子屋根命天太玉命天鈿賣命配侍志无皇孫命天石座押放天八重雲押分伊豆乃道分々々天降日向國高穗峰爾到給山祇之女木花開耶姬爲妃生彥火々出見命此命海神之女豐玉姬爲妃生彥波瀲命此命從母玉依姬爲妃生神倭伊波禮彥天皇々々帝宅倭畝傍山東南立天太玉命孫天富貴命天富國齋部諸氏人等率而以齋斧山間之材切以齋鉏榎原之地堀而下津磐根宮柱太敷立高天原千木高知皇御孫命瑞御舍造奉仕天富貴命天璽鏡劍持捧正殿奉安又八尺瓊御吹玉御須丸懸幣物積置大殿祭祝詞申次宮門祭祝詞申天子屋根命孫天種子命天神壽詞奏申又天津罪國津罪千座置戶科世天祓申清申此時神與皇殿共床同御座故神物皇物不分宮內藏立申齋藏天富貴命其藏物出入事奉仕自其子孫永奉仕又天太玉命社安房國立申安房社天鈿賣命子猿女命奏神樂永子孫女等神樂奉仕

御間城入彦天皇御世測神威畏給而天富貴命六世孫玉櫛命命子狹石凝姥命八世孫羸津足命命子足天目一箇命八世孫國振立命命子國振勅更鑄八咫鏡造八束劍為守身御璽是至今天

津日嗣高坐即之日所獻神璽鏡劍是也於倭磯城笠縫邑神籬立天照大神八咫鏡草薙劍三種神器自奉遷使皇女豐鍬入姬命奉齋也

活目入彦天皇御世及其祠伊勢度會五十鈴川上立皇女倭姬命奉齋于時天子屋根命太玉命相殿祀祭其後豐受大神外宮奉齋之時兩神奉遷今者外宮相殿御座

豐御食炊屋姬天皇御世詔豐聰耳太子曾我馬子大臣令撰先代舊事本紀之時玉櫛命九世孫子麻呂承命獻家記祝詞等蒙寵冠位小智給奉仕齋部藏出納職仍負齋部首氏姓

天萬豐日天皇御世子麻呂男作加斯為神宮以冠位小花下給令主夏冬御卜事自此御世始焉天淳中原天皇御世作加斯三世孫弟色夫知賜姓齋部連首中臣大島連等奉勅撰錄禊田阿禮所語之古事今古事記是也阿禮者宇治土公庶流天鈿女命之末葉也

高天原廣野天皇踐祚之日色夫智上神璽鏡劍於天皇中臣朝臣大島奏天神壽詞是神代舊事之類永為例載令

右者穴師神主藏卷也間文字蟲食有漏落任本紙書寫之系圖補任帳在別卷

穴師神主齋部氏 姓氏錄曰穴師神主天富貴命之五世孫古佐麻豆知之後也

齋部禊詞 穴師神主藏本

高天原仁神留坐須皇親神漏伎神漏美之命乎以天皇御孫之命天津璽乃鏡劍乎捧持賜天言壽宜志久我皇宇都御子皇御孫之命傳口此乃高御座爾坐天天津日嗣乎萬千秋乃長秋爾大八

洲豐葦原瑞穗之國乎安國止平氣久所知食止言寄奉給比底天津御量乎以底言問志磐根本乃立草能垣葉乎母言止天降利賜比志食國乃天下乃天津日嗣所知食須皇御孫之命乃御殿乎大峽小峽爾立留木乎齋部乃齋斧乎以天伐本末乎波山神爾獻利祭氏中間乎持出來天齋鋤乎以天齋柱乎立天皇御孫之命乃天乃御蔭日乃御蔭止造仕奉禮留美介乃御舍乎汝屋船命爾天津奇護言乎以天言壽鎮白久此傳口敷坐大宮地波底津磐根乃極美下津綱根波府虫能禍無久高天原波青雲乃霺久極美天乃血垂飛鳥乃禍無掘堅多留柱桁梁戶牖乃錯比動鳴事無久引結幣魯葛目能緩比取葺計魯草乃噪取拔事無久御床都比能佐夜伎夜女乃伊須々伎伊豆都志伎事無久平氣久安氣久奉護留神御名乎白久屋船久々乃遲命屋船豐宇氣姬命御名乎波奉稱利底皇御孫之命乃御世乎堅磐乃常磐爾奉護利五十榎御世乃田永乃御世止奉福爾依天齋玉作等我持齋波利持淨麻波利造仕禮留瑞八尺瓊乃御吹五百都御統乃玉爾

青和幣白和幣乎附氣天齋部弱肩爾太手次取懸底言壽伎鎮奉事乃漏落武事乎波神直日大直日爾聞直志見直志天平氣久安氣久所知食止辭々竟奉久止白久

詞別白久大宮賣命止御名乎申事波皇御孫之命乃同殿乃裏爾塞坐氏參入罷出人乃選比所知志神等乃伊須呂許比阿比比坐乎言直志和志坐氏皇御孫之命朝乃御食夕乃御食供奉流比禮懸伴緒手次懸伴緒乎手躡足躡不令為氏諸臣等乎已古登不令在邪意穢心無久宮進米進米宮勤爾勤志米天咎過在乎波神直日爾大直日聞直志見直志座天平良氣久安良氣久令仕奉賜爾依天大宮賣命止御名乎稱辭竟奉久止白寸

以上大殿祭祝詞

櫛磐間戸命豐磐間戸命止御名乎申事波四方内外御門爾湯津磐村乃如久塞坐天四方四角與利疎備荒備來武天麻我都比止云武惡事爾相爾相口會賜事無久自上往波上護利自下往波下護利待防拂却言排坐天朝波開門夕波閉門天參入罷出人名乎問所知志谷過在平波神直日爾大直日爾聞直志見直志坐互平良氣久令仕奉賜爾依天櫛磐間戸命豐磐間戸命止御名乎稱竟奉久止白寸

以上御門祭祝詞

延喜式所載大殿祭御門祭祝詞有相違仍筆記之者也

穴師神社

上社 社傳曰上社者御食津神也神體日矛、神名帳云大和國城上郡穴師坐兵主神社一座

名神大月次相嘗新嘗

下社 社傳曰下社天細女命也神體著鈴之矛也兩社共神體爲矛故云兵主神亦天細女命始

作笛吹之其神鎮座之地仍云穴師 神名帳云穴師大兵主神社一座案古語拾遺云天細女

命手持著鐸古語佐之矛而於石窟戸前俳優歌舞倭名類聚鈔云鐸今之鈴須和名

鏡作神社三座 神名帳云大和國城下郡鏡作坐天照御魂神社一座大月次社傳云中座天照

大神之御魂也傳聞崇神天皇六年九月三日於是地改鑄日御象之鏡爲天照大神之御魂今

之內侍所神鏡即當社其像鏡奉齋爾來號其地曰鏡作

神名帳云左座麻氣神者天糠戸神大山祇之子也此神鑄作日之御像鏡今伊勢崇秘大神也

按反齋部家牒古語拾遺與神代卷符合 右座伊多神者石凝姥命天糠戸命之子也此神鑄作日象之鏡今紀伊國

日前神是也

傳聞我祖椎根津彥命遊行在難波以釣魚爲樂或夜望海原時天漢以光華照臨海原椎根津彥命怪之到其處有磐樟檣船順流採之居其濱及明夜亦光華照其濱於是椎根津彥命立宮代於武庫濱藏磐樟檣船爲蛭兒神體奉齋焉廣田西宮三郎殿是也亦與夷者椎根津彥命也此命彥火々出見尊孫武位起命子速神日本磐余彥天皇東征之年延引皇舟表績香山之巔仍爲大倭國造即大和直

右大倭神社註進狀并率川神社裏書者大倭直盛繁自筆拜見之即座寫書之大倭直盛繁者後鳥羽院御宇之人也文字抵悟所不知淺學任本紙動幹墨望後學之正

應永二十九年仲春二十九日

宮道述之

去冬得大倭神社註進狀并率川神社裏書是大倭直盛繁所纂記而引國史家牒顯神社之根源載古老口傳明神道奧秘蓋盛繁爲神學致知之人尤可謂希書染惡筆流萬葉者也

于時寶永丙戌改曆元三

今出川若殿

右一卷先得拔書今更本備用書寫

修理權亮紀延親

トアリ此レ神主齋部氏今絶ニ係ル事跡ヲ主トシ記載セルモノナレトモ因リテ以テ當社ノ祭神及ヒ鏡作社ニ於ケル事跡ヲモ知リ得ヘシ今其傳説ニ據レハ穴師社ニ上下二社アリテ上社ハ穴師坐兵主ト云ヒ下社ハ穴師大兵主ト云ヒ通シテ之ヲ穴師社ト稱セリ而シテ現今ノ社地ハ所謂下社ニシテ上社ハ弓槻嶽ニアリシヲ戰國ノ際社頭衰頽スルニ及ヒ其神體ヲ下社ニ合祀セシニヨリ上下相混シ遂ニ弓槻嶽ノ社趾ヲ以テ大兵主社地



ト誤傳スルニ至レルナリ天明二年ノ穴師神社由來書ニ穴師大明神之儀往古者卷向上下之社ト申兵主御神與奉稱候御事……人王百三代嘉吉年中應仁兵亂ニ國中騷動記錄神寶等迄燒失仕候而今穴師社者下社ニ御座候上之宮御神體ヲ相殿ニ祠故ニ本社御殿三社ナリト以テ證スヘシ然ルニ志ニ大兵主社ヲ弓槻嶽ニ在リト云ヘルハ非ナリ當社ノ御食津神ヲ祭レルハ既ニ大倭注進狀裏書ノ社傳ニテ明カナルモ尙之ヲ確メンカ爲メ左ノ憑據ヲ示スヘシ

大倭本記釋日本紀所引曰天皇尊之始天降來之時共副護齋鏡三面子鈴……鏡及子鈴者天皇御食津神朝夕御食日夜護齋奉大神今卷向穴師社宮處坐解祭大神也

大和小鏡寶曆中著式下郡唐古中氏藏曰穴師大明神御氣津神社鳥居泊瀬海道ニ有社頭遙山中也

其言フ所正ニ社傳ト相合フ但大倭本記ニハ鏡鈴ヲ以テ穴師社ノ神體トスルモ社傳ニハ矛ヲ以テスト云ヘリ要スルニ鈴鏡ヲ著ケタル所謂日矛ヲ以テ御食津神ノ靈代トナシ大兵主社ハ鐸ヲ著ケタル矛ヲ以テ天鈿女神ノ靈代トナシ共ニ矛ヲ以テセシヨリ兵主ノ社名ヲ得タルモノナリ

創祀ノ時代記錄ノ徵スヘキナシ元要記ニ崇神天皇六十年大和國城上郡纏向穴師山爾大和姬命穴師兵主明神祝玉彼祭葛結頭懸歌舞給七月十一日祭也崇神天皇御娘大和姬命歌舞遺法也……ト見ユ案スルニ大和姬命ハ崇神帝ノ皇女千々衝倭姬命ナルヘシ果シテ然ラハ崇神帝六十年千々衝倭姬ノ創祀スル所ナリ姑ク記シテ後考ヲ俟ツ

神 戸

天平二年大和國大稅帳曰穴師神戶稻壹阡參伍束捌把租壹佰參拾束貳把合壹千肆百參拾陸束用漆拾肆束祭神二十二束神嘗酒料五十束殘壹千參佰陸拾貳束

新抄勅格符抄曰穴師神五十二戶大和五戶和泉八戶播磨廿九戶

右神戶五十二戶ノ内和泉ニ在ルモノハ當社ヲ勸請シテ之ヲ祭レリ延喜神名帳ニ所謂和泉穴師社是ナリ其播磨ニ於テハ之ヲ穴師里ト稱ス播磨風土記ニ飭磨郡穴師里土中稱穴師者倭穴无神々戶託仕奉故號穴師ト即此

雜 事

穴師神社由來書曰

一穴師大明神之儀往古者卷向上下之社ト申兵主御神與奉稱候事

一人王拾壹代 垂仁天皇御宇

一人王五拾九代 宇多天皇御宇

一人王六十代 醍醐天皇御宇

每月朔日八日十三日ヲ以テ祭日ト定別而正月十三日ニハ莊嚴ト申郷中之老長ヨリ神拜之儀式執行以官名ヲも定ル事

一人王百三代嘉吉年中應仁ノ兵亂ニ國中騷動記錄神寶等迄燒失仕候而今穴師社者下社ニ御座候上之宮御神體ヲ相殿ニ祠ル故に本社御殿三社ナリ卷内一社ハ卷向社ナリ

一郷中村々老長ト申宮座之者數多御座候正五九月八日ニハ明神講正月十三日神拜祭禮等相勤申候尤右正五九月八日ニハ宮方修覆井山方井手川之相談迄モ相定老長年

預中許參會仕相濟來候處近年村々庄屋共平筋ニ相勤申候故庄屋ニも壹人宛罷登候  
様相談之義も相聞セ候得共座席之義ハ急度相分ケ禮儀ヲ糺シ申候勿論神宮寺江出  
席ニ付

定式掛ケ札ニモ正五九月辰之刻登山  
巳之刻下山

右郷中年預共村々氏ヲ改ヘシト書記シ御座候事

一穴師大明神之儀ハ往古カ郷中老長年預支配之宮ニ御座候故老長之内古老之者尙亦  
右門左近と名付官名之者カ差圖ニ而神拜祭禮等相勤來リ候先格ニ御座候此義ハ神  
主禰宜等無之時代齊部氏退轉ヨリ今ノ舊神主中氏  
未タ出勤セサルマテノ間ナリ之勤方ニ御座候其後社人と申者  
追々差入申候迎も右社人不埒我儘申候ハ、老長年預共罷出社僧初神拜取治相濟候  
先格之書物等御座候別而郷中老長之内神拜差滯相勤不申候村在之候節ハ其村々持  
山年預中江取上ケ右神拜相濟候迄山之口出入差留申候先格ニ御座候……  
一穴師社ニ付諸入用銀ハ卷向山鎌數ニ割符致候而相掛申候定式ニ御座候事  
一往古社人無之時節ハ社僧神宮寺坊主一人ニ而諸事相濟申候尤宗旨者眞言宗之僧ニ  
差置申候事

一神主と申者治兵衛と申者初天正年中以來之義ニ御座候何某と申許ニテ相濟尤宮守  
ニ相抱申候事則備後村カ來リ候者ニ御座候由  
一禰宜と申者佐右衛門と申者初延寶年中カ之儀ニ御座候元來宮方之掃持爲致申答ニ  
而掃除男ニ召抱何右衛門と申ものに御座候則馬場村カ參リ候者ニ御座候由

一元祿三年庚午八月十二日戒重織田内匠頭様カ御太刀御奉納被遊候右御太刀箱入ニ  
而寶藏ニ御納御座候御鍵ハ穴師村理右衛門家ニ其節カ御預奉申上所持仕御用之節  
ハ持參仕先祖共カ罷出申候云々

一元祿五申年八月廿六日郷中寄會相談之上ニ而神主治兵衛禰宜善右衛門郷中年預惣  
代大豆越村忠右衛門右面々同九月三日カ上京仕吉田表へ罷出山田伊織殿へ御頼申  
入御神位并縁起ヲ頂戴仕候旨ニ而同六日ニ歸村又々九月十八日カ神主神宮寺禰宜  
年預惣代付添上京仕右相濟候而同廿二日歸國仕候事  
則天子様カ被爲下置候宗源之宣旨ニ茂

大和國式上郡穴師村

正一位穴師大明神ト書付御座候事

一織田内匠頭様御領内式上郡穴師村穴師宮境内

東西 五十五間 南北 六十三間

外ニ馬場長サ十四町 横幅八尺 但平均にして

是者古來カ除地之内ニ田畑少々斗社人共手作仕候尤無年貢ニ御座候御公儀御檢地  
改之時も御座候竿入不申候事

一神主禰宜二人共吉田表受領之寂初者元祿五申年十一月下旬京都吉田殿江願にも御  
手取之百姓故許狀申受候得共諸事何事も内匠頭様カ御支配儘老長年預差圖次第之  
社人ニ而諸事吉田支配ニ而ハ一切無御座候趣御上様にも御掛合被爲成候其上年預

共中上京仕老長年預支配之譯掛合候而其趣意書付申受候上元祿五年申十一月中  
旬上京仕候由ニ而受納被致候節穴師村年預一人付添尙御上様方添翰頂戴仕候上受  
領爲致候尤受領度毎ニ右御添翰之寫吉田役人中方之返書之寫穴師村年預共江御下  
ヶ被爲下置候右寫書何通も所持仕候事

神主

治兵衛事  
中 備前與申候

禰宜

善右衛門事  
宮男河内與申候

但禰宜儀家名無之候ニ付則下地宮男ニ召抱  
候文字ヲ直ニ宮男ト申濟來候夫方此節ニ而  
も御地頭表并吉田表江者通リ不申候云々

一 神主家者

元祿年中ニ

備前

寶永年中ニ

備後

享保年中ニ

備前

寶曆年中ニ

若狹

寶曆年中ニ

相摸後見致候  
左門事

梓 右近無官

一 禰宜家者

元祿年中ニ

宮男河内

出雲

駿河養子ニ而  
式部事

民部養子ニ  
而無官

民彌養子ニ  
而無官

一 南北九百六十間

東西千四百四拾間

此步四百六拾町八反

高九石貳斗

辻村

備後村

東田村

穴師村

初利村

大豆越村

太田村

草川村

檜垣村

九ヶ村立會

一 高九石貳斗者文祿年中之古檢地  
高ニテ御座候事

右之通ニ而九ヶ村立會之草山ニ而苺から山ニ御座候而往古穴師社江修葺料ニ從公

儀御附被爲置候義ニ御座候事

一 右之例ニ御座候故穴師大明神社頭之入用并普請銀者不及申御供料燈明料社人方之

余内尙亦神宮寺柴取男之給銀迄も往古方山方江割付相掛ヶ來候事

一 寛文十二年九ヶ村相談之上ニ而御代官鈴木三郎九郎様江御願申上立木林山ニ仕

尤三年切として村々鎌數ニ配當仕候而銘々場所ヲ究メ支配仕候ニ相成候事

右之通穴師村穴師大明神并卷向山之譯先年出入ニ相成候節相分リ申候譯尙又山肝煎

宮役之譯郷中老長年預之内ニ有之候古キ書物之内有増拔書仕候趣如此ニ御座候以上

穴師村穴師大明神郷中

宮座之者

天明貳寅年三月

老長年預共

卷向坐若御魂神社

延喜神名帳ニ卷向坐若御魂神社大月次ト見ユ由來記ニ據ルニ嘉吉應  
新嘗ト見ユ由來記ニ據ルニ嘉吉應

仁ノ兵亂ニ社殿荒廢シ穴師上社ト共ニ大兵主社即チ穴師下社ニシテ  
今ノ穴師社地ナリ内ニ遷祀セラレ今

尙其境内ニアリテ之レカ末社タリ舊社地詳カナラス卷向山ニ元檜原ト字スル處アリ恐

クハ其舊址ナルヘシ祭神ハ社名ニテ明ナリ古史ヲ案スルニ若御魂一ニ稚産靈ニ作り即

式上郡

チ御食津神ノ父ナリ。

神 戸

天平二年大和國大稅帳曰卷向神戸、稻伍拾貳束捌把、租參拾參束貳把、合捌拾陸束、用肆束、祭神殘捌拾貳束

新抄勅格符抄曰卷向神二戸大和

雜 事

延喜式凡新羅客入朝者給神酒其釀酒料……大和國經向社……參拾束……

送住道社○全章葛下郡下鴨

穴師大兵主神社

延喜神名帳ニ見エ古ハ穴師下社或ハ下ノト稱シ即チ今ノ穴師社ノ地

ナリ、弓槻嶽ノ上社荒廢ノ後コ、ニ遷祀スルニ及ヒ遂ニ上下ノ名稱ヲ失ヒ兵主社即チ上

之レカ主トナルニ至リシコト既ニ上ニ述フルカ如シ、今尙兵主社ノ末社タリ、祭神ハ天鈿

女命ナリ、事上ニ引ケル大和社注進狀裏書ニ詳カナリ。

天満神社

泊瀬町字與喜山ニアリ、因テ與喜天神又吉社ト稱ス、郷社タリ、菅原道真朝臣ヲ祭

レリ、天慶九年九月二十二日ノ勅祀ナリ、由來長谷寺緣起ニ載スルモ之ヲ略ス、本ト瀧倉社

ト共ニ長谷寺ノ地主神ト稱セラレ鎮座ノ先後ニ依リ當社ヲ今地主ト稱ス、瀧倉社ノ下參

見スヘシ。

志貴御縣坐神社

天平二年大和國大稅帳ニ志貴御縣神戸、穀玖拾貳斛參斗捌升耗一斛捌斗壹

定玖拾斛伍斗柒升、替依稻玖佰伍束柒把、穎貳佰捌拾玖束捌把、租壹佰五拾陸束參把、合壹阡

阡參佰伍拾壹束捌把、用肆束、祭神殘壹阡參佰肆拾柒束捌把、又新抄勅格符抄ニ志貴御縣神

二戸延喜式神名帳ニ志貴御縣神社大月次ト見エ、即チ當國六御縣社ノ其一ナリ、三輪町大

字金屋ニアリ、俗ニ志貴宮ト稱ス、今村社タリ、祭神ハ御縣ノ靈ナリ、説添下郡添御縣社ノ下

ニ詳カナリ、因ニ云フ文明六年宿院會米帳南都大ニ七升定、地子……シキノミヤノ四郎

忍坂坐生根神社

城島村大字忍坂ニアリ、延喜神名帳ニ忍坂坐生根神社大月次ト見エ、今村

社タリ。

祭 神

忍坂山ノ内字宮山ヲ以テ神體トナシ別ニ寶殿ノ設ナシ其故實ヲ詳カニセス、今少彦名命

ヲ祭ル、何ニ據ルヲ知ラス、案スルニ大同類聚方ニ當社相傳ノ生根藥ト稱スルモノヲ載セ

額田部氏ノ奏上セシモノナリト、額田部氏何人ナリシヤ詳カナラサレトモ同書ヲ通讀ス

ルニ總テ神社ノ藥法ハ其神職若クハ氏人ノ奏上ニ係ルモノ甚多カレハ疑クハ氏ハ當社

ノ神職ナルヘシ、良シ神職タラサルモ既ニ當社ノ藥法ヲ其家ヨリ奏上スルハ必ス深キ緣

故ヲ有スルナラン、而シテ額田部氏ハ天津彦根神ヨリ出ツ、彦根生根、共ニ男子ノ美稱ニシ

テ義ニ於テ相異ナルナシ、然ラハ則チ古ヘ忍坂村ニ額田部氏ノ住スルアリ、其祖天津彦根

命ヲ祭リテ生根社ト稱セシモノナルヘシ、因ニ云フ大同類聚方ニ城上郡生根之里ト見ユ、

生根之里何レノ處ナルヲ知ラス、倘クハ當社所在ノ地ヲ古ヘ斯ク稱セシカ、後考ヲ俟ツ。

神 戸

式 上 郡

天平二年大和國大稅帳曰生根神戶、穀玖斛伍升伍合、耗壹斗玖升定玖斛參斗陸升、替依稻玖拾參束陸把、穎稻伍拾壹束玖把、租伍束參把、合壹佰伍拾束捌把、用肆束祭神、殘壹佰肆拾陸束捌把。

新抄勅格符抄曰生根神一戶大和

雜事

大同類聚方曰以久禰藥、大和國城上郡忍坂坐生根神社之方、二之天額田部連等之上奏所之藥、孕女乃七八九月乃頃血下利、塊利數々下利、後腹痛不止者、是則胎中乃爛禮、太留南利是二用于流藥、阿可坐三分差支、喇三分可羅太萬二分可滿布波南二分津我里、艸一分又曰志紀乃加美藥、大和國城上郡忍坂坐生根神社、仁傳不流處、乃古方安半々々、木、咳強久咽、破痛美胸肩痛三無那不留悲甚、木者仁用羽流方、可羅多知三分阿利之日不木四分登良乃尾三分宇流支二分津保久左三分

忍坂山口坐神社

天平二年大和國大稅帳ニ忍坂神戶、穀捌斗壹升、耗壹升定柒斗玖升伍合、以下

新抄勅格符抄ニ忍坂山口神一戶大和延喜式神名帳ニ忍坂山口坐神社、大月次ト見ユ、城島村大字赤尾ニアリ、今村社タリ、祭神ハ當國六處山口社ノ其一ニシテ忍坂山ノ靈ヲ祭ル、食說高市郡飛鳥山口社ノ下ニ詳カナリ。

他田座天照御魂神社

延喜神名帳ニ他田坐天照御魂神社、大月次新ト見ユ、志ニ在大田村、今

稱春日ト云ヘルニ據リ、纏向村大字太田ノ村社ヲ以テ之ヲ稱スルモ、憑據ナシ、案スルニ他田ハ即チ譯語田ナリ、敏達帝ノ皇居ヲ譯語田幸玉宮ト號ス、宮址神社ノ位置ト關係アルヘ

キモ今之ヲ詳カナラス。

祭神

城下郡鏡作神社ト同ク天照大神ノ御像鏡ノ靈ヲ祭ル故ニ天照御魂社ト稱ス、說彼社ノ下ニ詳カナリ、古ヘ戶籍ノ制、同族ニシテ他ニ分居シ生計ヲ立ツルモ未タ戶主トナラサルモノハ仍本貫ニ附籍シ戶主某、戶口某ト記スルヲ例トセリ、正倉院藏天平十四年十一月ノ文書ニ他田臣旅前、城下郡黑田郷戶主ト見ユ、以テ當時鏡作ノ他田氏ナルモノアリシヲ知ルヘシ、然ラハ當社ハ其氏人ノ更ニ鏡作社ヲコ、ニ祭レルモノナリ。

神戶

天平二年大和國大稅帳曰他田神戶、穀壹斛壹斗捌升、食定壹斛壹斗陸升、替依稻壹拾壹束陸把、穎稻伍拾捌束肆把、租貳拾束貳把、合九拾束貳把、用肆束祭神、殘捌拾陸束貳把

新抄勅格符抄曰他田神二戶、大和一月

宗像神社

三代實錄ニ元慶四年三月二十七日以大和國城上郡宗像神、預於官社坐太政大臣

東一條、第ニ又坐筑前國宗像郡、皆同神別社也、○言ハ平安東一條ノ社モ筑紫宗像延喜式神名帳ニ城上郡宗像神社三座、並大月ト見ユ、城島村大字外山ニアリ、外山ハ即チ登美ニ作ル見ナリ、宗像ノ三女神ヲ祭リ、天武帝ノ世高市皇子ノ創祀ニ係ル、由來國史類聚三代格ニ明文アルニモ拘ハラズ、明細帳ニ由緒不詳トスルハ精シカラス、抑當社ハ高階真人氏ノ氏神ナリ、高階氏ハ實ニ天武帝ノ皇子高市ニ出ツ、皇子ノ生母ハ宗像氏諱德善ニシテ、即チ筑前宗像社ノ氏子ナリ、故ニ皇子其所生ノ爲メニ產土神ヲコ、ニ勸請シ外戚ノ氏神トナシ自家ノ

賤族ヲ分チ年々物料ヲ輸シ神舎ヲ修理シ或ハ神寶園地ヲ獻セシヨリ爾後其苗裔タル高階氏當社ヲ以テ氏神トナシ殊ニ崇敬ヲ加ヘ元慶四年官社ニ列セラレ翌年筑前ノ本社ニ准シ神主ヲ置キ氏人ヲ以テ補任スルノ例ヲ定メラレタリ事左ノ格文ニ明カナリ

三代實錄曰元慶五年十月十六日辛卯太政官處分依請大和國城上郡從一位勳六等宗像神社准筑前國本社置神主以高階真人氏人爲之

類聚三代格曰元慶五年十月十六日太政官符應准筑前國本社置從一位勳六等宗像大神社上郡登美山神主事右得氏人內藏權助從五位下高階真人忠峯等解狀備件社座大和國城上郡登美山依太政官去年三月二十七日符旨預官社訖自從清御原天皇御世至于當今氏人等所奉神寶并園地色數稍多高階真人累代麟次執當社事而今經世久遠人意解緩或不勤守掌紛失神寶或彼此相讓闕怠祭事如是之故屢致重崇仍可准本社置神主狀去年申官而未蒙裁許件申中峰天性清廉堪爲神主望請早被補任令掌神事但待氏長者舉被補其替相替之限一依格制謹請官裁者從一位行大納言兼近衛大將源朝臣宣奉勅依請又曰寬平五年十月二十九日太政官符應充行宗像神社修理料賤代備丁事從良殿十六人正郡金崎充行備丁八人大和國城上郡四人高市郡二人十市郡二人右得彼社氏人從五位下守右少辨兼大學頭高階真人忠峰等解狀備件神坐大和國城上郡之內與坐筑前國宗像郡從一位勳八等宗像大神同神也舊記云是天照大神之子也大神勅曰汝三神降居道中奉助天孫爲天孫所崇祭者今國家每有禱祈奉幣件神是其本緣也唯筑前社有封戶神田大和社未預封例因茲忠峰等始祖太政大臣淨廣壹高市皇子命分氏賤年輸物令修理神舍以爲永例而年代久遠物情解體氏衰路

遙不堪催徵須貞觀十年六月二十八日格申請祖神封物以充修肥料而大神宮事既異諸社氏人等狐疑猶豫空經年序所在神舍既致破壞今件賤同類蕃息已有其數望請進件賤爲良將令備調庸其代永請隨近備丁以充修肥料謹請官裁者大納言正三位兼行左近衛大將皇太子傳陸奥出羽按察使源朝臣能有宣奉勅依請者仍須件備丁待彼氏高階真人長者并神主等共署申請充之差充之後不得輸差他役但其死關及耆老之代又同待請充之永以爲恆

長谷山口座神社

延喜神名帳ニ長谷山口座神社新嘗次ト見ユ初瀬町大字初瀬ノ手力雄ニアリ今村社タリ

祭神

豊山玉石集ニ手力雄明神社大泊瀬山の西南の尾崎にあり延喜式神名帳ニ泊瀬山口神社といふ是なりト中世手力雄命ヲ主神トナシ大山祇命ヲ配祀セリ然トモ當社ハ六處山口社ノ其一ニシテ即チ長谷ノ山靈ヲ祭レル所ナレハ本ト大山祇命ヲ以テ主神トナスヘキナリ其手力雄ヲ祭リ且地名ヲモ手力雄ト字スル由來ハ詳カナラスト雖トモ長谷勘奏記裏書ニ夫以天照大神降日域天宰鳳玉之剋始御幸爾須留輔佐內臣天兒屋命登太玉命登此二柱野神并天手力雄靈萬幡秋津姬神始從此等之數神天引率諸神達天定吉方擇勝地天最初爾自幸當山以降ト居於此山則東山當中心天有鵝形石是天照大神御影向之石也此神石於中其左有杏形石天兒屋命御影向石也又有掌石太玉命所坐石也又泊瀬豊山口東山尾前大鳥居也天手力男神坐御也西山尾上西鳥居也萬幡豐秋津姬命坐御也西山中心有日域大小

諸神影向之所此等神等恆入河天爲潔事故號神河浦下見ユ勘奏記ハ寛平年中ノ撰ト云ヒ  
 裏書ニハ仁平二年七月五師寺主ノ署名アルモ疑クハ後人ノ僞作ニ係レリ良シ當時ノ物  
 トスルモ其言荒唐不稽ニシテ必竟スルニ僧徒カ伊勢神宮ニ所祭ノ神々ヲコ、ニ附會シ  
 當山ヲ以テ日域最初ノ靈場ナリト囁着スヘク此等ノ妄説ヲ捏造セルモノニ外ナラス然  
 トモ其文中ニ泊瀬豊山口東ノ山尾崎トアルハ正ニ是レ長谷山口ノ處ニシテ勿論當社ノ  
 位地ナルヘキヲ豊山玉石集ニ手力雄明神社ト稱シ泊瀬山口神社ノ名稱ヲ主トセサルハ  
 當時既ニ勘奏記裏書ニ載スルカ如キ妄説ニ依リ社名祭神ヲ混淆シ遂ニ手力雄社ト稱ス  
 ルニ至レルモノナリ

神 戸

天平二年大和國大稅帳曰長谷山口神戶穀參拾參斛五斗參升耗陸斗伍升八合解別貳升定參拾貳斛捌  
 斗漆升貳合替依稻參佰貳拾捌束漆把額稻壹百玖拾壹束租貳拾玖束參把半合伍佰肆拾玖  
 束肆把半用肆束祭神殘伍佰肆拾伍束肆把半

堀倉神社

延喜神名帳ニ見ユ初瀬村字鍋倉山ニアリ村社タリ社傳ニ祭神ハ大倉比賣命ニ  
 シテ崇神帝七年ノ創祀ト云フ案スルニ五郡神社記ニ高市郡巨勢山坐石椋妣神社……  
 又妣三穗津姬神故號曰石椋神社也詳見卷第三詳堀倉神社下ノ全章彼郡ト社傳ノ云フ所  
 少カ據アルニ似タリ惜哉五郡記ノ第三卷已ニ散逸シ今見ルニ由ナシ堀倉山ハ長谷山ノ  
 支別ニシテ名勝タリ

相模家集

春ならで色もゑはかりこかるゝは  
 なべくら山の薪なりけり

瀧倉神社

上郷村大字瀧倉ニアリ伊弉諾伊弉册速玉ノ三神ヲ祭ル因テ瀧倉三所社ト稱シ  
 本ト長谷寺ノ地主タリ創立ノ由緒詳カナラス延喜二十一年從四位下ヲ授ケラル位記類  
 聚符宣抄ニ載ス

太政官符 神祇官

從五位上瀧倉明神坐大和國  
 今奉授從四位下

延喜廿一年二月二十七日

左少辨 淑光

長谷寺ニ於テ地主神ト稱スルモノニアリ一ハ當社ニシテ本地主ト稱ス長谷勘奏記裏書  
 ニ引ケル行仁上人記ニ瀧藏大菩薩當山本ノ地主也川上ニ坐御スト見ユ一ハ與喜天神ニシテ今地主ト稱  
 ス同記ニ天滿天神今云與喜明神當寺緣起勸出ト即此蓋寺家ニ地主神トスルモノハ伽藍  
 草創以前コ、ニ鎮座セシヲ既ニ佛地トナスニ及ヒ其祠ヲ地主神ト名クルアリ或ハ伽藍  
 創立以後更ニ神祠ヲ建テ護法神ト稱スルモアレトモ共ニ之ヲ寺家ヨリ支配スルヲ例ト  
 ナス故ニ當社ノ事亦彼寺ノ記録ニ散見セリ豊山玉石集ニハ當山地主瀧倉權現三社各表  
二間半拜殿當山ノ神名帳には瀧藏大菩薩といふ此神に三社あり第一殿は新宮權現は  
 女體柔和の姿なり本地薬師如来、第二殿は瀧藏權現は老父の形なり本地虚空藏并、第三殿

式 上 郡

は石藏權現は比丘の形なり本地地藏并大石を以て神體とす社内より外まで顯はれ見ゆ其根地中に入て幾大なることな知らず世人福石といふて諸拜するものこ神武天皇御宇明星天子瀧倉の絶頂に降て鎮座し給ふ瀧倉山初瀬川三十六町ニ有聖武天皇御宇天平五年八月十五日夜長谷觀音堂の左脇に平坦の地有り明星天子降臨して比丘僧の形を現し道徳上人に告て曰我は是上古より三神の里の地主なり今重て十一面堂を衛護せんと約し給ふ依之祠を立て祭祀す此權現は長谷八村の鎮守なり年々正月十一日祭祀す氏人皆集て盛饌を奠り方丈六坊出席し二箇の法要を勤て法樂を供ふ其儀式嚴重なり……城上郡伊弉諾社有神糸附社城上邑々無大社因當社瀧藏社伊弉諾伊弉冉石藏社伊弉冉新宮社二神子速玉命トアリ此等亦兩部習合ノ安説ニシテ取ルニ足ラサレトモ祭神ノ由來ト往時長谷八郷ノ關係トヲ知り得ヘキモノナリトス

玉列神社

延喜神名帳ニ玉列神社ト見ユ引ケル内藏寮式證スヘシ朝倉村大字慈恩寺ニアリ俗ニ玉椿明神ト稱ス今村社タリ玉列王子命ヲ祭ル玉列王子ハ大神大物主命ノ子ナリ故ニ古ヘ當社ノ幣帛ハ大神祭ノ料物ヨリ班附スルヲ例トナセリ内藏寮式ニ大神祭夏祭料……緋帛一丈五尺玉列王子ノ料ニ盛宮一合ニト即此

兼田神社

延喜神名帳ニ兼田神社ニ座兼田又頓何カ神名帳ニ短田明神トアリ志ニ白川村轟瀧上今稱白山ト云ヘルニ依リ今初瀬町大字白川ノ村社ヲ以テ之ヲ稱スルモ志ニ云フ所果シテ何ニ據リシヲ詳カニセス蓋兼田ハ地名ニシテ古事記ニひきたの若栗栖原わからへにぬねてましものおいにけるかもト詠セラレシ處ニシテ同記ニ引田部赤猪子アリ天武天皇紀ニ三輪引田君難波麻呂アリ三輪氏系圖ニ據ルニ三輪君身狹ノ弟宇留斯ノ子牟

良ハ引田氏ノ祖ニシテ即チ三輪氏ノ一族引田ニ分居スルモノ地名ニ因リ複姓トナセルナリ續日本紀ニ慶雲二年二月大和國人大神引田公足人賜姓大神朝臣ト以テ證スヘシ然レトモ引田其名稱ヲ失ヒ今何レノ處ナルヲ知ラス要スルニ當社ハ引田ニアリテ引田氏ノ祖ヲ祭レルナラン後考ヲ俟ツ

**水口神社** 柳本村大字瀧谷ニアリ延喜神名帳ニ水口神社志ニ在瀧谷村今稱天王ト見ユ村社タリ社地ハ神山ト字スル古墳ニシテ社殿ハ正ニ之ヲ負ヒ其前ノ田地ヲ天王前ト呼フ案スルニ同村延寶ノ檢地帳ニイモノミナクテト字スル處アリ土人ニ質スルニイモノミナクテハ社ヨリ東八町許ニアリ疑クハ社名ハ之ニ因メル稱ニシテ古ハ彼レニ在リシヲ中世コ、ニ遷シ祀レルナラン

天滿神社

柳本村字天神山ニ在リ織田氏累世崇敬ノ社頭ニシテ謂ユル藩社ト稱セシモノ今村社タリ菅原道真朝臣法性房朝臣ノ房ヲ祭リ二軀ノ木像ヲ以テ神體トナス其ニ數百年以前ノ舊作ニシテ彩色剝落蝕凹蜂房ノ如ク其何ノ像ナルヲ識別シ叵キニ至ルト雖モ諦視スルニ一軀ハ僧形ニシテ一軀ハ衣冠束帶ノ像ナルコト明カナリ僧形ナルハ法性房ニシテ束帶ナルハ菅公ト稱スルハ社家相承ノ傳説ナリ然ルニ延喜神名帳ニ城上郡伊射奈岐神社アリ在所詳カナラス當社ノ神官之ヲ奇貨トシ僧形ノ像ヲ以テ女體ノ朽損セルモノトナシ強テ之ニ伊射奈美神ノ名ヲ附シ因テ衣冠束帶ノ像ヲ伊射奈岐神ニ附會シ終ニ社名ヲ變更シ式内伊射奈岐社ト公稱スルハ甚謂レナシ語ニ曰ク其鬼ニ非ラスシテ祭ルハ是レ諂フナリト夫レ神祠ノ創始ハ偶然ニアラス菅公ヲコ、ニ祭ルハ必ス緣故ノ存ス



ルアリテ然ルノミ、當社ハ古來天滿天神ト稱シ闔藩ノ崇敬スル所トナリ、敢テ疑ヲ神名ニ容ル、モノナシ、其伊射奈岐社トナスヘキ必要否證迹ハ獨古老ノ口碑ニ聞ユルナキノミナラス記録上未タ嘗テ見サル所ナリ、但古ヘヨリ天滿社ト稱セラレシ證左ハ歷々徵スヘシ、大乘院尋尊僧正寛正二年三月二十七日記ニ「當門跡領大市庄……」下司普賢院口口楊本之天滿拜殿ニテ上使口……」又寛正二年四月室生詣ノ事ヲ記シ「四月六日已刻出長谷寺了御堂ニ參リ候、於楊本天滿社拜殿下司一献進之不寄思次第ナリ酒盃給之念入申候、仍馬一匹進之、然間太刀小袖一メンス遣之了次中山寺被參候、楊本先陣ニ被參候、則自得寺口執行召出諸堂拜見、酒進之、再口紙二十束折紙進之、院主大口禪師ニ十束遣之候、次ニ萱生寺參了、寺僧一人召出シ諸堂拜見了、次乙木社ニ參了、次ニ内山の寺中ヲ經テ布留社ニ參了、ト見ユ、寛正二年ハ今ヲ距ル四百三十年以前ニシテ當時既ニ天滿社ト稱セリ、以テ證トナスヘシ、因云僧正ノ一行正式ノ行列ヲ具ヘタレハ從者頗夥シ、然ルニ下司楊本氏當社ノ拜殿ニ於テ酒ヲ侷メシ一事ハ獨リ當社ノ創始寛正以前ニ係ルヲ知り得ルノミナラス當時社頭ノ規模今日ノ如ク狹隘ナラス一行ヲ接待スルニ足ルヘカリシヲ知ルヘシ、而シテ下司ハ即チ大乘院領揚本莊ノ下司職ニシテ年曆ヲ推スニ正ニ楊本範滿ナリ柳本城ノ下範滿斯ク慇懃ニ待遇セシハ勿論本領門跡ノ莊内ヲ過キラレシニ因リ其當社ニ於テ之ヲ接待セシハ莊内ノ大社ニシテ楊本氏ノ氏神タルニ本ツケルナラン。

**桑内神社** 延喜式ニ桑内神社二座鑿ト見ユ、在所祭神詳カナラス、日本書紀ニ天武天皇十年九月桑内正卒於私家ト、舊事記ニ據ルニ桑内氏ハ物部建麻利尼命ヨリ出ツ、豈其祖神ヲ祭

レルモノカ。

**宇太依田神社** 延喜神名帳ニ見ユ、在所祭神詳カナラス、案スルニ續日本紀ニ土佐國人神依田公名代賜姓賀茂ト、大神ノ賀茂氏ハ太直禰子命ノ孫大鴨積命ヨリ出ツレハ亦其祖ヲ祭レルモノカ、宇陀郡ニ神御子美牟須比命社アリ、彼此關係ヲ有スルモノナルヘシ。

**殖粟神社** 延喜神名帳ニ見ユ、志ニ所在未詳トアルニ神名帳考證ニハ在外山村ト何ニ據ルヲ知ラス、今三輪町大字上莊ノ村社ヲ以テ之ヲ稱ス、祭神詳カナラス、殖粟氏ノ祖カ、氏ハ中臣ト祖ヲ同ウシ天兒屋根命ノ後ナリ。

**伊射奈岐神社** 延喜神名帳ニ見ユ、在所詳カナラス、豊山玉石集ニ據ルニ瀧倉神社ノ舊稱ナルニ似タリ、後考ヲ俟ツ。

**網越神社** 延喜神名帳ニ見ユ、三輪町ノ西ニアリ、俗ニ御祓社ト稱ス、大神々社ノ攝社タリ、祭神詳カナラス。

**荒神社** 上郷村大字笠ニアリ、俗ニ笠荒神ト稱ス、奥津彦、奥津姫土神ノ三神ヲ祭ル、三神ハ竈ノ靈ニシテ浮屠氏之ヲ三寶荒神ト名ク、竹林寺笠字ストハ其本地佛ヲ安置セルモノナリ、彼寺傳ニ荒神ハ役小角ノ創祀スル所ト云フモ憑據ナシ。

佛寺

長谷寺 初瀬村大字長谷ノ豊山ニアリ、因テ豊山寺トモ稱ス、眞言宗ノ一本寺タリ十一面觀音ヲ本尊トナス、寺傳ニ白鳳二年道明上人天武天皇ノ御願ニヨリ本長谷寺ヲ建立シ、神龜四年聖武天皇德道上人ニ勅シテ本堂ヲ創立シ給フト云フ、當寺ニ本長谷新長谷ノ別アリ、十一面觀音ヲ本尊トスルモノハ所謂新長谷寺ナリ、其本願創立ノ區別及ヒ由緒等ハ諸寺縁起集表紙ニ康永四年八月口法眼清範ト署シ又大乘院ト記セリ原本ハ東京音羽護國寺ノ所藏ナリ小杉福郎ノ寫シ置キタルモノナリ護國寺ノ傳ニ清範ハ京都清水清冷院主ナリト云フニ載スル長谷寺縁起ニ詳カナリ、其文ニ曰ク、

菩薩前障子文云於長谷寺有二名一本長谷山寺二者後長谷寺其差別者十一面堂西方有谷其谷西岡上有三重塔并石室佛像等是本長谷寺也、是弘福寺僧道明建立也、彼石室佛像下在之縁起文其道明六人部氏人矣、谷東岡上有十一面堂舍等是後長谷寺也、依沙門德道之願藤原北臣未拜大臣時奏聞朝廷奉勅建立也、其德道播磨國揖保郡人辛矢田部造米麻呂也、後名子若初來着斯寺生長之後成私度沙彌驗殊異也、彼本長谷山寺雖有少堂舍等無修口人今倒失石室佛像等在木下其三重塔者十一面寺之跡今尙有也、十一面并本縁起者高市郡人八木少井門子之夫居住近江國資賀郡大津村人也、少井門子夫死以後爲父母并夫爲奉造佛像從近江國高島郡三尾前山流出霹靂之木伐取挽致八木衢而依彼木山并父母死去矣、爰沙彌德道長谷里古老刀禰向請取件木長谷山東岑挽置經多年雖求造佛像雖得也然問藤原氏北臣被大和國班田勅使具被申造佛像勅使親見佛料木奏聞聖

武朝廷申下官物奉爲 聖朝造立斯佛山寺也子細之狀具在障子之文也因茲知本縁也

大政官符大和國司 到來六年三月八日

應下行十一面并像并堂舍造料稻參千束事

右正三位行中務卿兼中衛大將藤原朝臣房前奏狀、備沙彌德道之神龜六年正月二十七日、解狀云造佛料木祝置長谷山東岑、經年而無可奉造料物、先願主八木并門子不待伏地望也、被全加造佛料物奉造件十一面并像并堂舍等、將爲藤氏御寺、謹言者今年二月二十二日勅依房前朝臣奏狀所裁行之正稅三千束如件者、國宜承知依勅下行符到奉行

正五位下左中辨兼侍從當麻真人 從七位上守左大史士師宿禰口柄奉行……

トアリ世ニ當寺ノ縁起ヲ記スルモノ頗ル多シト雖事概荒唐不稽ニシテ信ヲ措クニ足ルモノ甚少シ宜ク此障子文ヲ以テ正トナスヘシ、但記文創立ノ年月ヲ逸シタレトモ豊山玉石集ニ人王四代天武天皇御建立ト記シ又當寺ニ藏スル古銅塔銘ニ歲次降婁ノ文字アリ、降婁ハ戊ノ異名ニシテ即チ天武帝朱雀元年歲次丙戌ニ相當スレハ寺傳ノ白鳳元年ハ朱鳥元年ノ誤ナルヘシ、將々新長谷寺ノ創立ニ至リテハ諸說紛々一定セス、上ニ引ケル太政官符ニ據ルニ藤原房前去ル神龜六年正月二十七日德道カ解狀ニ依リ造佛堂料ヲ官家ニ請ヒ、同年二月二十二日ヲ以テ裁可ヲ得其官符ハ、同年三月八日ニ國衙ニ到着セルモノナレバ無論其以後ノ造立ニ係ルヘキニ東大寺要錄扶桑略記等ニハ神龜四年三月三十日ノ供養トナシ年代彼此相矛盾セリ、然モ古寫本ニ元六相誤ルモノ多シ、此レ元ノ字ノ草體元六ノ字ト紛レ易シ、官符ノ六年ハ元年ノ誤寫ニシテ即チ神龜元年二月二十二日勅裁ヲ

得神龜四年三月三十日ヲ以テ供養ヲ執行セラレシモノト思ハルレハ寺傳ノ神龜四年ニ  
 係タルヲ以テ是トナスヘシ、案スルニ三代實錄ニ貞觀十七年十二月律師法橋上人位長朗  
 申牒、大和國長谷寺、是長朗、先祖川原寺修行法師位道明、寶龜年中率其同族、奉爲國家所建  
 立也ト、此本長谷寺ノ創立ヲ謂ヘルモノナルヘキニ之ヲ寶龜年中ニ係タルハ不審、倘クハ  
 神龜ノ誤寫ニシテ新長谷寺ノ開基ト相錯マレルナランカ、又東大寺要錄ニハ長谷寺神龜四年  
三月三十日庚午供養僧六十口、右寺、沙彌德道、沙彌道明之建立也、飯高天皇賜三千束、三月三十日庚午供養僧六十口  
又云養老二年唐僧道明、姓六人部、飯高天皇賜稻三千束、令造、觀音像高二丈六尺、安置無處而  
雷公降、摧磐石爲座、神龜四年沙彌德道造、堂、道明造、佛、扶桑略記ニ神龜四年三月三十日供養  
大和國城上郡長谷寺、件寺者弘福寺僧道明、俗姓六人部氏、并沙彌德道、播磨國揖賀郡  
 辛矢田部氏二人相共所建立也、其佛木像者、自近江國高島郡三尾前山流出、霹靂木也トアル  
 ハ共ニ新長谷寺ノ事ヲ記セルモノナルカ、其供養ノ年月ハ是ナレトモ就中養老二年道明  
 ニ勅シテ二丈六尺ノ觀音像ヲ造ラシムト云ヒ、或ハ之ヲ道明德道二人ノ建立トスルハ非  
 ナリ。

以上述フル所ニ據リ之ヲ要言スルニ本長谷寺ハ天武帝朱鳥元年弘福寺ノ僧道明、聖朝ノ  
 奉爲ニ金銅釋迦佛一千體ヲ造リ堂ヲ建テ之ヲ安置シ國家ノ安寧ヲ祈リシ所ナリ、事千佛  
 多寶塔銘ニ詳カナリ。

豊山玉石集ニ本長谷寺釋迦堂人王四十四代天、天皇いまた東宮に立せ給はさる時帝位を  
 御望ましまし當山の靈場なるを聞しめし弘福寺道明上人に命して伽藍建立の御願を

立させ給ひけるに果して帝位に登らせ給ひければ速に金銅千體の釋迦の像を鑄て堂  
 を造り安置せしめ給へり觀音堂に先つこと三十四年なり今の堂は徳川將軍家光公觀  
 音堂同時の御再建なり三重塔ハ本長谷寺同時に天武天皇御創建なり今の塔は豊臣秀  
 頼公御再建片桐市正是を奉行せりトアリ、但、創始ノ事跡ハ少ク疑アリ、宜ク多寶塔銘ヲ  
 以テ是トナスヘシ。

其後沙門德道ナルモノアリテ之ニ住セシカ時ニ高市郡八木ニ少井門子アリ、其夫某ハ近  
 江國滋賀郡大津ノ人ナリ、夫死スルニ及ヒ爲メニ佛像ヲ造リ冥福ヲ祈ラントシテ其材謂所  
霹靂ヲ彼國高島郡三尾山ヨリ獲之ヲ八木衢ニ挽致セシモ造ルニ及ハスシテ死シタリ、玆  
 ニ德道長谷里ノ刀禰等ト謀リ其材ヲ請取リ更ニ之ヲ長谷山ノ東岑ニ挽キ十一面觀音ヲ  
 造ラントセシモ費用ノ供スヘキナク徒ニ山頭ニ委シ空ク數年ヲ閱シス、會、藤原房前大和  
 ノ班田使ニ補セラレ國內ヲ巡視ス、德道因テ其狀ヲ具シ官物ヲ以テ佛像堂塔ヲ造リ藤氏  
 ノ寺トナシ且先願主門子ノ志ヲ成サント請フ房前親ク造佛ノ木材ヲ檢シ爲メニ朝廷ニ  
 奏シ正稅稻三千束ヲ申請シ地ヲ今ノ地ニトシ造立ニ從事セシメ神龜四年三月三十日ヲ  
 以テ功ヲ竣ヘ供養ノ式ヲ行ハル、コレヨリ彼道明カ創立セル堂塔ヲハ本長谷寺ト稱シ之  
 ヲ分ツ、是即チ長谷寺建立ノ由緒ニシテ爾來寺僧盛ニ觀音ノ靈驗ヲ説キ名聲ヲ遠邇ニ  
 播傳シ、嘉祥四年定額寺ニ編入セラル。

類聚國史曰嘉祥十四年二月丙辰勅大和國城上郡長谷寺、高市郡壺坂山寺、元來靈驗之蘭  
 若也、宜付所司編爲定額永以官長令檢校也。

元慶四年使ヲ當寺ニ遣ハシ燃燈シ功德ヲ修メシム。  
三代實錄曰元慶四年十一月遣使於長谷寺燃燈以修功德  
其他當寺ニ係カル法要施入等記録ニ散見スルモ繁キニ依リ之ヲ略ス

堂 舎

創立ヨリ二百二十餘年後天慶七年堂舎佛像燒失ス。  
日本紀略曰天慶七年正月九日壬午夜半風雨大和國豐山寺長谷寺也堂舎皆燒亡驗佛同燒失  
建立之後二百二十四年  
再建詳カナラス承久元年又燒失シ嘉祿二年之ヲ造立セラル。  
法隆寺別當記曰承久元年己卯二月十二日長谷寺堂并諸坊燒失了。嘉祿二年丙戌

十月二十二日長谷寺堂供養請僧六十人導師權別當圓元東北院  
爾後ノ回祿ハ長谷寺炎上之記ニ詳カナリ曰ク  
明應四年乙卯十一月二十二日長谷寺炎上事

一、二十四日已刻御跡灰ヲ少々イロヲニ經院實算寶石ノ上ニ最上佛面御座アルヲミツ  
ケタテマツリ右取出阿闍梨ニ渡申寶石ノマツリニノシタテヲシテ其内ニヲキ申候  
其日寅刻ヨリ諸人ニ拜見スヘキ由サクリヲ取之所ニミクシヲリスト云々  
一、弘安四年五月二十一日炎上之本尊ハ運實運慶ノ子孫ノ作之云々佛師十八人  
一、今度明應ノ火災後ヲ謂フの御常木ノ事布留ニテ杉二本所望也昔モ布留杉其外十八色ノ木共  
也トモ申候

一、脇本ニテ大ナル楠一本所望候  
一、最初之御衣木江州白蓮谷ヨリ出申候今度モ其片木ヲ可所望候  
一、眉間玉事大乗院御記面

長谷寺十一面眉目玉事

周尺徑二寸長四寸 建保七年三月十七日大佛師快慶注進也  
全尺徑二寸一分 弘安四年大佛師運實注進也  
小面ノ眉目ハ徑九寸  
兩度之例如此候彼寺へ内々可被仰入候……恐々謹言

(明應五年三月十四日)

專 觀

宮 内 大 輔 殿

一、丙辰 八月十一日  
長谷寺觀音ノ灰カ、ル除クノ義高野ノ木食トハセノヲ在ハバ僧ト大ニ  
一、同十五日  
觀音刀始高野木食井井佛師内山ノ上乘院殿御衣木加持可然云々  
一、明應五年丙辰十一月 日

幸徳井寄進玉事

本面一徑二寸七分 長四寸金ノ尺  
小面九徑九分 長三寸七分

式 上 郡

一、長谷寺本尊刀始事御門跡奉行相摸寺主奉書

勘文云

擇申 可被造立長谷寺十一面觀音像御刀始吉日事

八月十五日己丑 時己午

幸德井 三位賀茂朝臣友延

明應五年丙辰八月五日

天文七年戊戌八月朔日長谷寺觀音刀始同御衣木加持作者共ニ佛生院實清其沙汰也同  
月十八日御身ヲ造リ始ム良學ヲ九月十八日至十月二十九日諸佛師番匠方大乘院已上  
十月三十日ヨリ始作至十一月二十三日本尊分造功畢御光者來春可有沙汰候

佛師衆 佛生院

京 大佛師但後

東大寺蓮乘院經藏法印良學

押紙

六十代朱雀院天慶七年甲辰九月九日炎上以後五度燒亡之事二ノ卷縁起ニ見リ天文五  
年燒亡迄八度歟別記之信恕

トアリ之ニ據レハ法隆寺別當記ニ所謂承久元年ノ火災ハ即チ建保七年此年承久ト改元ス二月ニ  
シテ佛師快慶ハ建久中東大寺大佛ノ脇仕觀音ヲ造リシ人ナリ而シテ嘉祿再興ノ佛像堂  
舍ハ弘安三年三月燒失ス。

長谷寺祕記曰弘安三年庚辰三月十五日丙寅半時出火始自鎮守之拜殿次社壇三所次十

三重塔次鐘樓并廻廊迄次觀音堂同尊像次食堂僧坊四五也但頂上佛面小面二面錫杖天  
衣等奉取出

法隆寺別當記曰弘安三年庚辰三月十五日寅尅ヨリ長谷寺觀音堂以下燒失

翌四年之ヲ再興ス佛師ハ運慶ノ子孫運實ナリ七次寺巡禮記ニ

長谷寺 件寺又號小松寺本尊二丈六尺十一面觀音……

本長谷寺 在觀音堂之西道明上人建立

同三重塔一基

十三重塔一基 在觀音堂東方安地藏并像也

同新宮社 瀧藏明神也三所

吉社 件社者天滿天神也天慶九年九月二十日自北野影向云……件社在觀音堂辰

巳山中

食堂 件堂者在觀音堂辰巳

真言堂 件堂在觀音堂西方

二王堂 安全剛力士并二天像也此堂東仁在道明上人墓十三重石塔件道明德道上人之

師也又德道上人墓在也惣門内也

登廊 九十九間長曆元年四月十二日建立願主春日正預信清

長勝寺 件寺者在觀音堂東北方川上昌泰元年二月二日建立醍醐天皇御願也

瀧藏社三所 號當山地主權現在東川上

鐘樓一字 在鐘一口在觀音堂東方也

ト見ユルハ即チ弘安四年再興ノ伽藍ナルヘシ、明應四年燒失シ翌五年之ヲ興復セシコト  
既ニ上ニ引ケル炎上之記ニ詳カナリ、天文五年六月燒失ス。

長谷寺祕記曰天文五年丙申六月二十九日火災不測起觀音堂炎上其外神社佛塔經卷一  
時成灰燼其數三十餘所也於此佛頂佛面在燼灰中毫厘不燒給如生身

同七年八月之ヲ造立ス、佛工ハ東大寺ノ良學等ナリ、蓋此現今ノ本尊ナラン、天慶ヨリコ、  
ニ至ルマテ祝融ノ災ニ罹ルコト凡ソ八回ニシテ今ノ建物ハ慶安三年幕命ヲ以テ造營ス  
ル所ナリ。

寺 領

續日本紀ニ神護景雲二年十月幸長谷寺捨田十八町、延喜式ニ豊山寺料二千四百束トアレ  
トモ寺頭ノ詳カナル徵スヘキナシ、往時寺僧甲兵ヲ蓄ヘ興福寺多武峰ノ大衆ト合戦セシ  
コト彼寺ノ記録ニ見ユレハ當時巨多ノ莊園ヲ有セシナラン、徳川氏ニ至リ寺領三百石ヲ  
寄附セラル。

雜 事

寺ニ菅公親筆ト稱スル緣起ヲ始メ數多ノ寶物ヲ有ス、就中千佛多寶塔銅ハ本長谷寺ノ物  
ニシテ開山道明ノ造ル所ナリ、其銘文ハ字奇古ナルノミナラス伽藍草創ノ年月ヲ徵スヘ  
キモノナルヲ以テ左ニ之ヲ掲ク。

惟夫靈

立稱己乖

真身然大聖

下圖形表剝禎 毀損

旦夕畢功慈氏

佛說若人起窣堵

阿摩洛菓以佛馱郡

安置其中樹以表剝

上安相輪如小未葉或造佛像

下如穰麥此福無量粵以奉爲

天皇陛下敬造千佛多寶佛塔

上厝舍利仲造全身下儀並坐

諸佛方位菩薩圍繞聲聞獨覺

翼聖金剛師子振威伏惟聖帝

超金輪阿逸多真俗雙流化度

无央庶冀永保聖蹟欲令不朽

天地等同法界无窮莫若崇寺(即チ手篇丈ナリ)

靈峰星漢洞照恒秘瑞巖金石

相堅敬銘其辭曰

式 上 郡

遙哉上覺至矣大仙理歸絕妙、  
 事通感緣釋天真緣降茲豐山、  
 鷲峰寶塔涌此心泉負錫來遊、  
 調琴練行披林晏坐寧杭熟定、  
 乘斯勝善同歸實相壹投賢劫、  
 俱值千聖歲次降婁漆苑上旬、  
 道明率引捌拾許人奉爲飛鳥、  
 淨御原大宮治天下天皇敬造

文中未ハ黍ノ異體ニシテ猶沫ノ漆ニ於ケルカ如シ積ハ本草和名ニ加良須牟岐ト訓ス、仲ハ中ニ通シ剛ハ剛ノ缺畫ナルヘシ降婁ハ戊ノ異名ニシテ干支ヲ推スニ歲次丙戌ハ天武天皇朱鳥元年ナリ漆ハ漆ノ異體ニシテ苑ハ兔ニ通シ猶月ト云フカ如シ漆兔ハ即チ七月ナリ飛鳥清御原大宮治天下天皇ハ天武帝ヲ謂フ。

覺鐘ハ回祿ノ爲メニ亡ヒ今懸ルモノハ元龜元年ノ鑄造ニ係ル銘文左ノ如シ  
 奉治鑄寄進長谷寺施主攝州住吉郡吾孫子助太夫源方權別常宗如小別當宗滿宗雅執行  
 代如音撰領師宗順大阿闍梨宗厚學英小聖乘聖元龜元年辛酉十月九日

**長岳寺** 柳本村ノ東釜口山ニ在リ因テ釜口寺ト字ス寺地ニ接シ上下長岡ノ村里アリ長岳ノ寺名コ、ニ起ル天長中空海ノ創始スル所ニシテ南都大乘院聖信大僧都ヲ本願トナス、伽藍開基記ニ和州釜口山長岳寺者以高野大師爲開山始祖乃虛空藏并之梵刹也殿傍有弘

法大師影堂又有寶池々畔有愛染堂山中有僧房十所長岳寺金剛身院舊記ニ當山開基者弘法大師五十一歲之開基也則人皇五十三代淳和帝天長元年歲次甲辰夏六月也本願者大乘院御門跡聖信大僧正慈信大僧正弟子也一條殿內實公息正中元年爲門主ト即此

因云大和國陳迹名鑑圖說ニ釜口山長岳寺百石也日本武尊第十男釜見王釜口氏也廟所ニ大師精舍建立シ給フトアリ釜口氏ハ國民郷士記ニ釜口新介別日本武尊子釜見ト見ユ之ニ據レハ釜口ハ竈見口ノ略稱ニシテ竈見別王ノ采地タリシモノニ似タリ果シテ然ラハコレ空海釜口氏ノ祖廟ニ就テ精舍ヲ建立セシナリ中古浮屠氏神地ニ就キ伽藍ヲ創始スルノ例甚タ多シ獨釜口ノミニアラス姑ク記シテ異聞ヲ博ム

古老ノ口碑ニ當寺ハ大和神社ノ神宮寺ナリト云フモ記錄ノ徵スヘキナシ其盛時ニ當リテハ愛染堂御影堂五重塔十羅刹堂眞言堂經藏寶藏宿堂客殿浴室及ヒ僧房四十二宇齋ヲ連ネ薨ヲ並ヘタリシカ中コ口稍衰ヘ寛文ノ頃ハ坊舍十字寛文寺社トナリ天明中ニ至リ僅ニ七坊ヲ有シ天明七年寺爾後愈微カニ今ハ三四ノ堂舍ヲ存シ唯樓門ノミ當初ノ名殘ヲ留メリ往昔ハ巨多ノ寺領ヲ有セシナルヘキモ建長四年楊本莊注進狀ニ良勝半良勝ハ半段ナリ大豆二升七合麥同釜口興福又應仁二年小大田庄注進文ニ四反釜口管絃田一

反釜口地藏田ナト見ユルノ外他ニ所見ナシ慶長七年寺領百石ヲ寄附セラル  
**眞面堂** 釜口ヨリ柳本村ニ至ル辻ニアリ俗ニマメ堂ト稱スマメハ眞面ノ略ニシテ四方共ニ正面ナルノ義ナリ每面梵字アレトモ剝落シテ分明ナラス長岳寺ノ傳説ニ養老中善無畏三藏ノ建立スル所ナリト云フ

沙石集

かまの口こかれて見ゆる紅葉かな  
なへての世にはあらじとそおもふ

桃尾辨ノ阿闍梨  
小法師

玄寶庵 織田村大字茅原ニアリ、古へハ三輪山ノ北檜原谷ニアリ、其地山深ク谷幽カニ人跡至ル罕ナリ、弘仁中僧玄寶庵ヲコ、ニ結ヒテ隱遁ス、因テ玄寶谷ト名ク、後チ其遺跡ニ大日如來ヲ安置シ之ヲ玄寶庵ト稱ス、中コロ荒廢セシカ寛文七年比丘宴光中興ス、維新ノ初メ神佛混淆ノ禁止ニヨリコ、ニ移セリ庵ニ古製装一條アリ玄寶ノ遺物ト傳フ、  
賓俗姓弓削氏河内ノ人ナリ、嘗テ山階寺ニ住ス、學識德行共ニ隆ク一世ノ名僧ト稱セラシ、而モ名聲ヲ厭ヒ塵埃ヲ避ケコ、ニ隱遁シ白雲ヲ枕トシ清風ニ臥シ物外ニ超然タリ、桓武帝徵スルモ起タス、後チ終ル所ヲ知ラス、

南都高僧傳曰大僧正玄寶、弓削法皇同族云云、大同元年丙戌四月日直住興福寺、此年四月逝去、勅使尋會梵福寺山中招之、即辭有歌、或本曰桓武天皇不豫、囑法師侍宮、天皇即平復、任律師、辭退、入大和國御神和山、勅使追來、詔僧都宣命、即辭有歌、弘仁五年甲午今年辭職、龍居本寺備中國哲多山寺云々、  
○元亨釋書ニ寶古事談曰玄寶僧都者南都第一之碩德、天下無双之智者也、然而遁世之志深、不好山科寺、交只三輪川邊結草庵隱居、  
寶嘗テ大僧都ニ拜セラル、ニ當リ和歌ヲ咏シテ之レヲ辭ス、  
三輪川の清きなかれにすゝきてし

ころもの袖を又はけかさし

凌雲集ニ贈賓和尚ト題スル弘仁ノ御製ヲ載ス、

賓公道跡、星霜久、萬事無情愛寂然、水月尋常冷空性、風雷未敢動安禪、  
苦行獨老山中室、盪嗽偏宜林下泉、遙想焚香觀念處、寥寥日夜看雲烟、

竹林寺

上郷村大字笠ニアリ、因テ笠寺ト字ス、境内ニ竹林アリ寺名コ、ニ出ツ、三寶荒神ヲ本尊トナス、寺傳ニ聖德太子ノ開基ト云ヒ或ハ役小角ト云ヒ或ハ良辨ト云フモ共ニ據ナシ、寺ニ善無畏三藏ノ笠杖長五尺六寸、大同元年十月八日ノ八字ヲ刻ス、枕緣起ニ玄宗皇帝遊仙之枕ト名ク、及ヒ文安刻ノ不動像木版アリ、笠ハ徑三尺許、竹ヲ以テ骨子トシ表ハ檜片ノ網代ニシテ裏ニ錦ヲ張り製作極メテ古シ、笠寺ノ稱コレニ因メリト云フ、宮ニ銘文アリ、左ノ如シ、

鷲峰山竹林寺者、和州之勝區也、寺有善無畏三藏遺笠一頂、徑三尺許、厥色極古、考寺記曰、初三藏發月氏國、向東震旦、忽於空中有物如蓋、覆于三藏之上、及入唐境、其蓋降着頭上、即知是天蓋也、迄後過我日域、隨處戴行、暫不離身、歸唐之日、留笠於此寺、是故呼爲笠寺云、爾來諸方密學僧侶多遊其中、觀此笠者、必摘取片段、持回供養、蓋因追慕三藏之遺風也、今寺主高繁律師恐笠之損破、遂命工倣銅線匣以珍護之、欲不令人容易玩覽也、茲來徵余銘、乃爲之銘曰、

西域身篤、有大桑門、號善無畏、道譽高鶩、  
飯王苗裔、種姓最尊、曾奈震旦、當唐開元、  
玄廟延見、待遇優敦、養老初曆、縮遊葦原、

式上郡



憇止鷺嶺 逍遙竹園 至人應世 來去無痕  
留斯一笠 覆蔭兒孫 神物拱護 千秋永存  
敬心隨喜 疇弗感恩

天和三年龍集癸亥仲春月佛涅槃日

峩山沙門月潭道澄和南謹書

舊蹟

磯城瑞籬宮 崇神帝ノ皇居ナリ、志ニ在、三輪村東南志貴宮、西ト案スルニ瑞籬古事記ニ水垣  
ニ作ル、平等寺舊藏三輪山古圖ヲ展スルニ長谷川ト三輪川寺川ト中間即チ志貴宮ノ西  
南ニ當リ天山祠アリ、祠尙存シ土俗之ヲ天山宮ト呼ヒ其地亦天山ト字セリ、蓋天山ハ天皇  
山ノ轉訛ニシテ宮址ニ就テ天皇ヲ祭レルモノナラン、三輪御社獨案内ニ天王社祭神崇神  
天皇ト以テ證スヘシ、然ラハ水垣ハ本字ニシテ二水自ラ之レカ墻垣ヲナセルニヨリ宮名  
ニ命シタルモノナルヘシ。  
纏向珠城宮 垂仁帝ノ皇居ナリ、帝王編年記ニ大和國城上郡今卷向河北里西田中也、卷向川  
ノ北ノ里ハ即チ穴師ナリ、穴師ト備後ノ間ニ珠城山山俗ニ玉ノアリ

長秋詠藻

まきもくの玉きの宮に雪ふれば

さらにむかしの朝をぞ知る

纏向日代宮 景行帝ノ皇居ナリ、帝王編年記ニ大和國城上郡今卷向檜林是也ト見ユ、寛文十  
二年卷向山九ヶ村鎌數割附帳ニ都古谷亦檜林云十町七段四畝太田村トアル此都古谷ト  
字スル處即チ宮址ナルヘシ。

古事記

まきむくの、ひしろのみやは、あさひのひてるみや、ゆふひのひかけるみや

式上郡

**磯城島金刺宮** 欽明帝ノ皇居ナリ、三輪村大字金屋ノ東南山崎ノシキシマニ垣内ト稱スル田地アリ、是其宮址ナルヘシ、シキシマノ垣内ハ正ニ三輪山崎ノカナサシト字スル處ト初瀬川ヲ隔テ、相隣レリ、玉林抄ニシキシマトテ初瀬ヘ參レハ山崎ニ小堂アリ、今ハ武家入ル時クツス惣シテシキシマトテ一郷ノ處ナリ……金刺宮ハ河ノ向ニ竹原アリ、其内ニ小社アリ、此欽明天皇内裏ノ跡也、下見ニ平等寺舊藏三輪山古圖ヲ案スルニ今ノ山崎ニ於ケル長谷川ノ南邊ニ一ツノ社ト禿倉トヲ圖シ之レニ磯城島宮ト注記セリ、此レ玉林抄ニ河ノ向ニ竹原アリ、其内ニ小社アリト云ヘルニ地勢相合ヘリ、乃チ知ル磯城島宮ハ金刺宮ト同處ナルヲ、磯城島宮今亡シ、蓋洪水ノ爲メ流失セラレ後チ再興ナカリシナラン、而シテ垣内ト字スル田地ハ新墾ニ係リ、往時ハ草萊ニテアリシト云フ、其位置亦古圖ノ磯城島宮所在ノ處ト略相同シケレハ今ノ垣内ハ禿倉ノ廢址ニシテ其禿倉ハ即チ金刺宮ノ遺跡タル復タ疑フ容ルヘカラス。

月 清

大和かも敷島の宮しきしのふ

昔をいと、霧やへたてん

**泊瀬朝倉宮** 雄略帝ノ皇居ナリ、姓氏錄秦思寸ニ秦公酒、大泊瀬雅武天皇御世、備普洞王、時秦氏惣被劫略、今見在者十不存一、請遣勅使、檢括招集、天皇遣小子部雷、率大隅阿多隼人等、搜括鳩集、得秦氏九十二部一萬八千六百七十人、遂賜於酒、爰秦氏養蠶、織絹、篋詣闕、貢進、如丘如山、積著朝廷……役秦氏、構八丈大藏於宮側、納其貢物、故名其地、曰長谷朝倉宮、ト見ニ、帝

王編年記ニ朝倉宮大和國城上郡磐坂谷也ト云ヒ志、圖會一隅抄亦岩坂黑崎ノ間ニアリトスレハ所謂磐坂谷ソ正ニ其宮址ナルヘキ。

**泊瀬列城宮** 武烈帝ノ皇居ナリ、長谷村ノ出雲ニアリト云フモ址詳カナラス。

**譯語田幸玉宮** 敏達帝ノ皇居ナリ、敏達天皇紀ニ四年命ト者、占海部王、家地與絲井王、家地ト便、襲吉途營宮於譯語田、是謂幸玉宮、ト見ユ、志ニ在太田村ト云フ、何ニ據ルヲ知ラス、蓋他田

社ヲ太田ニアリトスルニ依ルナラン、後考ヲ俟ツ。

**野見宿禰角力舊蹟** 垂仁帝野見宿禰ヲ京師ニ徵シ當麻蹶速ト力ヲ角セシメ給ヘル事、國史ニ見エ、人口ニ膾炙スル所ナリ、其舊蹟何レノ處ナリシヤ記録ノ徵スヘキナキモ、今纏向村

大字穴師々々神社二鳥居ヨリ二町許西、道ノ右側ニ、かたやし、ト字スル茶園アリ、土人ハ

之ヲ以テ角力濫觴ノ舊蹟トナシ且、かたやハ角力場内土ノ古語ナリト云フ、此地ハ垂仁帝

ノ纏向珠城宮址ト珠城山ヲ隔テ、相隣レルノミナラス更ニ我カ國角力行事ノ棟梁豊後

ノ吉田逐風ヨリ木村氏ニ與フル代々ノ免許狀ヲ閱スルニ、形屋之内上草履免許云々ノ文

字アリ、全文史籍集覽ニ收ムル、かたやハ即チ形屋ナリ、土人ノ口碑亦據アルニ似タリ。

**磯城嚴柵本** 垂仁天皇紀ニ一云、天皇以倭姬命爲御杖、貢奉於天照大神、是以倭姬命以天照大

神鎮坐於磯城嚴柵之本、而祠之、然後隨神教、以丁巳年冬十月甲子遷于伊勢國渡會宮、倭姬命

世記ニ卅年丙寅遷倭國伊豆加志本宮、八年辛酉、見ニ即チ天照大神ノ伊勢ニ御鎮座前八

ケ年間安座ノ舊蹟ナリ、址分明ナラス、或ハ云フ白川出雲二村ノ間ニアリ、又云フ長谷町ノ

南ノ民家ノ内ニ礎石二ツアリ、是其跡ナリト、憑據ナシ嚴柵本ハ繁茂セル榎樹ノ下ヲ謂ヘ

ル古語ニシテ地名ニアラス、其樹ノ在ル所即チ磯城地方内ナリシヲ以テ稱セラレタルモノナレハ無論磯城ノ地ニアルヘキニ今白川出雲ハ長谷ノ方域ニシテ其方面ニアラス、況ンヤ長谷町ニ於テヲヤ、古事記ノ歌ニ三語の嚴樞が本、かしがもと、ゆゝしきかも、かしはら

海拓榴市

武烈天皇紀ニ皇太子思欲躬物部鹿火大連女影姫遣媒人向影姫宅期會... 報曰妾望奉待海拓榴市巷敏達天皇紀ニ十四年三月廢斥佛法有司便奪尼三衣禁錮... 海拓市之亭用明天皇紀ニ三輪逆君隱三諸之岳是日夜半潛自山出隱後宮... 推古天皇紀ニ十六年八月迎唐使於海石榴衢ト見え源氏物語卷玉葛ニモ玉葛の君をはつせへなんいたし奉るに、つばいちといふ所に、四日といふ巳の時はかりにいける心ちもせいでいきつき給へりナトアリテ古來著名ノ舊跡ナリ、蓋海石榴市ハ古ハ物品交易ノ處ニシテ四通八達ノ要便ヲ占メ頗ル繁華ナリシハ國史ノ文意ニテ知ラレタリ、今三輪村大字金屋ニ海石榴市觀音ト稱スルアリテ同處ヨリ山崎ニ至ル三輪山ニ沿ヘル處ヲ海石榴市谷ト字セリ、是其名殘ナリ。

萬葉

つはいちの八十の衢にたちならし

ひすひし紐をとかまくおしも

城 壘

三輪城

三輪町大字三輪ニアリ、城山ト字ス、高宮氏之ニ據ル、氏ハ太田々根子ノ苗裔ニシテ世々大神社ノ神主タリ、正平中後醍醐帝ノ南遷シ給フヤ奈良ヨリ當城ニ入御ス、此時大神ノ神主ハ左近衛將監勝房ナリ、勝房夙ニ王事ニ勤勞シ延元四年功ヲ以テ正五位下ニ敍セラル、後チ職ヲ長子元房ニ讓リ常ニ吉野ノ皇居ニ宿衛ス、太平記ニ所謂三輪西阿ハ即チ其人ナリ、事既ニ大神社ノ下ニ詳カナリ。

柳本城

柳本村ニアリ、柳本氏ノ據ル所ナリ、址詳カ國民郷士記ニ柳本平城柳本範宣ト即此氏其出ル所ヲ知ラサレトモ官務録巨勢系ニ應永二十一年三輪神主巨勢因幡ノ女嘉幡但馬守ノ妻トナル依テ神主ト駒伊勢守義則ト相戰フ三輪ノ方ニハ柳本範兼脇本伯耆守討死ス、三輪在家兵火ニ掛ルト、當時既ニ豪族タリシヲ知ルヘシ享徳長祿ノ比大乘院柳本莊下司職ニシテ兼テ草川莊ノ給主タリ、享徳二年十二月十二大乘院領段錢日記ニ楊本莊下司楊本十九貫七百文上之、草川莊給主柳本千菊二貫文上之、又尋尊僧正長祿四年九月二日記ニ庄入怠缺ノ請文ヲ載セ楊本莊御米等損免事不可申入候仍御米百五十五石八升二合八勺并御公事等年内可致其沙汰更以不可有無沙汰仍請文如件、長祿四年九月二十四日下司範滿在トアリ範滿ハ蓋範兼ノ孫ニシテ文明元年横死セリ、同記ニ文明元年四月十四日長ヲ與福智堂珍事出來、自福智堂溝堀之長柄領へ少々堀入ノ間、自長柄福智堂へ押寄及合戰矢負少々有之、右福智堂、舍力豐田入了、右長柄、合力十市罷出、筒井古市以下國中衆大略罷出云云二十日長

式上郡

柄福智堂事楊本範滿入道右仲人罷出種々之處自福智堂方矢ヲ放入道手負テ引退侯希代之仲人ニ候依得手昨日夕方範滿入道隱寂之不便之事也範滿ノ父子今存命八十餘歳者也殊更不便事也ト是ナリ御兵士引付ニ五月中旬楊本範遠トアリ範遠ノ事跡詳カナラス範滿ノ子カ天文祿ノ際範堯アリ國民郷士記ニ城上郡楊本範堯楊本範宣此レ即チ範宣ノ父ナルヘシ爾後楊本氏聞ユルナシ元和中幕府織田氏ノ采地トナシコレニ治セシム。

**小夫壘** 上郷村大字小夫ニアリ小夫氏之ニ據ル國民郷士記ニ小夫山城小夫筑後又曰小夫小左衛門小夫筑紫入道實空小夫休意ト即此氏其出ツル所ヲ詳カニセス聞書覺書ニ小夫ハ意富ニシテ神八井耳命ノ苗裔ト云フモ據ナシ天文ノ頃實祐アリ蓋實空ノ父ナルヘシ。

陸 墓

**山邊道上陵** 崇神帝ノ陵ナリ柳本村大字澁谷ニアリ王ノ墓ト字ス。

**山邊道上陵** 景行帝ノ陵ナリ柳本村ニアリミサンサイト字ス。

**善臺** 倭迹々百襲姫皇女ノ墓ナリ織田村大字箸中ニアリ箸塚山ト字ス。

**押坂内陵** 舒明帝ノ陵ナリ城島村大字忍坂ニアリダンノ山ト字ス周邊ニ田村大伴ノ二皇女及鏡女王ノ墓アリ。

**吉隱陵** 光仁帝ノ御母紀氏ノ陵ナリ初瀬村字角柄ニアリ高冢ト字ス。

**白川陵** 村上帝ノ中宮源氏諱顯子落飾シテ新ノ陵ナリ朝倉村大字笠間ノ笠間山ニアリ。

式下郡

城下一ニ式下ニ作ル、磯城下ノ略ニシテ本ト磯城縣ヨリ推及ホセルモノナリ、説式上郡ノ下ニ詳カナリ、大化中縣ヲ廢シ郡ヲ置クニ及ヒ磯城地方ヲ二分シ其賀美、大和三宅、鏡作、黑田、室原ノ六郷ヲ一郡トナシ、名クルニ磯城下ヲ以テス、古ヘハ物部、鏡作、大和、三宅ノ諸族コ、ニ貫住セシカ後チ漸ク衰微シ全郡殆ント興福寺領トナリ大乘院ノ所有ニ屬シ長谷川、森屋、法貴寺、糸井、唐古ノ諸氏之カ莊官トナリ、此輩亂離ニ乘シ莊田ヲ押領シ自大ノ計ヲナシ毎ニ寺家ノ患ヲナセルコト尋尊僧正ノ記録ニ見エ、既ニ首卷ニ述フルカ如シ、戰國ノ世ニ至リ郡中ノ豪族悉ク筒井ノ麾下ニ屬ス、法貴寺、森屋、伴堂、唐院、唐古、吐田、小柳等ノ諸氏アリ、國民郷士記ニ式下郡騎馬三十騎、雜兵百三十人、筒井諸記ニ城下郡馬上三十三騎、雜兵百三十人、御改村數三十三ヶ村、高二萬二千四百二十六石餘ト是レ當時ノ形勢ナリ、徳川氏一統ノ後チ本多水野ノ諸氏郡中ヲ分領シ幕府ノ直領モ亦其間ニ介在シ都テ二萬七千二百二十七石餘ト稱セリ、大和國郷帳ニ據リ村名石高及ヒ領主等ヲ記スレハ左ノ如シ。

- 一、高六百六十七石五斗二升五合 本多唐之助 保田村
- 一、四百五十八石七斗四升一合 同 小柳村
- 一、千八十三石五合 同 唐院村
- 一、八百七十七石一斗四升一合 同 吐田村
- 一、七百二十一石九斗一升八合 同 但馬村

式下郡



一、六百五十石八斗二升五合  
 一、千九十三石一斗八升八合  
 同 幕府直領  
 合高二萬七千二百二十七石八斗五升二合  
 村 數 四 十  
 遠 田 村  
 檜 垣 村  
 明治二十一年町村制ヲ布カル、ヤ更ニ分合シテ川東 村  
 井上、伊與戸、西井上、西代、大木、大 都 尾宮、新町、黒田、八 川西 村  
 安寺、今里、平田、坂手ノ二十三村 尾宮本ノ五村 川西 吐結、梅戸ノ六村 三宅 村  
 馬、石見、小 柳ノ七村 ノ四村トナス。

### 村 里

**都村** 孝靈帝黒田ニ都ス、之ヲ廬戸宮ト號ス、今黒田宮古間ノ田畝ニ宮古前、大君内裏坪ト字スル處アリ、是其皇居ノ舊址ナルヘシ、明治二十一年宮古外四村ヲ一村トナシ名クルニ都ヲ以テス、都杜ハ名所タリ。

類聚抄  
 すきゆかむ三輪の山邊をしるしにて  
 都のもりの名をな忘れそ

**三宅村** 垂仁帝ノ御宇倭屯家ヲ定メ給ヘル事國史ニ見ユ、屯家一ニ屯倉、御宅、三宅ニ作り即チ屯田ヲ掌ル官衙ナリ、所謂屯田ハ田部鑿丁カ時ヲ以テ來リ屯シ耕作スル田地ニシテ之ヲ掌ル官人ヲ屯倉首或ハ三宅連ト稱ス、姓氏錄大和ニ絲井連新羅國人天日槍之後也ト見ユ、天日槍ハ三宅氏ノ祖ニシテ絲井ハ今ノ結崎地方ノ舊稱ナレハ三宅ノ地名ハ倭屯家ニ起因セルモノナラン、和名抄ニ三宅郷アリ已廢シ方域詳カナラサルモ志ニ據ルニ宮古地方ナリト云フ、三宅道三宅野ハ名所ニシテ古人ニ詠セラル、明治二十一年伴堂外六村ヲ一村トナシ三宅ト名ク。

**黒田** 孝靈帝コ、ニ都ス、後チ其地ヲ立テ、一郷トス、和名抄ニ所謂黒田郷是ナリ、已廢シ村名ヲ存ス、今都村ノ大字タリ。

**西代** 川東村ノ大字ニ屬ス、本ト西田井ニ作ル、天正ノ頃物部ノ苗裔西田井氏コ、ニ住ス、國

民郷士記ニ西田井則秀布留久留ノ子大木連ノ弟物部系圖石上考ニ十市根……五十琴一布留

久留一大木連小事田井ト即此伊豫部今伊與戸ニ作り川東村ノ大字タリ聞書覺書ニ物部印葉ノ弟伊與ハ伊與部氏ノ祖

也ト郷士記ニ伊與戸孫四郎アリ疑クハ此其苗裔

大木同村ノ大字タリ聞書覺書ニ十市根ヨリ四世布留久留命一男ハ大木連ハ大木氏祖也

唐古文祿四年唐古村檢地帳ニからこ田大領すかた大しやうぐんノ字アリ村名コ、ニ出

古今川東村ノ大字タリ

小坂川東村ノ大字ニ屬ス戰國ノ頃小坂氏アリコ、ニ居ル郷士記ニ小坂右京進貞喜源賴

八田同村ノ大字タリ戰國ノ頃八田氏アリ同記ニ八田勘書八田肥前足利新田判官代義康二

井上同村ノ大字タリ東西戰國ノ頃井上氏アリ源賴信ノ末孫ト稱ス同記ニ井上十郎源賴

鏡作郷和名抄ニ見ユ已廢シ都村大字八尾ニ鏡作社アリ

大和郷同抄ニ見ユ已廢シ川東村大字海智ニ倭恩智社アリ其東相去ル十町許ニシテ大和

於市磯邑後改名曰ト大倭邑ハ倭大國魂神ヲ祭レルニ起因シ本ト大和社近傍社ノ位置ニ變

社名ニ存スルノミ

室原郷和名抄ニ見ユ已廢シ志ニ唐子存ト云ヘルモ何ニ據ルヲ知ラス

阿刀村天皇紀ニ所謂倭國吾礪邑是ナリ志ニ在坂手村東南人家今亡ト云ヘリ

相模家集

鹿の音に草の庵も露けして

式 下 郡



涙なかる、阿刀むらの里

村屋村 天智天皇紀壬申ニ近江將犬養連五十公自中道至之留村屋ト村屋ノ國史ニ見ユル之ヲ以テ始メトナス、奈良朝ノ頃大安寺領タリシコト彼寺流記資財帳ニ見ユムラ「モリ」音相通スルノミナラス字亦適用ス、故ニ杜屋或ハ森屋ニ作ル、延喜式ニ凡四月八日七月十五日齋會充伎樂人於東西二寺……前會三日官人史生各一人就樂戶鄉簡充在大和國城下郡杜屋村ト即此後チ東大寺領トナリ杜屋庄ト稱ス、段歩ハ東大寺要録ノ長徳四年注文ニ見エタリ、興福寺大乘院領トナルニ及ヒ十市氏ノ一族之レカ下司職トナリ更ニ森屋黨ト稱ス、段錢日記ニ森屋莊給主十市貳貫八百文御兵士引付ニ十市新賀分……森屋莊下司ト是ナリ、杜屋ノ名稱既ニ亡ヒ村屋社ハ川東村大字地藏堂ニアリ、乃チ知ル今ノ藏堂ハ古ノ杜屋ノ地ナルヲ。

糸井莊 姓氏錄ニ糸井連アリ、延喜神名帳ニ糸井社アリ、其ニ地名ニ因メル稱ナリ、社ハ川西村大字結崎ノ市場ニアリ、然ラハ古ヘ糸井ト稱スルハ今ノ結崎地方ナルコト自明カナリ、尋尊僧正應仁記ニ城下郡糸井庄結崎ト以テ證スヘシ、糸井庄ハ大乘院領ニシテ長谷川黨ノ一族糸井衆ト稱スル者之ヲ支配セリ、段錢日記ニ糸井庄長谷川一黨 壹貫五百文御兵士引付ニ法貴寺一黨糸井衆糸井庄ト即此但法貴寺黨ハ長谷川黨ナリ。

大和川 城上山邊二郡ヨリ來リ海智ノ倭恩智社ノ西南ヲ經、大和川ト稱シ平群葛下二郡ノ間ヲ流レ河内ニ入ル。

夫木

あふ事のとほちの里はやまと川

思はぬ中にありとこそきけ

遊部川 一ニ蘇武川ト稱ス、ソブハアソブノ略ナリ、説高市郡遊部郷ノ下ニ出ツ、參考スヘシ、十市郡ヨリ來リ但馬唐院等ヲ經、保田ニ至リ長谷川ニ入ル。  
坂手池 景行天皇紀ニ五十七年九月造坂手池、殖竹於堤上ト川東村ニ大字坂手アリ、志ニ池今潤爲田畝堤今十市郡東竹田村ト云フ、東竹田、坂手相距ル遠カラス、蓋古ヘ一區ノ方域ナリシナラン。

原 野附道

三宅原 都村大字宮古ニアリ名勝タリ。

萬葉

打くつの三宅の原……

新六帖

打くつの三宅の野邊の朝かすみ

つたへし道をなとへたつらむ

中道 一ニ三宅道トモ稱ス、天智天皇紀ニ東師頻多臻則分軍各當上中下道而屯之唯將軍吹負親當中道於是近江將犬養連五十公自中道至之留村屋……ト見エ、古ヘ倭路ト稱スルモノニ三道アリ、曰ク上津道曰中津道曰下津道是ナリ、上津道ハ即チ山邊路ニシテ奈良ヨ

式下郡

リ布留ヲ經テ三輪ニ赴クモノ、下津道ハ添下郡ヨリ平群ヲ經テ十市郡ニ達スルモノ、中津道ハ其中間ニアリテ三宅野ヨリ村屋社前ヲ經由スルモノナリ、故ニ一ニ三宅道トモ字ス志ニ三宅道今日中道ト即此、

萬葉

父母にしらせぬ子ゆへ三宅路の

夏野の草を菜つみくるかな

草根

敷島やすくなる中津道あるを

知らでやつゐに大和ことの葉

### 神社

村屋坐彌富都比賣神社 延喜神名帳ニ村屋坐彌富都比賣神社大月次相ト見ユ、川東村大字

藏堂ノ大宮ニアリ、俗ニ森屋明神ト稱ス今郷社タリ。

祭神

三穗津姫命ヲ祭ツル、姫ハ大物主命ノ配ナリ、日本書紀神代卷ニ高皇產靈尊勅大物主神汝若以國津神爲妻吾猶謂汝有疏心今以吾女三穗津姫配汝爲妻ト即此、但創祀ノ由來詳ナラス。

神戶

天平二年大和國大稅帳曰村屋神戶、稻壹拾參束貳把租肆拾壹束合伍拾肆束貳把、用伍拾肆

束祭神四束 殘貳把、

新抄勅格符鈔曰杜屋神六戶大和三戸美作三戸

文祿四年藏堂村檢地帳曰上田拾五間 壹畝壹斗二升 大禰宜、上田十七間 三畝四斗 大禰宜、上田十六間 二畝貳斗四升 大禰宜、おゝいと……中おゝいと……上田十六間 三畝六步三斗八升四合神子。

雜事

天智天皇紀曰將軍吹負、爲近江所敗、以獨率一二騎走之、逮于墨坂、偶逢苑軍、至更還屯、金網井而招聚散卒……東帥頻臻、則分軍各當上中下道、而屯之、唯將軍吹負親當中道、於是近江將犬養連五十公自中道至之、留村屋而遣別將廬井造鯨、率二百精兵、衝將軍之營、當時麾下軍少

以不能拒愛大井寺奴名德麻呂等五人從軍即德麻呂等爲先鋒以進射之鯨軍不能進案スルニ大井寺ノ事ハ他ノ記録ニ所見ナシ舊跡幽考ニ鳥居の内に中津道あり又五丁許さりて大井の井手といふ所なりト大井の井手ハ文祿檢地帳ニ所謂おゝいとト字スル所ニシテ即チ大井寺ノ在リシ地ナラン續日本紀ニ寶龜三年三月置酒於靱負大井賜陪從五位以上及文士賦曲水者祿有差トアルヲ志ニ靱負大井在藏人村舊稱大井戸見東大寺舊軸ト云ヘリ

是日三輪君高市麻呂置始連菟當上道戰于箸陵大破近江軍將軍亦更還本處而軍之先是軍金網井之時高市郡大領高市縣主許梅社此處ノ高市又村屋神著祝曰今自吾社中道軍衆將至故宜塞社中道未經幾時廬井造鯨軍自中道至時人曰即神所教之辭是也軍政既訖將軍等舉是三神教言而奏之即勅登進三神之品以祠焉

三神ハ村屋高市牟狹ノ三座ナリ神祇ニ品階ヲ奉授スルノ史ニ見ユル之ヲ以テ始トス鏡作坐天照御魂神社 郡村大字八尾ニアリ延喜神名帳ニ鏡作坐天照御魂神社新嘗大月次ト見ユ今郷社タリ

祭神

八尾鏡作大明神作法書ト題スル記録尾氏藏ニ御祭神遠祖糠戸命遠祖石凝戸姥命兒己凝戸邊命奉號三社鏡作大明神ト見エ法印眞長カ天文二年社記ニハ石凝姥命中天糠戸命右天兒屋命左トアリ今尙天文ノ社記ニ仍リ石凝姥天糠戸天兒屋ノ三神ヲ祭レリ然レトモ穴師神主齋部氏家牒大和注進狀ニ

鏡作神社三座

神名帳云大和國城下郡鏡作座天照御魂神社一座新嘗大月次

社傳云中座天照大神之御魂也傳聞崇神天皇六年九月三日於是地改鑄日御象之鏡爲天照大神之御魂今之内侍所神鏡即當社其像鏡奉齋爾來號其地曰鏡作

神名帳云左座麻氣神者天糠戸神大山祇之子也此神鑄作日之御像今伊勢崇祕大神也接反齋部家牒古語拾遺與神代卷符合ス

右座伊多神者石凝姥命天糠戸命之子也此神鑄作日象之鏡今紀伊國日前神是也

トアリ之ニ據レハ崇神帝ノ御世ニ此地ニ於テ内侍所ノ神鏡ヲ鑄造セシメ給ヘル像鏡試即チ糠ナリヲ天照御魂ト稱シテコニ祭リタルモノナリ而シテ其神鏡ト云ヒ像鏡ト云ヒ共ニ石凝姥命一名天ノ子孫鏡作氏ノ鑄造スル所ニシテ石凝姥嘗テ天照大神ノ靈ニ象リ八咫ノ神鏡ヲ造リシヨリ天照御魂或ハ火明ノ別號ヲ得子孫其業ヲ襲ヒ鏡作ヲ氏ト

セリ所謂右座伊多神ハ石凝姥ニシテ延喜神名帳ニ城下郡鏡作伊多神社ナリ左座麻氣神ハ石凝姥ノ父天糠戸ニシテ同帳ニ城下郡鏡作麻氣神社即チ此ト部兼俱カ神名帳頭注ニモ鏡作麻氣神天糠戸命伊多神石凝姥命也ト云ヘリ亦以テ證スヘシ然ラハ則チ當社ハ内侍所ノ御像鏡ヲ祭リ本ト一殿ナリシヲ後チ麻氣伊多ノ二社ヲ其左右ニ祭リ之ヲ鏡作三所社ト稱セルモノナルニ後世其祭神ヲ誤リ傳ヘ以テ今日ニ至レルモノナリ

神戶

大和國大稅帳曰鏡作神戶稻貳佰貳拾玖束租貳拾壹束參把合貳佰伍拾束參把用肆束祭神

殘貳佰肆拾陸東參把。  
新抄勅格符抄曰鏡作神十八戸大和十六戸 麻氣神一戸丹波國 神護景雲四年充  
案スルニ和名抄ニ伊豆國田方郡鏡作郷トアリ、此レ當社ノ神戸タリシヨリ命名セル郷  
名ナルヘシ。

雜事

天香山命ノ子孫蕃衍分レテ數派トナル、其鑄鏡ヲ業トスルモノハ鏡作氏ヲ稱シ吹笛ヲ事  
トスルモノハ五百木ノ氣吹ヲ氏トナシ其同族ニシテ水主ニ住スルモノハ水主氏ヲ稱シ竹  
田ニ住スルモノ他田ニ住スルモノ各其居處ニ隨テ氏ニ命セラル、其族人ノ本郡ニ住セシ  
コトハ正倉院藏天平十四年文書ノ署名ニ黒田郷戸主正六位下大市首益山、戸口鏡作首繩  
麻呂同郷戸主鏡作連淨麻呂、戸口他田臣旅作ナトニテ知リ得ヘク、和名抄ニ城下郡鏡作郷  
ハ其氏人ト神社トニ起因セルモノナリ、水主氏ハ實ニ當社ノ神職ニシテ大同中彼レカ奏  
上セシ家傳ノ藥法載セテ大同類聚方ニアリ即チ左ノ如シ。

阿可理藥 山外國城下郡鏡作二鎮座天照御魂神社之宮人水主直國平之家二傳留所之  
能里元者天香山命神方

身伊太玖保天利太波古登云者二用宇留玖周離  
耶麻於保彌七分 久數廻彌三分 保々加波五分 波自加美三分 伊波久須利五分  
案スルニ同書ニ太計介藥對馬國下縣郡阿麻氏留神社之宮人箇田連重宗之家仁傳流所  
云々ト、水主竹田共ニ天香山命ヨリ出ツ、水主氏家傳ノ藥法ヲ阿可理ト稱スルハ香山命

ノ一名ヲ火明命ト曰フニ因レルノミ。

○鏡池 境内ニアリ名勝タリ。

堀川百首

みさひゐる鏡の池にすむおしは

みつから影をならべてぞすむ

池座朝霧黃幡比賣神社

大和國大稅帳ニ池神戸、稻壹拾陸東、租陸拾壹東、合漆拾漆東、用伍拾

肆東祭神四東

殘貳拾參東、新抄勅格符抄ニ池神三戸、大和延喜神名帳ニ池坐朝霧黃

幡比賣神社大月次相

ト見エ、神名自ラ明カナルモ何神ナルヲ詳ニセス、蓋朝霧ハ黃ノ冠辭

ナリ、神名帳考證ニハ日本書紀云天忍穗耳尊娶高皇產靈尊之女天萬栲幡千幡姫生兒天照

國照火明命、按黃幡千幡音相通トモ云ヒ栲幡千幡姫ヲ祭ル所トスルモ他ニ據ナシ、然ルニ

廣瀬社ノ攝社ニ地風神社ト稱スルモノアリ、廣瀬社記抄ニ其祭神ヲ朝霧黃幡男命一名龍

夕霧黃幡女命一名龍トナセリ、亦何ニ據ルヲ知ラス、姑ク異聞ヲ記シ以テ後考ヲ俟ツ。

池社ニ關スル事歴ハ大略斯ノ如クナルモ漸次衰頽シ中古以來其所在ヲ詳カニセス、志ニ

在、法貴寺村今稱天神ト云ヘルニヨリ今其社ヲ以テ式内池社ト稱シ現ニ郷社タリ。

池社ト稱スル天神社ハ川東村大字法貴寺ニアリ、興福寺英俊法印日記ニ永正二年九月十

九日法貴等神事爲見物、下向候以次十市箸尾禮ニ罷出候ト云ヘルハ即チ當社ノ神事ナリ、

下ニ引ケル法貴寺ノ記録ニ據ルニ天慶九年九月十九日ニ北野ヨリ勸請セシ所ト云フ、至

德元年ノ春日若宮會目錄ニ法貴寺天滿宮ノ事見ユレハ其創始ノ尙シカリシヲ知ルヘシ、

而シテ法貴寺ハ秦河勝ノ草創ト稱スル舊刹ニシテ長谷川黨ノ氏寺ナリ故ニ長谷川黨ノ一名ヲ法貴寺氏人ト稱ス當社ハ其伽藍鎮守神トシテ勸請セルモノナラン古來同寺其祭祀ヲ管シ長谷川黨コレニ與カルハ蓋シコ、ニ起因スルモノカ、城内ニ春日若宮ヲ祭レリ今中氏唐子ノ住人大和武士ノ裔ノ說ニ古ヘ長谷川黨若宮會ニ預ルニ先チ天神社ニ事アリ故ニ若宮ノ分靈ヲコ、ニ勸請セルモノナリト、其レ或ハ然ラン、長谷川黨ノ春日若宮ト當社及法貴寺ニ關係ヲ有スルコト今中氏所藏ノ舊記ニ見エ、既ニ春日社ノ下ニ述フルカ如シ。

當社古來法貴寺ノ鎮守タリシヲ以テ舊記ハ社家ニ傳ハラスシテ彼寺ニ存セリ、左ノ舊記及ヒ古圖ハ舊法貴寺實相院維新ノ際遷俗シテ藤原政久ト稱シ山邊郡大宇岸田ニ住ス今ハ故人トナレリノ所藏ニ係リ當社法貴寺ノ事跡ヲ知り得ヘク他ニ類本ナキヲ以テ其全文ヲ揚載スモノナリ。

法起寺舊例寺役之事

正月修正會七日三夜朔日初夜開白八日朝結願也

同三日天滿宮御供御供祝詞神主供、神樂惣市八乙女、願主人社參於拜殿御供神酒頂戴、心經錫杖經普門品、頭仕二人、至伺公チントナリト大聲ニ申開畢各々退出

同三日朝天藥師御供餅調和

同三日於拜殿大般若二夜三日開白巳刻開白法則別當役五日朝結願

正月四日天滿宮牛王加持作法於拜殿勤行之

牛王紙別當ヨリ出之年預書之、柳杖神主出之、藥師院牛王、太子院牛王、天滿宮牛王、**牛王命**、寶印五所居福徳合田千代年預役勤之

先本堂午王加持畢 申刻出拜殿 花餅帳神主讀之

同五日本堂并諸堂 舊冬備置中懸餅并花ヒラ餅皆々取之置

大御鏡餅供之

同五日從初夜時別當年預承仕等三夜藏本堂後夜後夜師作法

錫杖理趣經勤行有之後夜鐘鳴聞衆僧各々本堂ニ出仕而同事勤之

同七日大竹五色幡御幣錢形有之、祓人數散米次第取テ巡之

心經錫杖經頭師同音大聲顯誦撥遣拔投之役神退治祈願廻白大竹等ハ諸人集而引勝取之

同八日後夜ニ修正會結願於別當坊且飯有之中、殘餅配當兼仕役配之

同日藥師講式迦陀阿闍梨年預式師役

同十二日講式迦陀年預式師結集其等各位誦誦之

同十九日天神講式伽陀普門品式師別當、諸禮實禰宜役勤之、御供神酒祝詞祭文神主役、造用別當贈之、小圓子大根細目小豆味噌煎御供、願主人年預衆

同二十五日天神講式伽陀普門品式師別當御供神咒祝詞祭文等、結集帳誦誦中飯講中年預造用

二月八日脩正會初夜言摩前ニ勤白午王杖、加持香水

同十九日常樂會式師別當阿闍梨年預一同願主人出仕

同二十五日本願聖靈會式伽陀式師別當

三月三十講願主人年預讀師別當

○朝最勝王經法則經釋夕座法花經法則經釋也

○中興衆僧無人故十五日間日中兩座經尺四本宛講談畢

○三十講本願法貴寺氏人元祖在氏陸奥守廣遠朝臣也

○法貴寺石塔外島廣濶下有之系如上

○金剛寺佐味福岡氏等モ當寺氏人系有之也

○三十講結願爲祝儀頭別樽肴等於テ今有之舊例軌則也

○衆僧無人數時藏福寺齋宮寺觀音寺安樂寺養福寺并當寺鄉内ノ僧中交番而勤修古例

云云

○年中年代廣氏古記一卷有之失水依之再治書之

三月三日社頭御供

○五節供同斷

○心經錫杖普門品御法樂五供共同斷

六月朔日身會木御祭禮始願主人社參於別當一會兩度振舞有之

七月十五日盂蘭盆會法則講談別當役

九月十九日天滿宮御祭禮天慶九年丙午秋十九日鎮座シ玉フ也

十九日流鋪馬アリ願主人年預造用賄之西一ノ

地蔵ヨリ東三ノ小門通出

願主人客ヨリ小門通出

霜月朔日願主人社參

十月廿八九日願主人衆中一所大宿所會合晦日立田垢離

朔日法貴寺へ社參當寺ヨリ春日社參始例於于今有之

御師願主楊兒三騎渡於別當中飯願主年預造用賄之

極月八日佛名會

同十二年預定明年寺役指定配文者十三日張之公文坊役書之

同大晦日夜北斗供年預勤之畢後總百八

右舊例寺役御祈禱定狀如件

于時寛文十二年壬子十二月十三日

法貴寺々社坊舍指圖之事(次頁ニ掲ク)

馬場表諸木在所知名寄之事

居座松 有從古來不知年數也

同斷 延寶年中枯

榎木二本 凡慶長年中比植也年老人上下シテ小木成事覺由

杉 年數不知之

櫻 上田藤兵衛寄進

櫻 庄屋兵四郎寄進

松 承仕權四郎 寛文中寄進

山櫻 中林久彌寄進

式下郡

双方年預

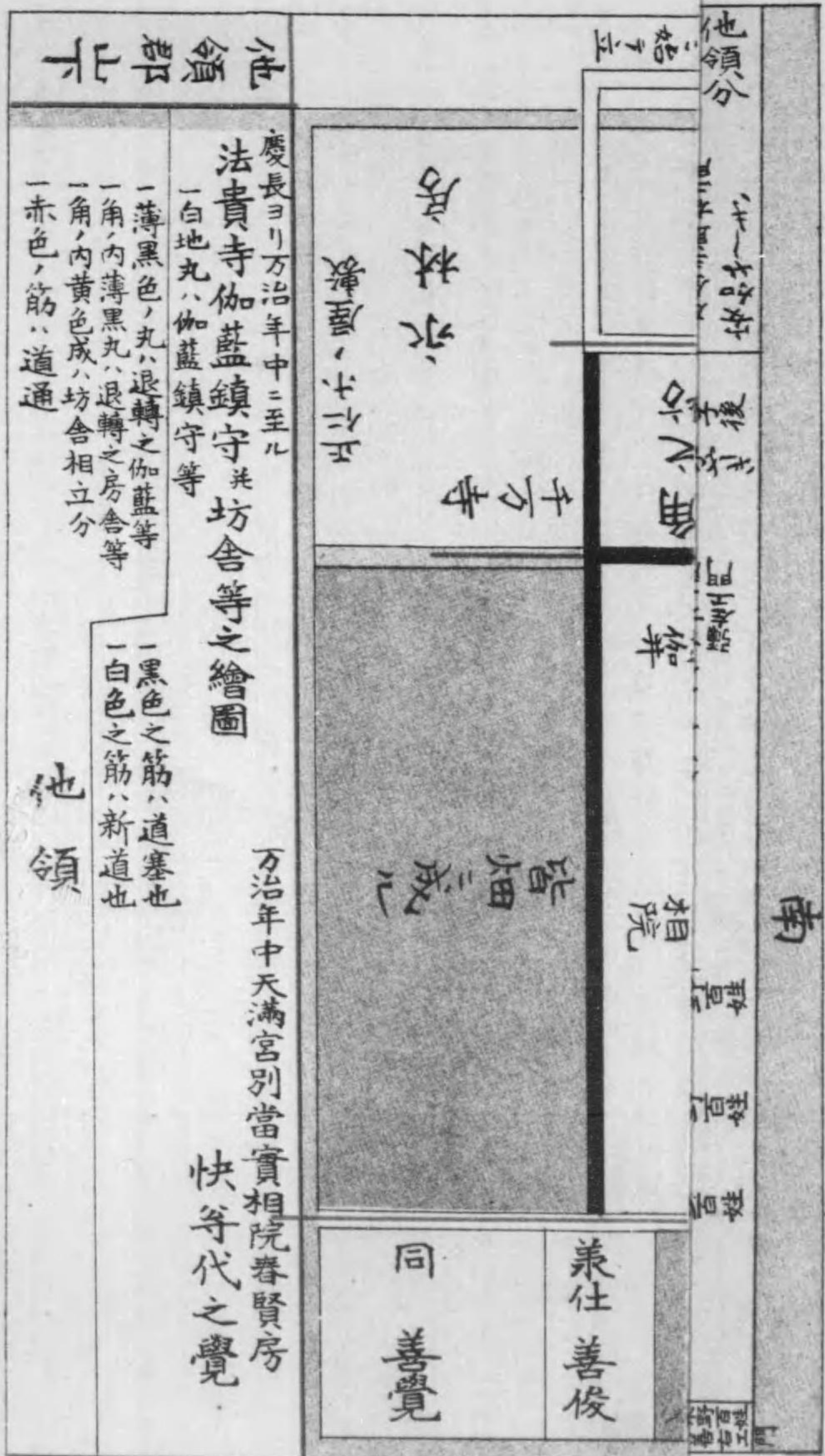


藏福寺在原氏寺 勸音寺外島氏寺 小坂村ニアリ 安樂寺 吉田氏寺 南都大乗院殿一代隱居寺也大石塔有之 養福寺唐古村ニアリ

同 承仕	沙汰方先祖	善 良	善 行	左 近	右 近	小 神子
同 社役						
別 當	惣市曾福市大福宜					
同 氏	細系圖南都興福寺千手院在之					
齊 宮	丹波 奥谷 下河原					
唐 古	南 庄 村 東					
福 村	佐味等					

寛文十二年記之快流代

糸井神社 川西村大字結崎ノ市場ニアリ、延喜神名帳ニ糸井神社並ト見ユ、今村社タリ、祭神詳カナラス、但舊結崎二十五人衆ノ一鵜廣瀬彌兵衛氏ニ縁起一卷ヲ藏ス、其文ニ、  
 抑當社明神の由來をたつぬるに昔この朝始まりしよりこのかた人王十六代應神天皇ハ仲哀天皇の王子御母公ハ神功皇后なり庚寅のとし即位大倭の國輕島豐明の宮にまします時に應神天皇十四年百濟國より博士王仁來朝して經史を傳へられ太子以下是を學び習ひ給へ則ち是漢字文書の初めなり此時より吾國に仁義禮智信の五常の道始まると云々此時吳國より綾は吳はといふ織女來りて此織女河内の國丹比野にかひこをかふこと

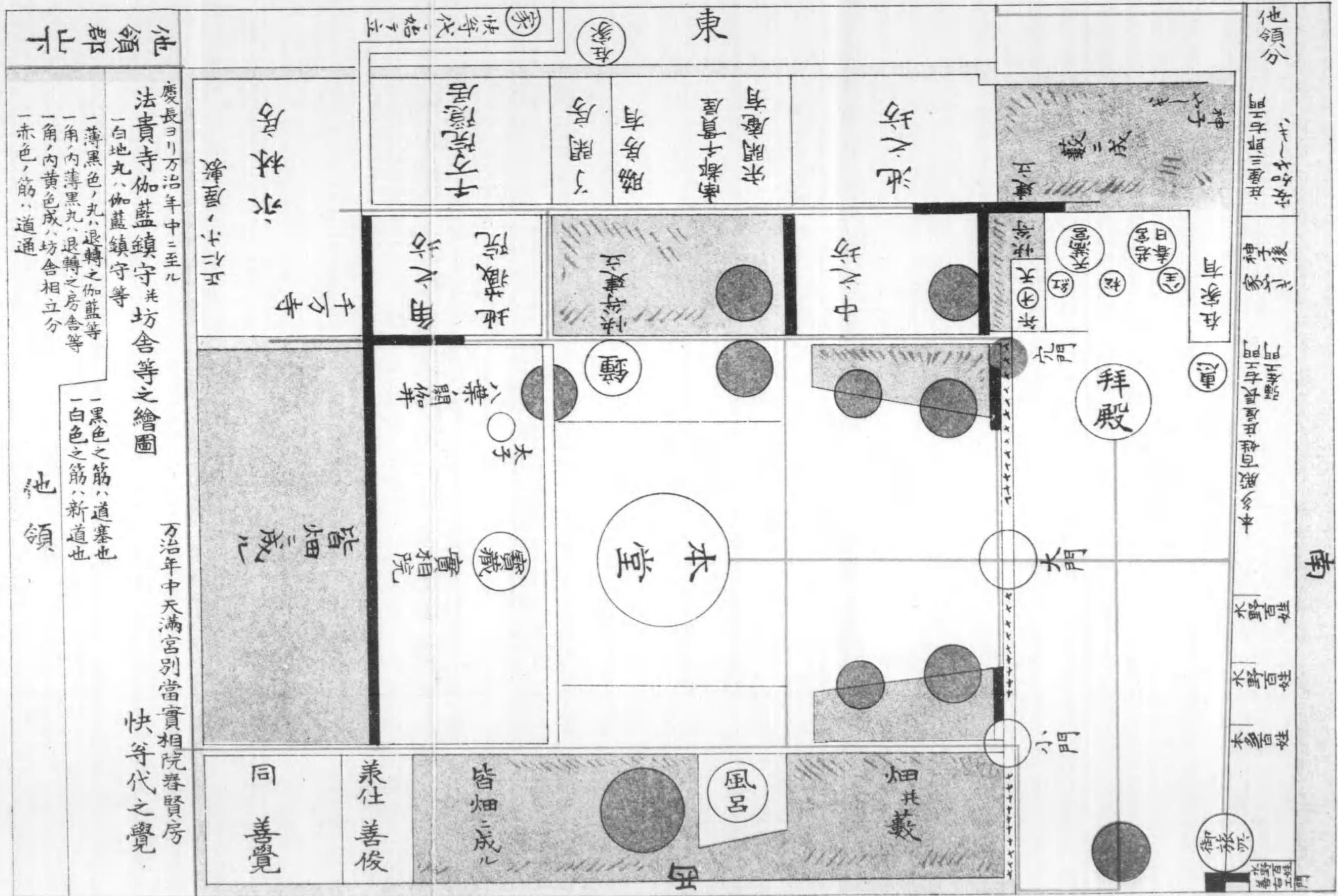


慶長ヨリ万治年中ニ至ル  
 法貴寺伽藍鎮守坊舎等之繪圖  
 一薄黒色、丸ハ退轉之伽藍等  
 一角、内薄黒丸ハ退轉之房舎等  
 一角、内黄色成ハ坊舎相立分  
 一赤色、筋ハ道通  
 一黒色之筋ハ道塞也  
 一白色之筋ハ新道也  
 万治年中天満宮別當實相院春賢房  
 快年代之覺



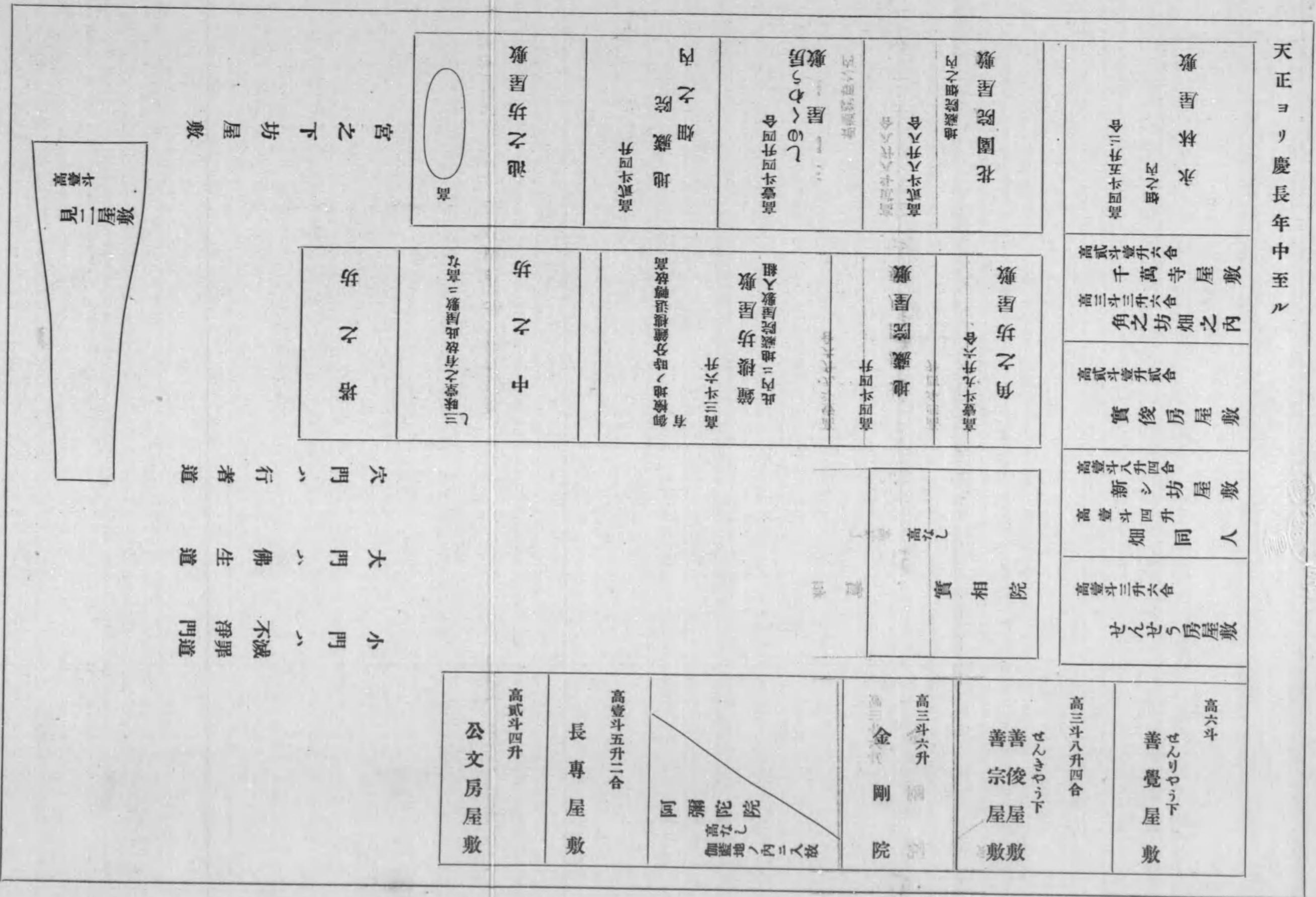


露光量違いの為重複撮影

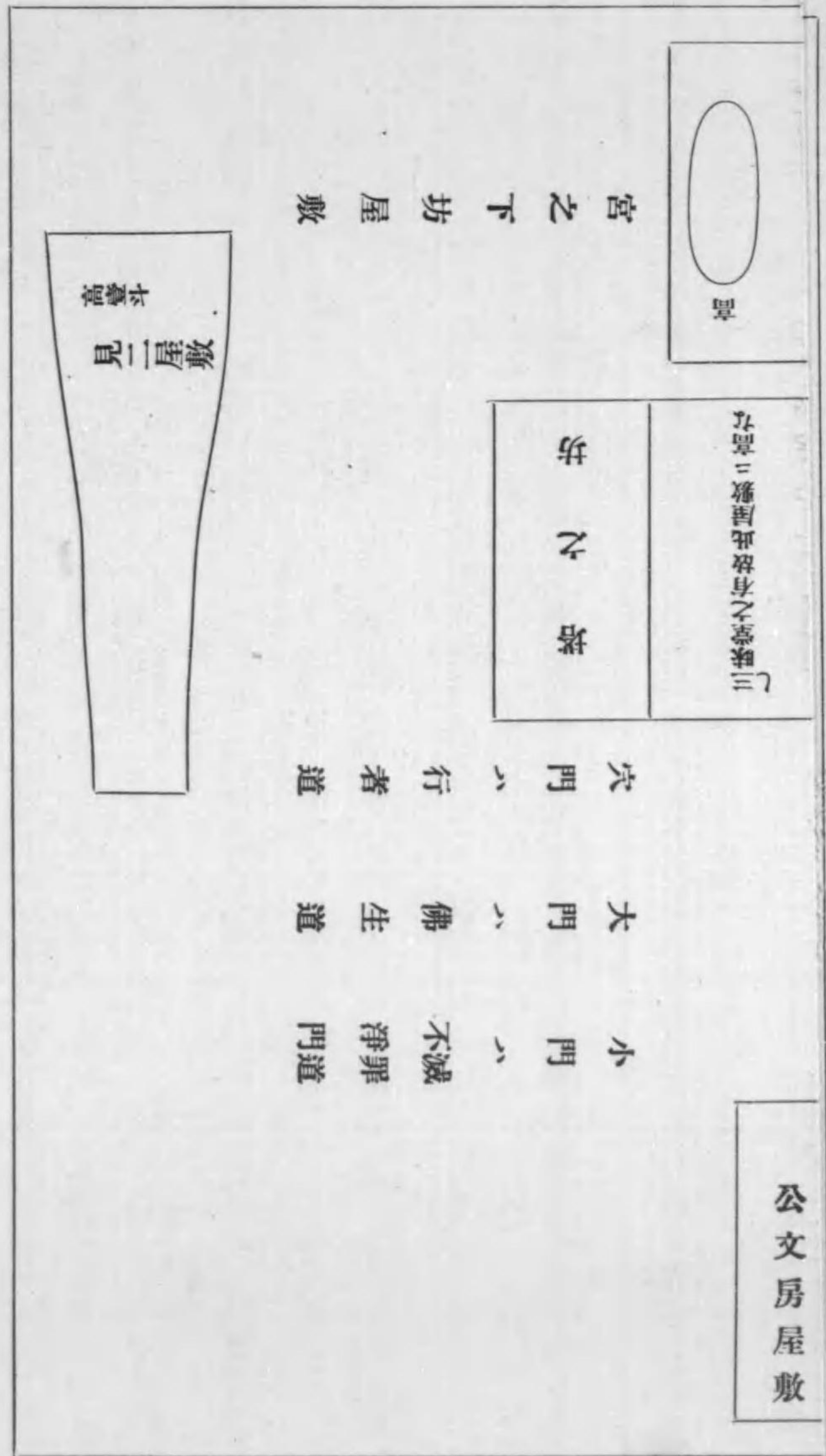


仲哀天皇の王子御母公ハ神功皇后なり庚寅のとし即位大倭の國輕島豐明の宮にまします時に應神天皇十四年百濟國より博士王仁來朝して經史を傳へられ太子以下是を學び習ひ給へ則ち是漢字文書の初めなり此時より吾國に仁義禮智信の五常の道始まると云々此時吳國より綾は吳はといふ織女來りて此織女河内の國丹比野にかひこをかふこと

天正ヨリ慶長年中至ル



はじめ給ふて織女天皇の勅掟をこうむり大和の黒田<sup>クロノダ</sup>鷹<sup>トウ</sup>戸<sup>ド</sup>の宮の邊にて始めて綾錦をおらしむ是を機織殿といふ亦結崎の明神或は絹引神とも申すなり貞觀三年に從四位に任ぜらる本殿豊鍬入姫命<sup>トアリ</sup>明<sup>ミ</sup>神<sup>カミ</sup>なり大倭<sup>オホヤマト</sup>同<sup>ナニ</sup>二<sup>ニ</sup>宮<sup>ミヤ</sup>猿<sup>サル</sup>田<sup>ノ</sup>彦<sup>ヒコ</sup>命<sup>ノミコト</sup>是<sup>コト</sup>は<sup>ハ</sup>ち<sup>ハ</sup>ま<sup>マ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>社<sup>ヤシロ</sup>若<sup>ニガハ</sup>宮<sup>ミヤ</sup>也<sup>ナリ</sup>同<sup>ナニ</sup>三<sup>ニ</sup>宮<sup>ミヤ</sup>綾<sup>アヤ</sup>羽<sup>ノ</sup>明<sup>ミ</sup>神<sup>カミ</sup>同<sup>ナニ</sup>四<sup>ニ</sup>宮<sup>ミヤ</sup>吳<sup>ニ</sup>羽<sup>ノ</sup>明<sup>ミ</sup>神<sup>カミ</sup>ト<sup>ナリ</sup>ア<sup>リ</sup>之<sup>ノ</sup>ニ<sup>ニ</sup>據<sup>ス</sup>レ<sup>ハ</sup>當<sup>マカ</sup>社<sup>ヤシロ</sup>ハ<sup>ハ</sup>漢<sup>カン</sup>織<sup>オリ</sup>吳<sup>ニ</sup>織<sup>オリ</sup>ノ<sup>ノ</sup>靈<sup>ミコト</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>祭<sup>ス</sup>レ<sup>ル</sup>ナ<sup>リ</sup>然<sup>シ</sup>ル<sup>ニ</sup>ニ<sup>ニ</sup>豊<sup>トヨ</sup>鍬<sup>ノ</sup>入<sup>リ</sup>姫<sup>ノ</sup>命<sup>ノミコト</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>本<sup>ノ</sup>宮<sup>ノ</sup>ト<sup>ナシ</sup>之<sup>ノ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>大<sup>オホ</sup>倭<sup>ヤマト</sup>明<sup>ミ</sup>神<sup>カミ</sup>ト<sup>ス</sup>ル<sup>ハ</sup>何<sup>ニ</sup>由<sup>リ</sup>ル<sup>ヲ</sup>知<sup>ラ</sup>ス<sup>テ</sup>淳<sup>ニギハヤヒ</sup>名<sup>ノ</sup>城<sup>ノ</sup>入<sup>リ</sup>姫<sup>ノ</sup>命<sup>ノミコト</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>大<sup>オホ</sup>倭<sup>ヤマト</sup>大<sup>オホ</sup>神<sup>ノカミ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>祭<sup>ス</sup>リ<sup>シ</sup>コ



はじめ給ふて織女天皇の勅掟をこうむり大和の黒田廬戸の宮の邊にて始めて綾錦をおらしむ是を機織殿といふ亦結崎の明神或は絹引神とも申すなり貞觀三年に従四位に任ぜらる本殿豊鍬入姫命是ハ大倭明神ナリ同二宮猿田彦命是ハ春日の社若宮也同三宮綾羽明神同四宮吳羽明神トアリ之ニ據レハ當社ハ漢織吳織ノ靈ヲ祭レルナリ然ルニ豊鍬入姫ヲ本宮トナシ之ヲ大倭明神トスルハ何ニ由ルヲ知ラス淳名城入姫嘗テ大倭大神ヲ祭リシコト國史ニ見ユ疑クハ此等ヨリ誤リ來レルモノナラン

**比賣久波神社** 川西村大字唐院ニアリ延喜式神名帳ニ比賣久波神社見ユ今村社タリ祭神詳カナラス古來桑葉ヲ以テ神體トナスト然ラハ姫桑ヒメカサニシテ糸井社ニ緣故ヲ有スルモノナラン二社相距ル遠カラス

**岐多志太神社** 川東村大字大木ニアリ延喜神名帳ニ岐多志太神社二座見ユ今村社タリ祭神詳カナラス案スルニ聞書覺書ニ十市根ヨリ四世布留久留命一男大木連大木氏祖也トアリ物部大木連ハ當處ノ住人ナルハク而シテ舊事紀ニ饒速日命十一世孫鍛冶師連公鏡作連小輕間連等祖也ト所謂鍛冶師氏亦物部氏ニシテ大木氏ト同族ナレハ岐多志太ハ鍛冶師田ノ假字ナランカ

**千代神社** 川東村大字大安寺ニアリ延喜神名帳ニ城下郡千代神社ト是ナリ本ト十市郡ニアリ大安寺流記資財帳ニ大倭國五處一在十市郡千代郷ト即其處ナリ後チ洪水ノ爲メニ社殿流失シ本郡大安寺村ニ漂着セルニヨリ遂ニコニ祭レルモノト云フ年代詳カサラ中記ニハ天長舊趾彼郡八條ニアリテ今尙千代ト字セリ

倭恩智神社 延喜神名帳ニ倭恩智神社ト見ユ、川東村大字海智ニアリ、今村社タリ、祭神詳カナラス、古事記ニ天津彦根命者倭奄知造等祖也ト、カイチハ、ウンチノ音讀ニシテ、ウンチ「オンチ」アンチ音相通スレハ倭淹知氏ノ祖神ヲ祭レルナラン。

服部神社 延喜神名帳ニ服部神社二座ト、志ニ在大安寺村、今稱波都里神ト見ユ、村屋神主ノ家記ニハ本ト大安寺村ニアリシヲ天正中社殿兵燹ニ罹リ後チ村屋坐社ノ境内ニ遷シ祭ル、今川東村大安寺ニハトリカミト字スル田地アリ、是其舊趾ナリト云フ、之ニ據レハ志ニ謂フ處ハ舊趾ヲ指セルモノニ似タリ、祭神詳カナラス、姓氏錄大和神別ニ服部連、天御中主命十一世孫天御銚命之後也トアレハ古ヘ此地ニ服部氏ノ住スルアリテ其祖神ヲ祭レルニヤアラン。

富津神社 延喜神名帳ニ富津神社ト見ユ、今都村大字富本ノ村社ヲ以テ之ヲ稱スルモ據ナシ。

村屋神社 延喜神名帳ニ村屋神社二座ト、志ニ在藏堂村、々屋邑ト見ユ、郷社村屋坐社ノ境内ニアリテ之カ末社タリ、社傳ニ舊ト宮山ト字スル處ニアリシヲ天正兵燹後今ノ地ニ遷シ祭ルト云フ、祭神亦詳カナラス。

### 佛寺

法貴寺 一ニ法起寺ニ作ル、川東村大字法貴寺ニアリ、藥師佛ヲ本尊トナス、推古帝二十四年聖德太子草創シテ、秦川勝ニ賜フ所ト云フ、事實相院所藏ノ緣起文ニ見ユ、曰ク曆錄曰聖德太子四十五歳推古天皇治二十四年伴造臣連等奉爲國家各立誓願、建立寺塔等、其年秋七月新羅國王以獻金佛像長寸二尺也、是安置秦寺并藥師如來三尊像送渡也、仍奉安置式下郡法起寺、彼佛像常放光矣、太子命秦河勝連等曰、佛像誠有靈驗、輒不可拜見之、在俗愚人不可入內陣也、皇代記云上宮太子四十五歳之時建立法起寺、則賜彼寺於秦河勝爲佛法之原始寺也、故號法起寺、又云法貴寺、又佛像之靈威殊甚、太子常拜見之、給云々ト即此、事實相院ハ當寺ノ本坊ナリ、古ヘ盛大ナル伽藍ニシテ長谷川氏ノ傍近ニ住スルモノ之ヲ以テ氏寺トナシ、自ラ法貴寺氏人ト稱シ若宮祭禮ニ預ルニ當リ先ツ其鎮守天滿宮ニ儀式ヲ修メシコト既ニ彼社ノ下ニ述フルカ如シ、後チ氏人ノ衰フルト共ニ漸ク衰ヘ昔日ノ如クナラスト雖萬治寛文ノ頃マテハ尙十餘ノ堂坊ヲ有セシハ上ニ掲ケシ事實相院藏古圖ヲ案シテ知ルヘシ、但寛文寺社記ニ法貴寺石五斗法貴寺實相院は聖德太子の御願古ヘハ七堂伽藍所なりしか衰破して今は本堂一字残り本尊は百濟國カ渡リし藥師如來を安置し給ふ靈寶には唐繪の十六羅漢あり、伽藍開基記ニ法貴寺者聖德太子開創之所、古稱大伽藍、年代久遠、漸次衰微、今僅存本殿、奉百濟國所至藥師如來像、其傍有天王、廣村民以之爲土神、住持之坊、號實相院、有唐畫十六羅漢ト見ユ、維新ノ際廢寺トナリ、塔中ノ千萬院ノミヲ存シ法貴寺ノ名

殘ヲ留メリ。

**法樂寺** 都村大字黒田ニアリ、地藏佛ヲ本尊トナス、弘法大師ノ創立ト云フ、和州寺社記ニ法樂寺寺領六石 人王七代孝靈天皇の廂所也此所は古へ黒田の都として天皇の京地也御年百二十七歳にして崩御し給ひ此陵に葬り奉る其後弘法大師靈勝地也として開基し堂塔を造立し給ふ本堂の本尊は勝軍地藏秘佛也其側に聖武天皇みつから作給ふ地藏井の像有弘法大師の御影堂其外坊舎二十五軒有りしか何の頃よりか衰微して今は一字一坊にて眞言也傍に天皇の社有毎年九月祭禮有りト見ユ、但寺地ヲ以テ山陵トスルハ非ナリ、其地黒田宮址ニ因ミ中古祠ヲ建テ孝靈帝ノ御靈ヲ祭レル事跡ヲ謬リ傳ヘタルモノナルハシ、帝ノ山陵ハ葛下郡片岡ニアリ。

舊蹟

**黒田廬戸宮** 孝靈帝ノ皇居ナリ、都村ノ大字ニ黒田アリ、宮戸アリ、其間ニ都杜、都前、内裏坪、大君等ノ字ヲ存ス。

### 城 壘

**伴堂壘** 三宅村大字伴堂ニアリ、伴堂氏之ニ據ル、國民郷士記ニ伴堂平城伴堂大學ト即此氏  
トモシハ本長谷川ニシテ在原廣遠ノ苗裔ナリト云フ、至徳元年若宮流鏑馬日記ニ伴堂殿アリ、天  
 正ノ頃大炊介道成アリ、筒井ノ麾下ニ屬セリ。

郷士記曰伴堂大炊介長谷川氏伴堂大學

筒井諸記曰伴堂領主伴堂大炊介道成

筒井氏天正ノ比○案スルニコトニ筒井氏ト記スレバ筒井ノ麾下トナルニ及ヒ其氏ヲ冒セルナラシ

**法貴寺壘** 川東村大字法貴寺ニアリ、法貴寺氏之ニ據ル、國民郷士記ニ法貴寺丹波守今丹波

山ト法貴寺丹後守ト即此、今尙其地ヲ丹波ト字セリ、氏其出ツル所ヲ詳カニセサルモ御兵

士引付ニ法貴寺一黨分、備前庄、小林庄、法貴寺散所、同絲井衆、絲井庄段錢日記ニ小林庄法貴

主給 絲井庄長谷川ト見ユレハ亦長谷川氏ノ一黨ナルヘシ、古老ノ口碑ニ往昔在原業平齋

宮女王ヲ携ヘ此地ニ逃來リ長谷川黨ニ投シ其庇護ニ藉リ河内高安ニ赴ケリト云ヒ其遺

跡ト稱スルモノ今尙存在セリ。

**唐院壘** 川西村大字唐院ニアリ、中村氏之ニ據ル、國民郷士記ニ唐院山城、中村長右衛門ト即

此、亦出ツル所ヲ知ラス、同記ニ中村長右衛門盛秀、中村長兵衛正長、中村長九郎秀正、中村右

京進正親ナトアルモ事跡詳カナラス。

**吐田壘** 川西村大字吐田ニアリ、吐田氏ノ據ル所ナリ、國民郷士記ニ吐田山城、吐田孫太郎又

曰吐田孫太郎遠際永祿三年吐田勝福寺淳誓ト見ユ、葛上郡吐田家ノ一族ナルヘシ。

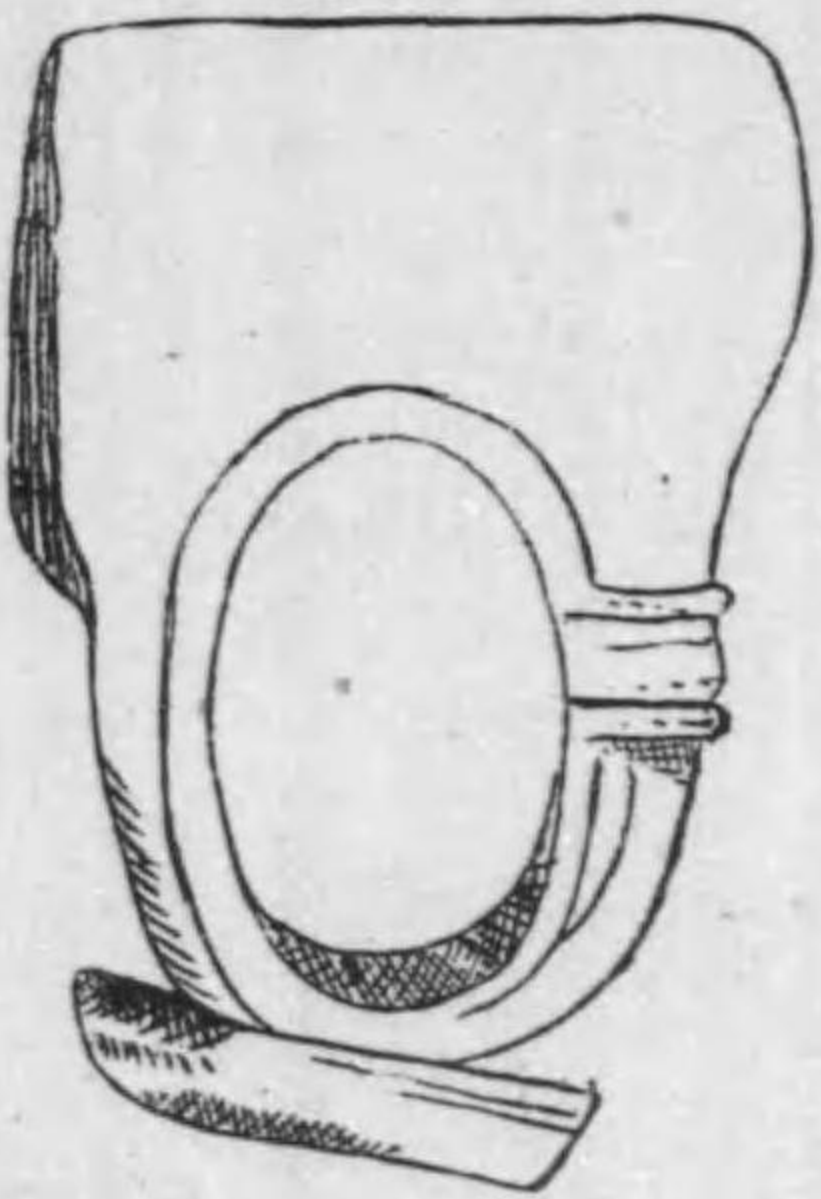
**小柳壘** 三宅村大字小柳ニアリ、國民郷士記ニ小柳平城、小柳源助ト見ユ。

**藏堂壘** 川東村大字藏堂ニアリ、同記ニ藏堂平城、藏堂長房ト即此。

### 陵墓

唐院荒墳 川西村大字唐院ニアリ、島根山ト字ス、前方後圓ニシテ環溝ヲ有シ儼然山陵ノ狀ヲナセリ、溝環ハ半ハ填淤シテ田地トナリ池田ト字セラル、木内氏ノ雲根志ニ收ムル神代石ト稱スルモノモ亦此荒墳ヨリ出テタルモノナリ。

神代石 長サ七寸巾四寸許根ノ方厚一寸許末ハ薄クシテ三五分木セバシ末ヒロシ本ノ方ニ寸ニ一許ナル一穴アリ表裏ニ高ク筋ヲ影上ケタリ石體青瑯ニシテ奇ナリ美ナリ和州唐院村ノ山中ニアラシテ其根源ハ影刻ノ物ナリ、安永元年秋八月(雲根志)



## 十市郡

本郡ハ古ヘ十市縣ト稱スル地方ナリ、下ニ引ケル十市氏系圖ニ據ルニ其舊號ヲ春日縣ト稱シ事代主神ノ裔大間宿禰春日子豐秋狹太彥等父子相繼キ之ヲ領シ、孝昭帝ノ世ニ至リ春日ヲ十市ト改メ、狹太彥ノ子五十坂彥縣主ニ任セラレ子孫職ヲ襲フト云フ、大化中國造縣主伴造ノ部曲莊田ヲ收メ、更ニ國郡ヲ立ツルニ及ヒ東ハ宇陀、西ハ廣瀨、南ハ高市、北ハ城上下以内即チ意富川邊、神戶池上四郷ヲ一郡トナシ名クルニ十市ヲ以テス、當時十市、多阿部、膳夫等ノ諸氏郡中ノ豪族タリ、爾後沿革詳カナラス、降ツテ足利氏ノ季世ニ至リ楠本、小矢部、小路、木本等ノ諸庄ハ大乘院ノ所領トナリ、膳夫等ハ多武峯領ニ屬シ各其地ノ名族ヲ以テ之カ下司給主タラシム、而シテ十市氏ハ最勢力ヲ有シ遂ニ一郡ヲ領スルニ至リシモ後チ筒井ノ幕下トナレリ、事十市城ノ下ニ詳カナリ、筒井諸記ニ十市郡馬上六十七騎、雜兵六百七十人、御改村數六十七ヶ村、高三萬四千七百七十六石餘、國民郷士記ニ十市郡馬上六十七騎、雜兵六百七十人ト見ユ、是レ當時ノ形勢ナリ、徳川氏ノ治世ニ至リ平野、本多、藤堂、村越、赤井諸氏ノ采邑幕府社寺領ト犬牙相錯ハリ就中平野氏ハ營ヲ田原本ニ立テ其所領ヲ治メラル、元祿ノ調査ニ係ル大和國郷帳ニ據リ全郡ノ村名石高及領主等ヲ記スレハ左ノ如シ。

- 一、高四百五十石二斗九升六合 本多唐之助 松本村
- 一、四百八十七石七斗一升七合 同 金剛寺村 松本郷
- 一、七百十四石三斗八升九合二勺 平野丹後 竹田村

十市郡







一、四百六十二石一斗九升	藤堂和泉	高田村
一、二百六十四石四斗四升	赤井五郎作	今井谷村
内百五十石	赤井六左衛門	
一、百卅五石七斗七升三合	水野伊豆	横垣村
内七斗七升三合	多武峰寺	
一、三十石二斗八升	藤堂和泉	下居村
一、六百四十七石六斗二升	幕府直領	倉橋村
内二百六十七石六斗二升	藤堂和泉	
一、二百十九石一斗七升	藤堂和泉	下栗原村
一、八百四石五斗	同	下栗原村
一、百七十七石九斗	同	下栗原村
一、百二十七石二斗一升	同	南音羽村
一、七十九石七斗八升九合	同	北音羽村
一、百二十八石	同	百音羽村
一、七十六石五斗	同	針道村
一、百十八石	同	鹿路村
一、四十六石三升	多賀又四郎	新開村
合高三萬七千三百九十二石五斗六升九合六勺		村數七十八

明治廿一年町村制ニ依リ新ニ町村ヲ構成スルニ及ヒ更ニ多  
 村耳成山ノ内勝葛本上品寺常磐新賀東竹田木原中大福大神新屋敷ノ五ヶ村  
 南浦出垣内木本笠神平野寺西飯高竹田南方下庄滿田ノ十二ヶ村  
 下八釣ノ十一ヶ村  
 櫻井西淺古ノ六ヶ村  
 ノ二町六村トナス

### 村 里

**多村** 附 飯富郷 多一ニ飯富意富太ニ作ル神武帝ノ皇子神八井耳命儲位ヲ神淳川別命諸讓リ來リテコ、ニ住シ給ヒシヨリ子孫相繼キ仲津臣ニ至リ始メテ多氏ヲ稱セリ事多社注進狀ニ詳カナリ大化中此地方ヲ以テ一郷トナシ名クルニ多ヲ以テス和名抄ニ所謂飯富郷是ナリ但流布本ニ飯富郷已廢シ多村ヲ存セシカ町村制ヲ布カルニ及ヒ多村以下十一村ヲ以テ一村トシ多村ト稱ス

**耳成村** 耳成一ニ耳梨ニ作ル故ニミ、ナシト訓スルヲ正トナス俗ニミ、ナリト稱スルハ非ナリ耳梨山耳梨川ハ名勝タリ寶龜八年民部省牒全文高市郡弘福寺ノ下ニ出セリ十市郡廿三條二耳梨里トアルハ當時耳梨山ノ近傍ニ耳梨里ナルモノアリシト覺フ已廢シ位置詳カナラヌ明治廿一年内膳以下十二村ヲ以テ本村ヲ立ツ

**大福村** 大福本ト大佛供ニ作ル即チ東大寺大佛ノ供料所ナリ明治廿一年大福以下五村ヲ以テ本村ヲ立ツ

**安倍村** 附 阿倍島山 惣國日本風土記ニ阿倍郷土地中肥民用不用古老傳云此地安倍氏之始祖所出之地也ト見ユ安倍氏ノ事社寺ノ下ニ詳カナリ阿倍島山ハ名所タリ本ト其地形島山ニ似タルヲ以テ稱セラル明治廿一年安倍以下七村ヲ立ツ

萬葉

わきもこにあはて久しもうまじもの

阿倍橋のこけのむすまで

風雅

玉かつまあべ島山の夕霧に

たひねはえすや長きこの夜を

**櫻井町** 惣國日本風土記ニ櫻井郷土地中肥民用富饒ト見ユ推古天皇廿年百濟ノ味摩志來朝ス其人伎樂ヲ善クス聖德太子兒童ヲシテ味摩志ニ就キ櫻井ニ於テ之ヲ傳習セシム今本町ノ坤ナル土舞臺ト字スルモノハ此其遺跡ナリト云フ

**十市里** 古へ春日ト稱セシヲ後チ十市ト改メラレシコト既ニ上ニ述フルカ如シ即チ十市縣ノ本處ナリ崇神帝ノ皇女ニ十市瓊入姫命アリ物部ニ十市根連アリ此等ハ皆コ、ニ因メル名ナリ中世東大寺領トナリ十市庄ト稱ス彼寺天曆四年十一月ノ文書ニ見エタリ足利氏ノ季世十市家累世ノ積威ニ藉リ城壘ヲ築キ勢力ヲ郡中ニ振フ事十市城ノ下ニ詳カナリ十市里ハ名所タリ

拾遺

ぐれはとく行て語らひあふことの

とおちの里の住うかりしを

**飯高** 附 子部里 飯高郷帳ノ一本ニ一ニ飯富ニ作りイヒトミト訓ス五郡神社記ニ子部神社イヒトミ在富郷飯富村今呼於布ト即此蓋飯富ハ飯富ノ謬ナルヲ訓讀シテイヒトミト呼ヒ更ニ富ヲ高ト謬リイヒタカト稱セシナルヘシ今平野村ノ大字ニ屬ス此地ハ本ト多ノ

十市郡

方城ニシテ即チ古ヘノ子部里ナリ、雄略帝多臣螺贏ニ詔シテ蠶兒ヲ聚メシム、螺贏誤リテ  
數多ノ小兒ヲ收メ獻ル、帝大ニ咲ヒ悉ク之ヲ螺贏ニ賜ヒ養ハシメ、小子部連ノ氏姓ヲ負ハ  
シム、彼兒生長ノ後皆コ、ニ住居ス、因テ子部里ト名クト、事多社注進狀ニ見エタリ。

膳夫

香久山村ノ大字ニ屬シラ今尙カシハテト呼ブル故ニ食器ヲ葉盤ト稱ス膳夫ハ本ト帝

室ノ御膳ヲ掌ル職名ニシテ後世謂ユル大膳職ノ部屬ナリ、其族長ヲ膳臣ト稱シ阿部高橋  
ト祖ヲ同ウシ大彥命ヨリ出ツ、其族人ノ住スル處ナリシヨリ途ニ地名トナレルモノナラ  
ン、近傍ニ安倍村アリ、亦偶然ニ非ス、膳夫ノ東二町許松本山ニ高屋阿倍社アリ、此其祖ヲ祭  
リタルモノナリ、高屋阿倍社ノ國民郷士記ニ十市郡膳夫正齋孝元天皇トアレハ慶長ノ  
比マテ膳夫氏ノ後裔存在セシト覺ユルモ今其子孫ナシ、膳夫往時多武峯領トナリ膳夫庄  
ト稱ス、談山社ニ永正十二年ノ古圖ヲ藏ヒリ、縮寫挿入シ以テ參考ニ供ス。

佐味

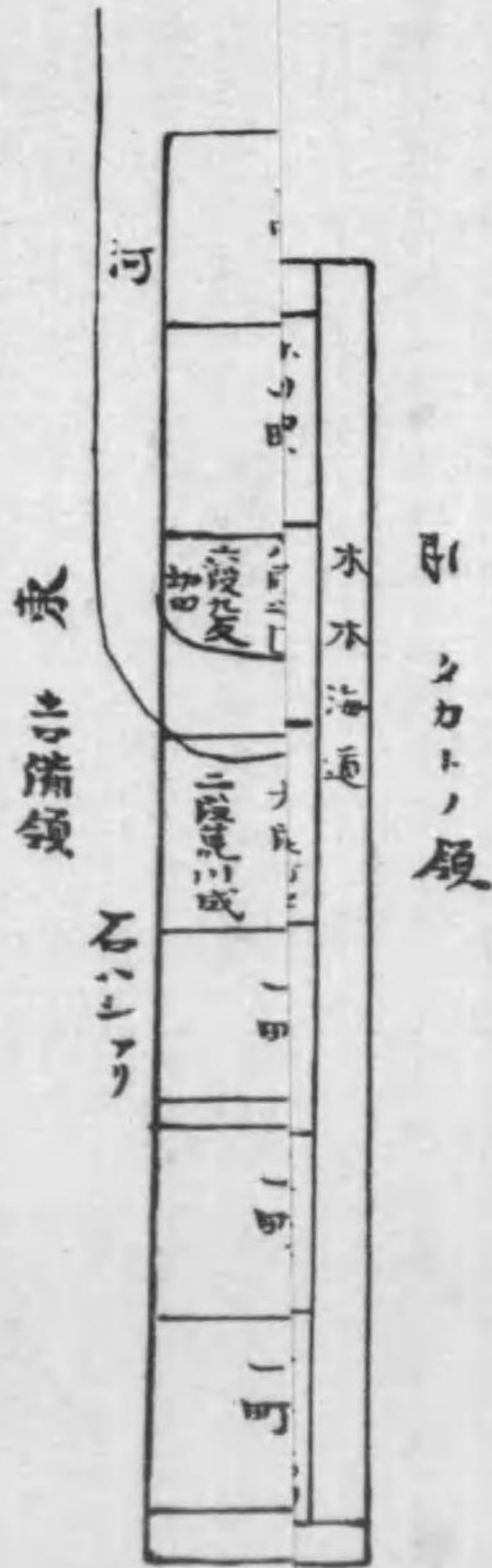
同村ノ大字ニ屬ス、姓氏錄ニ佐味朝臣豐城入彥命之四世之孫大荒田別命之後也ト、佐

味ノ氏名ハコ、ニ取レルモノナリ、寶龜中佐味朝臣宮田ナルモノアリテ若干ノ位田ヲ有  
シ、没後收メラレテ高市郡弘福寺領トナリ、佐味庄ト號セリ、事彼寺ノ下ニ引ケル古文書ニ  
見エタリ、宜ク參考スヘシ。

竹田

東西二處アリ、東竹田ハ耳成村ニ屬シ西竹田ハ平野村ノ大字タリ、竹田ノ名義ハ神社

ノ下ニ詳カナリ、敏達帝ノ皇子ニ竹田王アリ、亦此地名ヲ取レルノミ、國民郷士記ニ十市郡  
竹田周防守敏達ノ皇トアリ、疑クハ王嘗テコ、ニ食ミ子孫相繼キ傳ヘテ周防ニ至ルモノ  
カ、後考ヲ俟ツ、俗説ニ神武天皇紀ニ所謂猛田縣ヲ本村竹田原ハ名所タリ、萬葉集ニ大伴坂上

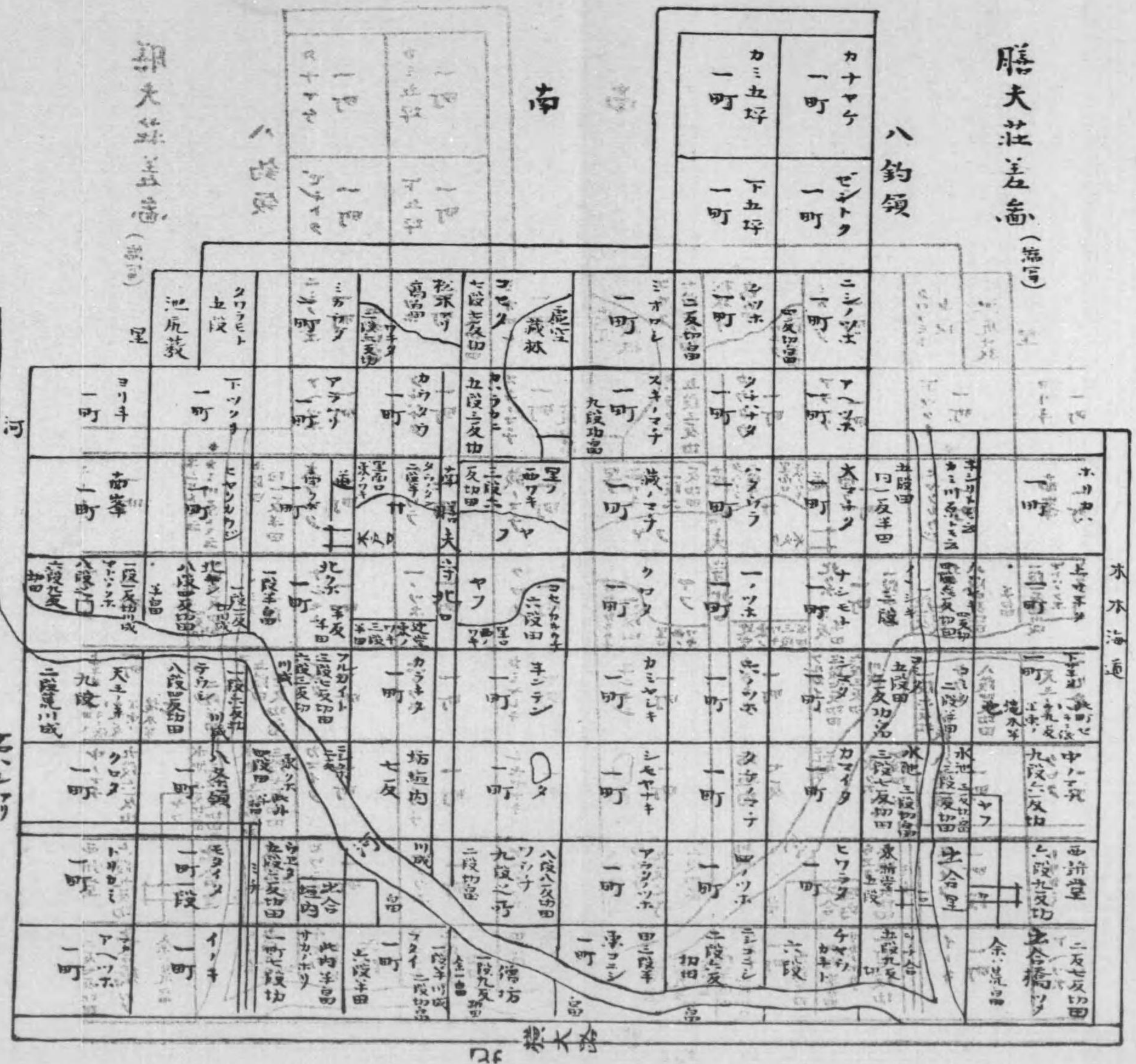


永正十二年乙未八月二十八日

- 三 薦權律師俊尊
  - 二 薦權律師頼源
  - 一 薦權律師明秀
  - 都維那權律師隆英
  - 寺主權律師尊英
  - 上座權律師英存
  - 檢校法印權大僧都大和尚位定榮
- 
- 三 綱
  - 勸進
  - 宿薦
  - 算田衆九人

竹田 東西二處アリ、東竹田ハ耳成村ニ屬シ西竹田ハ平野村ノ大字タリ、竹田ノ名義ハ神社ノ下ニ詳カナリ、敏達帝ノ皇子ニ竹田王アリ、亦此地名ヲ取レルノミ、國民郷士記ニ十市郡竹田周防守子敏達ノ皇トアリ、疑クハ王嘗テコ、ニ食ミ子孫相繼キ傳ヘテ周防ニ至ルモノカ、後考ヲ俟ツ、俗説ニ神武天皇紀ニ所謂猛田縣ヲ本村 竹田原ハ名所タリ、萬葉集ニ大伴坂上

膳夫莊差高 (第百)



永正十二年乙亥八月二十八日

三 藤權律師俊尊  
 二 藤權律師頼源  
 一 藤權律師明秀  
 都維那權律師隆英  
 寺主權律師尊英  
 上座權律師英存  
 檢校法印權大僧都大和尚位定榮  
 宿薦 算田衆九人  
 勸進

郎女從竹田莊賜女子大嬢歌

打はたす竹田の原になくつるの

間なく時なくわれこふらくは

保津

舊名穂積古へ物部氏コ、ニ住シ因テ氏トナス、姓氏錄ニ穂積朝臣神饒速日命六世孫

伊香色雄命之後也ト即此國民郷士記ニ保津志摩穂積物部内色トアレハ慶長ノ比マテ其

苗裔存在セシカ、保津今平野村ノ大字タリ。

萬葉

みてくらを櫓より出て

水蓼の穂積にいたり鳥網はる

坂門をすきて石はしる

甘南備山の朝宮につかへまつり……

六帖

水たてのほつみに通ふむく鳥は

立るにつく秋そかなしき

常磐

往時中臣氏ノ族コ、ニ住シ常磐氏ト稱スト、國民郷士記ニ常磐主膳天兒屋十八代ト

即此常磐里ハ名所タリ、今耳成村ニ屬ス。

續千載

秋そともわかぬ常磐の里人は

十市郡

たゞ夜さむにや衣打つらん

川邊郷 和名抄ニ十市郡川邊郷ト見ユ、已廢ス、五郡神社記ニ據ルニ今ノ竹田、十市、南裏、木原等ハ皆其郷内ナリ、姓氏錄ニ大和國十市郡刑坂川之邊有、竹田神社、因、以爲氏神、同居住焉、綠竹、太美、供、御、箸、竹、因、茲、賜、竹、田、川、邊、連、ト云ヒ、大同類聚方ニ大和國十市郡淤斯坂之竹田之神社トアレハ、川ハ忍坂川、田、今、竹、ヲ指シ之ニ沿ヘル村里ヲ立テ一郷トナシ名クルニ川邊ヲ以テセシナラン。

池上郷 附磐余池、和名抄ニ十市郡池上郷ト見ユ、已廢シ方域詳カナラスト雖、池上ハ池邊ニシテ即チ磐余池ニ因レル處ト思ハルレハ今ノ池内、池尻ヨリ安倍地方ニ亘レル郷名ナルヘシ、磐余池ハ國史ニ據ルニ履仲帝二年ノ作ニ係リ其邊ニ雙槻アリ、用明天皇皇居ヲコレニ定メ磐余池邊雙槻宮ト號セリ、後傍近ノ村里ヲ立テ、一郷トナシ池上郷ト稱セシナリ、東大寺古文書ニ十市郡司ノ解文アリ、當郷ニ係ルモノアルヲ以テ左ニ錄シテ一覽ニ供ス、

十市郡司解 申立賣買地券事

合地貳區 並在十市郡池上郷

一區地參段 在板倉壹字板屋參字

東限朱雀路 南息長真人廣長口分田

右左京七條二坊戶主息長丹生真人廣長買地者

一區地肆段 在草葺屋壹字

東限朱雀路 南息長真人廣長地 西溝小路並十市郡池上郷忍海原連力士家 北十市郡池上郷小赤臣真人人口分田

充價錢陸阡文

右右京五條二坊戶主正八位上車持朝臣若足戶口從五位下車持朝臣仲智沾地者、以前得廣長等解狀、備絶上件地常根沾與、東大寺布施屋地、已訖望請依式欲立券文者、郡矣、勘問得實、仍勒沾買兩人署名立券、如件、以解、

天平寶字五年十一月二十七日

息長丹生真人廣長  
相知 僧 勝 緯

車持朝臣 仲 智

知事 紀 朝 臣 形 麻 呂

買寺三綱都維那僧 承 天

上座法師 安 寔

佐官兼寺主法師 舜 榮

可 信 法 師 法 正

寺使坤宮官舍人大初位下衣縫牛甘

郡司擬大領外正五位下忍海連法麻呂

擬主帳 无位 大伴太田

國判立券參通 一通留國 一通留郡

天平神護元年八月十六日

十市郡



從五位下行介息長丹生真人大國 正七位下行大目馬比登夷人  
池已ニ涸レ其跡詳カナラサレトモ香久山村ノ大字ニ池尻アリ、安倍村ノ大字ニ池ノ内アリ、池尻御厨子山ノ東南ニ池田山、池尻ノ東ニ島居ノ小字ヲ存セリ、此等皆磐余池ノ故跡ナルヘシ。

因云惣國日本風土記ニ列槻郷土地中肥、民用不少、是則用明天皇宮居之地也ト見ユ、列槻ハ池邊双槻ニ因レル名ナレハ疑クハ池上郷ト同處カ、櫻井、安倍ノ間ニ双槻社 志ニ之ヲ式内石寸

山口社トアリ、亦由縁アルヘシ。

萬葉 百傳ふ磐余の池に鳴鳥を

けふのみ見てや雲かくれなむ

同

池邊の小槻か下にさゝなかりそね、

それをたに、君か形見に見つゝしのはむ

同

池上の力士舞かも白さきの

梓啄みもちてとひわたるらん

神戶郷

磐余村

和名抄ニ見ユ、已廢ス、五郡神社記ニ據ルニ香山ニ循ヘル村里ノ郷名ナリ。

雄略天皇紀ニ十年十月以水間君所獻養鳥人等安置於輕村磐余村、二所ト、磐余一ニ

石寸、石根ニ作ル舊名片居 又片ト稱セシカ 神武帝東征ノ時磯八十梟帥ノ大軍コ、ニ屯集ス、因テ「イハレ」ト名ク「イハレ」ハ屯集ノ古語ナリ、事神武天皇紀ニ見ユ、村已廢シ詳カナラス、但古ヘ磐余ト稱スルハ方域頗ル濶シ、現在ノ舊蹟ニ就テ之ヲ案スルニ城上郡河合ヨリ本郡櫻井傍近ニ亘リ池内池尻ニ及ヒ其以南石寸山ニ循ヘル處マテヲ汎稱セシモノニシテ神武帝ノ御諱及ヒ磐余ニ係ル山川、池野、皇居、社寺ノ名稱ハ皆コレニ因メリ。

新川村 物部氏ニ大新川命アリ、即チ十市根連ノ兄ナリ、一説ニ陳跡舊鑑圖ニ一村落ヲ畫キコレニ「新川里、大新川命ハ十市根ノ兄也物部姓一所ニ玉フ」ト記ス、蓋大新川ハ此地ニ因レル名ナリ、石上考ニ引ケル物部系圖ニ大新川命 新川 十市根 十市 ト以テ證スヘシ、天正文祿ノ比郷士ニ新川氏アリ、物部ノ苗裔ト稱セリ、國民郷士記ニ新川喜内 宇麻志麻 ト即此、村廢シ址ヲ知ラス。

山 川 野、路、池、

天香山

香久山村大字戒下ニアリ、當國三山ノ一ニシテ其名遠ク神代ニ著ハレ普ク海内ニ聞ユ、伊豫風土記ニ載スル傳説ニ天上ノ香具山ノ墜下スルモノト云ヘル如キハ固ヨリ措テ論セス、然レトモ古語ニ此山ヲ詠セントシテ天降就ノ辭ヲ冠ラシムレハ其説ノ由來亦尙シカリシヲ見ルヘシ、我カ古史中紀元前ニ於テ天香山ニ係ル故事頗多シ、就中著名ナルハ天照大神ノ天窟ニ幽居シ給ヘルノ一事ナリ、此時ノ天香山ハ和學者流ノ説ニ天上ノ山トナセトモ一説ニハ當山ナリト云フ、是非ヲ知ラス。

壇安池

在所詳カナラスト雖トモ古歌ニ徵スルニ北麓ノ大池ナルヘシ。

萬葉

やまとには、むら山あれと、とりよるふ、天のかく山のほりたち、國見をすれば、國むらは、烟たちこめ、海原は、海原ハ壇安池、かまめ立たつ、うまし國ぞ、秋津島、やまとの國は

耳梨山

八咫知、わか大君の高照らす、日のわかみこ、あらたへの藤井が原に、大御門は、はじめ給ひて、壇安の堤の上に、ありた、し、見し給へれば、日本の青香具山は、日の經の、大さ御門に、春の山路しみさびたてり……

耳梨山

一ニ耳成耳无ニ作ル、耳成村大字木原ニアリ、古ヘ耳高青菅山梔子山ナリ、梔子樹多キト稱シ俗ニ天神山ト呼フ、當國三山ノ一ナリ、古詠多シ。

萬

耳高の青菅山は、背友の、

大さ御門に、よろしなへ、神さびたてり……

歌枕名寄

大和なるくちなし山の山賤は

いはてと思ふこゝろひとつに

耳梨池

耳梨山ノ西麓ニアリ、水涸レ微ニ其址ヲ存スト、昔時娘子アリ鬘兒ト名ク、頗ル姿色アリ、三壯夫互ニ之ヲ挑ム、娘子適從スル所ヲ知ラス、終ニ耳梨池ニ投シテ死ス、三士悲歎ニ堪ヘス各歌ヲ詠シ其意ヲ展フ。

耳なしの池しうらめし、わきもこか、

きつゝかくれは水もかれなむ

足曳の山かつらの兒けふゆくと

我につけせはかへりこましを

あしひきの玉かつらの兒けふことに

いつれのくまを見つゝきにけん

ト事、萬葉集ニ見ユ、高市郡畝火山ノ麓ニ櫻兒冢アリ、其故事同集ニ載スル所、略之レト同ク又大和物語ニ求女冢ノ事蹟アリ、亦之レト類似セリ、往時斯ル傳説各地ニ多カリシト覺フ、案スルニ播磨風土記ニ出雲國阿菩大神、聞大倭國、畝火香山、耳梨、三山相闘、此欲諫止上來之

時到此處乃聞闢止覆其所乘之船而座故號神皇々形似覆萬葉集ニ高山○香山云フはうねびを  
おしと○愛慕ス耳梨と相あらそひき神代よりかゝるにあらし古へも然にこそあれ現身  
も妻をわひみつらしき又高山と耳梨山とわひしときたち見に來し印南國原ト見ユル三

多武峰

山相闘ハ此三壯士相挑ノ傳説ナトヨリ轉シ來レルモノナランカ。

武峰

一ニ田身太務紀日本談峰起多牟談武增賀ニ作ル共ニ借字ナリ名義詳カナラス、  
浮屠氏ハ之ヲ五臺山ト稱ス峰高ク樹翁リ頗ル幽邃ノ地ナリ往時東ハ倉橋西ハ細川北ハ

北山ニ達スル三道アリシ略記多武峰モ今ハ北山ノ通路已ニ絶エタリト云フ齊明帝嘗テ兩槻

行宮ヲコニ起サレ中臣鎌足ノ入鹿ヲ誅セントスルヤ中大兄皇子ト共ニ當山ニ登リ匡

濟ノ策ヲ講セシコト談山社ノ下ニ詳カナリ然ルニ中世此故事ニ依リ談武ヲ訓讀シ談武

トナシ終ニ談峰ノ別名ヲ附スルニ至レリ。

萬葉

うち手折多武の山さりしけきかも

細川の瀬に波さはさける

方爾

小夜ふけてかたらひ山の時鳥

ひとりねさめの床にきくかな

倉橋山附小倉山 倉橋一に倉梯倉椅椋橋ニ作ル多武峰村大字倉橋ノ上方ニアリ其峯ヲ小

倉山ト曰フ共ニ名勝タリ。

古事記

はしたてのくらはし山をさかしみと

妹は來かねて我が手とらすも

萬葉

くらはしの山をたかみか夜こもりに

出くる月の片待かたき

同

ゆふざれば小倉の山に鳴鹿の

今夜は鳴かすいねにけらしも

石寸山 齊明天皇紀ニ二年定宮地號曰後飛鳥岡本宮時好興事迺使水工穿渠

自香山西至石上山以舟二百艘載石上山石順流控引於宮東山累石爲垣ト見ユ此石上山ヲ

舊説ニ山邊郡布留ノ石上山ナリト云フ然レトモ嘗テ疑フ香山石上ノ二山相距ル遠ク容

易ニ此等ノ運搬ヲ爲スヘキ所ニアラス五郡神社記ニ石寸山口神社在池上郷石寸

山裂谷爲石寸川之上案大和國山川名所記曰石寸山亦云石村到此見之石寸云山

者多武峯西並令存在中香山東南齊明天皇紀所載天皇使水工穿渠自香山西至石上山

伊波加美是也此石上山與山邊郡石上山同字異訓也ト之ニ據レハ石上山ハ石寸山ニシテ

加美反切支此

即チ多武峯ノ西ニ連レル山ヲ云ヘルモノナリ。

磐余川 用明天皇紀ニ二年四月御新嘗於磐余河上ト此河ノ所在志幽考等ニ記セス五郡神

十市郡

一四五

社記ニ石寸山口神社在池上郷石寸山裂谷爲石寸川之上……又案石寸山之谷水川與倉橋山續西山之流水落合歷城下郡入大和川也上件大川云石寸川亦云八釣川或云多武峯川見于大和國山川名所記トアリ之ニ據レハ磐余河ハ矢釣川ノ別名ニシテ即チ高尾北山ノ邊ヨリ出テ耳梨山ノ東麓ヲ流レ東竹田ノ西ニ於テ倉橋川ト相會シ城下郡ニ入り寺河トナルモノナリ。

耳梨川 一ニ目无川ト稱ス耳梨山ノ東麓ニアリ即チ磐余川ノ河流ナリ。

六帖

目なし川耳なし川の見ず聞かず

ありせば人をうらみざらまし

獵路小野 附獵路池 多武峯村大字鹿路ニアリ。

萬葉

わさもこをかりぢの小野に

しゝこそはいはひおるかめ……

同

遠つ人かりぢの池にすむ魚の

立ても居ても君をしぞ思ふ

高佐士野 志に在南浦村ト今香久山村大字南浦香山ノ内ニ天指山ト字スル處アリ天指高

佐士語義相同シ蓋シ其麓ノ野ナルヘシ。

古事記

やまとのたかさしぬをなゆく

をとめたれをしまかむ

磐余野 在所詳カナラス磐余地方ノ平野ヲ汎稱シ一定ノ方域ナカルヘキカ。

後拾遺

いはき野のはきの朝露分けゆかば

戀せし袖の心地こそすれ

朱雀路 天平寶字五年十市郡司ノ解文ニ全文上ニ合地二區郡池上郷……一區地肆段……東限朱雀路……ト見ユ當時池上郷ニ朱雀路ト稱スルモノアリ朱雀路ハ朱雀門ノ

通路ナリ朱雀門ハ京城四門ノ一ニシテ其制漢土ヨリ出ツ今本郡ニ朱雀ノ名稱ヲ存スル

ハ何帝ノ宮址ニ係ルヲ詳ニセス案スルニ用明帝ノ皇居ハ磐余池上ニアリ此時韓土ノ交

通稍頻繁ニシテ彼ノ文物我ニ傳來セシコト既ニ首卷總說ニ論スルカ如クナレハ宮城ノ

制モ共ニ傳來シ帝ノ世ニ既ニ四門ノ設ケアリシカ後考ヲ俟ツ。

山田道 安倍村大字山田ヨリ高市郡飛鳥ニ達スル古道ナリ。

萬葉

もゝたらず山田の道を浪雲の

愛くし妻とかたらしめて……

針路 本ト獵路ニ作ル多武峯村大字ニ針路アリ之レニ由レル道路ナルヘシ。

十市郡

萬葉

新治の今作路のさやけくも

聞えつるかも妹かうへのこと

神社

談山神社  
タムサン  
タムノミネ

多武峰ニ在リ、大織冠内大臣藤原鎌足公ノ靈ヲ祭ル、別格官幣社タリ。  
祭神創始

藤原鎌足公ハ本姓中臣連ニシテ天兒屋根命二十一世孫小徳冠中臣御食子連ノ長子ナリ、推古帝二十二年ヲ以テ當國大原ノ藤原ニ生ル、性聰明ニシテ學ヲ好メリ、舒明皇極二帝ノ際大臣蘇我蝦夷父子威福ヲ擅ニシ朝憲ヲ蔑シ宗室ヲ除キ社稷ヲ傾ケントス、公慨然匡正ノ志ヲ懷キ病ト稱シ官伯時ニ神祇ヲ辭シ三島ノ別業ニ退キ中大兄皇子ト交ヲ結ヒ密ニ其意ヲ致シ將ニ爲ス所アラントス、既ニシテ父子ノ驕僭益劇シ公、皇子ト共ニ多武峯ニ登リ撥正ノ策ヲ講シ終ニ之ヲ殛シ、更ニ孝徳帝ヲ策立シ中大兄皇子ヲ皇太子タラシメ以テ大化ノ改新ヲ翼成ス、公ノ王室ニ大造アル斯ノ如シ、故ニ朝廷之ヲ優待シ大化元年大錦冠ニ叙シ内臣ニ任シ更ニ寵妃車持氏ヲ賜フ、幾ナラスシテ車持夫人男子ヲ舉ク、所謂定慧和尚是ナリ、定慧、沙門慧隱ニオシヲ師トシ佛乘ヲ修メ天智帝六年求法トシテ入唐セリ、公嘗テ定慧ニ告ケテ曰ク談峯ハ天下ノ靈地ナリ、我レ死セハ墳墓ヲ彼レニ點セヨ、子孫必ス榮貴ナラント、八年十月十五日公病ス、甚篤シ、帝皇太弟ヲ遣ハシ病ヲ問ハシメ且第ニ就テ大織冠ヲ授ケ内大臣ニ任シ藤原朝臣ノ姓ヲ賜フ、同十六日淡海ノ第ニ薨ス、春秋五十六、男不比等繼キ攝津ノ阿威山ニ葬ル、定慧ノ彼國ニ在ルヤ其清涼山寶池院ノ十三重塔婆ヲ見、之ヲ我國ニ傳ヘント欲シ學成リ業竟ヘ歸朝スルニ及ヒ、其木材等ヲ搭載シ來ル、時ニ白鳳七年ナリ。

定慧カ入唐歸朝ノ年月ニ少カ疑アリ、其誕生ヲ大化元年、入唐ヲ天智帝六年、歸朝ヲ白鳳七年ニ係ルハ多武峰緣起元亨釋書、七大寺巡禮記等ニ見エ、從來普通ノ傳説ナリ、然ルニ國史ニ白雉四年五月小山下吉士長丹遣於唐學問僧道昭、定慧等隨之トアリ、此行一時ノ秀才ヲ拔擢シ學問僧トシテ之ニ隨ハシメタルモノナリ、傳説ノ如ク定慧ノ出生ヲ大化元年トスレハ其入唐ノ白雉四年ハ僅ニ九歳ノ時ニ當レリ、九歳ノ幼童寧ロ入唐スルノ理アラシク疑ヲ存シ後考ヲ俟ツ。

定慧既ニ歸朝シ異母弟不比等ニ面シ公ノ墳墓ヲ問ヒ、且告クルニ生前ノ教ヲ以テシテ自ラ徒弟廿五人ヲ率キ遺骸ヲ阿威山ヨリ更ニ談峯ニ改葬シ、其上ニ彼塔婆ヲ建テ文珠井ヲ安置シ以テ公ノ冥福ヲ祈ル、是今ノ十三重塔婆ノ初始ニシテ後不詳、不比等ト謀リ塔婆ノ南ニ三間四面ノ講堂ヲ立テ觀音井ヲ安置シ之ヲ妙樂寺ト號ス、即チ多武峰寺ノ濫觴ナリ、講堂ノ創立ヨリ三年ノ後定慧又塔ノ東ニ方三丈ノ祠堂ヲ起シ彫工高男丸近江ノカ作レル公ノ木像ヲ安シ之ヲ聖靈院ト號ス、實ニ此レ今ノ談山社ノ起源ナリ、一説ニ今ノ影像ハ當山檢校千滿ノ作ニシテ高男丸ノ作レルモノハ其體中ニ籠メタリトモ云フ、是非ヲ知ラ

社傳ニ古來天下ニ事變アラントスルヤ神像破裂シ山上鳴動ス、其鳴動山東ヨリスルモノハ谷朝廷ニアリ、南ヨリスルモノハ幕府ニアリ、北ヨリスレハ氏人ニアリテ西ヨリスレハ萬民ニアリ、中央ナレハ一山ニアリト稱シ、毎ニ其破痕裂樣及ヒ鳴動ノ方位ヲ檢シ狀ヲ具シテ以聞スレハ官家特ニ使幣ヲ發シ之ヲ告祭スルヲ例トナス、事、神像破裂記ニ

詳カナルモ繁キニ依リ之ヲ略ス。

以上ハ日本書紀多武峯緣起元亨釋書七大寺巡禮記其他二三ノ記錄ヲ折衷シ較信スヘキヲ摘ミ大略ヲ述フルモノ、ミ、須ク本書ニ就キ其詳細ヲ知ルヘシ、要スルニ當社ハ藤氏一門ノ崇敬スル所トナリ、漸次繁榮ニ赴キ其盛時ニ當リテハ數多ノ土田ト數十ノ坊舎ヲ有シ、勢力殆ント東大興福二寺ト拮抗シ互ニ爭鬪シ、爲メニ數回ノ兵燹ニ罹リ或ハ神像動座トナリ、或ハ衆徒分裂トナリ幾多ノ沿革ヲ閱シ以テ今日ニ至レルモノナルモ社殿ノ壯觀尙關西ノ日光ト稱セラル、亦以テ昔時ノ盛事ヲ想見スヘシ。

堂 宇 附神像動座

創立ヨリ永保マテ數百年間ニ係ル堂宇ノ沿革記錄ノ徵スヘキナシ、釋書多武峰略記ニ據ルニ永保元年三月五日倉橋山音石ノ民家出火シ延テ一山ニ及ヒ堂舎佛閣燒失ス、本ト興福寺衆徒怨ヲ含ミ來リテ放火スル所ナリ、是レ當山炎上ノ始メナリト云フ。

東大寺藥師院舊記ニ多武峰炎上、白川院永保元年三月五日興福寺衆徒等燒之、是燒亡之始トアルニ符合ス。

天仁元年九月十一日興福寺僧徒蜂起シ火ヲ一山ニ放ツ、堂塔坊舎民屋悉ク烏有ニ屬ス、承安三年六月二十五日同寺僧三タヒ一山ヲ燔ク、治承元年十二月二日十三重塔ヲ再興ス、願主ハ當國廣瀨郡ノ住人右馬允康教ト云フ、以上亦多武峰略記ニ據ル安貞二年四月二十三日四タヒ同寺僧ノ火ク所トナル、因テ七大寺閉門アリ。

法隆寺別堂記曰安貞二年戊子五月二十六日七大諸寺閉門戶畢、於當寺○法隆寺自ヲ云フ二十八

日同、以令閉門了、自興福寺、依多武峰、燒失也、四月二十三日燒、

藥師院舊記曰、安貞二年四月二十七日興福寺燒之、  
此ノ時ニ當リ僧徒暴戾ニシテ動スレハ干戈ヲ弄シ、或ハ諸寺相闘ヒ或ハ良民ヲ劫掠シ國中頗ル騷擾ス、應長元年興福寺當山ヲ攻メントス、幕府依テ國內ニ新ニ地頭ヲ置キ之ヲ鎮遏セントスルモ諸寺先例ナシト稱シ拒ンテ入部セシメス。

法隆寺別當記曰、應長元年六月上旬興福寺多武峰發向始之、……同八月八日依多武峰事、國中ニ地頭ヲ被置之内ニ二條京極肥後守當寺ヲ法隆寺ニ入律學院宿直當寺武家入部之无例之由令問答逃出了。

正平六年一山火ヲ失シ伽藍坊舍悉ク燒亡ス、七年造營アリ。

法隆寺嘉元記曰、正平六年辛卯十一月九日多武峰伽藍一字モ不殘、堂塔等悉燒失畢、一向アヤマチ也、同七年壬辰多武峰本堂テウノ始、二月十六日在之、同十九日柱立云云、同年壬辰十月四日多武峰聖靈院并鎮守社宗上、同七日大織冠御歸座云云。

觀應二年燒失シ出火ノ源因詳カナラス、翌年造營アリ。  
法隆寺別當記曰、觀應二年辛卯十一月九日多武峰堂塔社以下伽藍悉燒失了、三年壬辰二月十六日多武峰造營始、同十月七日大織冠御歸座。

元中九年南北ノ和成リ南帝北京ニ還御シ給フヤ、四條日野ノ紳指、越智和、田、楠、橋本、三輪ノ武士等尙吉野ニ留リ、後北朝約ニ負キ後花園帝ヲ立ツルニ及ヒ、義兵ヲ起シ三輪左衛門尉等四條三位資行ヲ擁シ當山ニ據リ越智カ高取城ト倚角ノ勢ヲ張リ北兵ニ抗ス、永享十年

八月管領畠山持國自ラ大軍ヲ率キ來リ先ツ當山ヲ陷レントス、衆寡敵セス、四條三位以下四十餘人悉ク戰歿ス、北兵勢ニ乘シ堂舍ヲ火ク事、十津川記ニ詳カナリ、就テ見ルヘシ。

七大寺巡禮記ニ當寺去、永享十年爲普光院贈太政大臣燒失其後建立東大寺藥師院舊記ニ永享十年八月二十八日官軍燒之、大和之一揆、一色義貫也云云ト、十津川記ヲ案スルニ此時一色義貫一萬ノ兵ヲ率キ管領ノ應援トシテ來レリ、故ニ藥師院舊記ノ言コ、ニ及

フ。  
尋テ高取城陷ル、越智通賴逃レテ當山ニ來リ敗卒ヲ集メ城廓ヲ構ヒ恢復ヲ圖リシカ北兵ニ敗ラレ堂舍爲メニ火燹ニ罹リ影像ハ難ヲ橋寺ニ避ケタリ、實ニ嘉吉二年八月二十九日ナリ、一説ニ此レ永享十年八月二十八日ノ事變ト混同シ謬傳セルモノナリト、其或ハ然ラ

ン。  
藥師院舊記寫曰、嘉吉二年戊午八月二十八日越智多武峯構城塙之間、京都武家責之、同二十九日炎上落居畢、大織冠ハ橋寺ニ移座是爲先規云云。

文明二年仁三應炎上ノ事記錄ニ載スルモ源因詳カナラス。  
興福寺光明院年代記年世代記ト稱ス、曰、文明二年二月二十九日多武峯燒了、○七大寺巡禮

記曰、應仁三年二月一日一山悉以自放火、於御影者奉取出之。  
永正三年八月細川政元ノ臣赤澤宗益軒藏兵ヲ率キ來リ大和ノ諸豪ヲ攻ム、連リニ勝チ諸城ヲ陷ル、十市、箸尾、越智以下ノ南脇衆ハ悉ク城地ヲ棄テ、當山ニ據ル、九月四日宗益衆ヲ悉クシテ之ヲ攻ム、翌日沒落ス、其顛末興福寺英俊法印日記ニ見エタリ、此時堂社兵燹ニ罹

リ影像ハ暫ク金峯山勝手社ニ動座シ翌年十二月二十一日歸座アリシト云フ之レニ係ル長者ノ口宣武家ノ下文今尙當社ニ存セリ。

多武峯大明神早被除山内汚穢令遂土木之功可奉成假殿遷座就中今度招集離散之衆徒可令致四海一天安寧者長者宣如此仍執達如件

永正四年八月廿八日

富 秀

大織冠御體白地遷御於金峰山云云急可奉歸座于當山者殿下御氣色候所也仍執達如件

十二月十六日

治部大輔源朝臣富秀

檢校三綱御中

永正亂後造營ノ年代詳カナラスト雖當社所藏ノ古文書ニ

大和國多武峰伽藍去永正三年凶徒等亂入悉令破却及寺家荒廢之條歎有餘者歎爰永陽上人勵修造志爲勸進下向云云所詮於分國中不論多少可奉加之旨可被加下知民家等之由所被仰下也依執達如件

永正六年五月十三日

左衛門尉在判  
近江守貞運在判

土岐美濃守殿

トアリ又當山住永井氏所藏ノ乘光記中御門大納言藤原宣胤入道乘光ノ筆記也ニ

永正十七年十一月十日正遷宮宣綱宣秀ノ子ニシテ參向之時奉納之わか山と守る御寺も數そはん神のよろこぶ宮つくりして 乘光「つくりかふこの宮はしら萬代の常磐の影や猶仰くらん宣秀

ト見ユレハ永正六年ノ頃ヨリ資金ヲ募集シ十七年ニ至リ土功ヲ畢、遷宮式行ハレタルモノナラン。

是ヨリ先キ南北朝以來當山ノ衆徒干戈ニ狃レ永享永正ノ兵亂ヲ閱シ山内騷擾各自黨與スル所アリ爲ニ中御門家ハ其所領ヲ沒收セラレ、ニ至レリ。

乘光記曰多武峰儀乘光申沙汰條々：去永享年中依將軍執奏有一山治罰之論旨云云依此謂歟一寺不和動及確執之條只衰微之基再興之期無之由一山歎申間去文明十九年三月十八日被成勅免之論旨事乘光申沙汰一山大悅抑永享度祖父大納言依當寺最負

自將軍家被召放知行失面目之條不便之次第也於一山忠節及子孫奉仰明神之憐愍者也爾來葛藤結ンテ久ク解ケス天正十三年ニ至リ一山分裂シ衆徒ノ大半郡山城下ニ退出ス

ルコトナリス是時城主豊臣秀長ノ家老伊藤掃部ナルモノ計ヒトシテ同年九月堂舎ヲ城下ニ建立シ之ヲ新多武峰ト稱セリ當時城主ノ之ニ對スル處置ハ左ノ諸書ニテ知ル

ヘシ文書當社ニ存ス當寺知行之帳渡可申間早々慥之仁體可有御越候就而者郡山近邊ニ御寺可被成御引之由被仰出候間此方坊舎御立候衆へハ六千石御渡シ可申候無左衆へハ一切渡申間敷候間可有其心得候恐々謹言

十月三日

横 一 庵 判

多武峰御中

覺

十 市 郡



- 一 四百石 大織冠御供燈明會式法會 是者一圓學侶才判
- 一 六百石 大織冠御修理料 三方立合評議
- 一 三百石 惣分遣料 三方立合評議

此外坊領者郡山坊舎可被立衆斗無多少等分可有配當

右配分可然通重而參議宰相中將秀長卿御判可遣候先爲覺如此候以上

橫濱一庵判

天正十三年極月 日

一多武峰之儀 關白様被仰出之旨聊不可有相違候自然非分申懸族これあらは速可申付候寺門之儀兩門前預置之條家道具取散并於有火事可加成敗者也

天正十三年九月六日

美濃守秀長判

多武峰 峯門前

豐臣氏ノ新多武峰ヲ遇スルコト其レ斯ノ如シ終ニ十六年四月三日ヲ以テ影像ヲモコレニ遷座セラル之ニ關スル繪旨左ノ如シ繪旨案當社ニ存ス

來月三日至于郡山大織冠遷宮之由被聞食訖彌可奉抽寶祚長久天氣如此仍執達如件

天正十六年三月二十六日

右中辨宣泰判

多武峰衆御中

後チ會秀長病アリ久ク瘵エヌ以テ神慮ノ致ス所トナシ十八年十二月二十八日影像ヲ當山ニ還シ奉ル郡山ノ大織冠社ハ實ニ其舊跡ニ就テ祭レルモノナリ影像既ニ本處ニ歸座セシモ衆徒尙郡山ニ留リ堂舎ヲ守リ當時本寺新寺角立セリ當社ノ文書ニ

覺

一 去天正年中乙酉九月大納言秀長卿和州江御入國之砌伊藤かもん申成により多武峰下山之儀 太閤様被仰出郡山へ寺社被引移寺領三千石被下候旨被成御朱印則御下知として坊數院數御定め被成候砌仁をゑらび其内にてくと取にいたし院主を相定候て院號に名判トヲ仕上候へと御意により判形仕進上申候就而郡山へ大織冠大明神御移なされ候御伴申神拜奉幣祭禮等朝暮ニ辛屈奉仕候者共は此面々迄に而候此外之坊主共は在々所々へ引籠終に參詣さへ不仕候然上大明神御奇瑞により本山へ御神體御歸座被成候折節所々に引籠者共大納言様へ色々訴訟申候得共明神江奉公をば不申候而不謂儀被仰候而御承引無之候兩度之御檢地之上に而つぎめの御朱印迄も御念迄被入新寺明神奉公之者共へ被下候下山以來神前之祭祀神事法等其外只今仕御造營已下悉以此面々沙汰仕候これまで多武峰之名字迄つゞけ大明神へさうこの儀國中萬事諸寺諸山にも其隱あるましく候此等之趣きこしめし分られ前々の如く無相違此面々に被仰付候ニ御取成偏ニ貴殿様頼存外無他候

拾月 日

申上候覺

一 多武峰知行之元來者御意により郡山へ下山つかまつり新寺と號し坊舎を造り資財を預け申事

一 大織冠御歸山之刻供奉仕山に歸候へとも知行惣中へ可返遣儀迷惑ニ存殘居申事

十 市 郡

- 一 先年兩長老へ説言つかまつり三千石之知行納取事
- 一 山藪寄附之處々檢地仕卅二坊としてきりとり私宅をかき事
- 一 惣寺繁昌わたりたきよし御詫度々の事
- 一 新寺惣寺和合なきにより御平癒なき御詫數度の事
- 一 御哀ヲ以新寺本寺和合つかまつり如先規諸沙汰つとめ申度候事

賀 兵衛殿御披露

牢 人 衆

トアリ、以テ當時ノ状態ヲ見ルヘシ、十九年秀長薨シ増田長盛國政ヲ攝スルニ及フモ郡山ノ衆徒依然據留シ未タ本寺新寺和同セサリシカ、慶長中本寺ヨリ訴狀ヲ徳川家康ニ上リ旨ヲ郡山ノ衆徒ニ諭シ歸山セシメラレンコトヲ乞フ、其訴狀永井藏談山古文集所載左ノ如シ、傳聞當寺者其來曆垂九百佛法紹隆不退轉山也、故久挑顯密法燈、公武訴願年積然去天正十三年九月五日僧徒悉退散同十六年四月三日於郡山奉遷宮大織冠、其外本山伽藍不殘一字破滅、爰依有不思議神託同十八年庚寅十二月廿八日以大織冠奉歸座本山雖然僧徒彼山殘愁沉歲尚、請願垂哀愍下嚴命令僧徒歸本山給者彌學顯密二教可抽御武運長久懇祈之旨趣謹言上

家康命シテ彼衆徒ヲシテ本山ニ歸住セシム、是ニ至テ久ク分裂セシ本新二寺初メテ怨ヲ釋キ和同セリ、此時本社ノ造替アリシト見エ、談山古文書集ニ棟札ノ膠本ヲ載ス。

藤室上遷宮拜社 檢校法師大和尚位權大僧都

院預三人

多武嶺大明神御造替

大阿闍梨濟祐

慶長五年庚子九月三日

權大僧都法師繼運	盛祐	壽福院律師英明	淨賢阿闍梨
權大僧都法印信盛	往生院律師英成	一心院律師英秀	上番濟範
權大僧都法印堯盛	權大僧都法印退英	上法院律師善意	禪春阿闍梨
賢成院律師順藝	權大僧都法印秀藝	權律師昌藝	中番順盛
權大僧都法印秀藝	權律師昌藝	權律師昌藝	禪蓮阿闍梨
			下番長意

(裏面)

現世安穩後生善處 郡山新多武嶺ヨリ再興畢

案スルニ慶安三年八月衆徒ヨリ寺社奉行ニ差出シタル言上書ニ去ル天正十五年に時ノ關白秀吉公御下知ニ而同國郡山城下江被爲曳移候、其後慶長五年東照宮大權現御上洛之時、大織冠を本山江可奉成遷座之旨被爲仰出候、則同年十二月二十八日靈像を談山江奉成還御候、勅使菊亭右大臣殿、勸修寺辨殿參向ニ而遷座御式御座候ト見エ、社傳モ亦慶長五年戊子年十二月二十八日大織冠尊像ヲ談峰へ還坐奉成勅使菊亭右大臣殿參向アリテ遷座ノ儀式アリト云ヘルモ新多武峯ヲ郡山ニ建テシハ天正十三年九月五日ニシテ靈像ノ動座ハ同十六年四月三日ナリ、其歸座ハ正ニ同十八年十二月二十八日ナルヘキハ既ニ古文書ニ據リ上ニ述フルカ如シ、然ラハ慶安ノ上書ニ所謂慶長五年十二月廿八日ニ勅使菊亭殿ノ參向ハ靈像歸座ノ爲メニアラスシテ是ヨリ先キ家康ノ命ヲ以テ離散ノ衆徒ヲ歸山セシムルト同時ニ本社造替ノ舉アリ、慶長五年三月九日ニ至リ土功既ニ畢へ遷宮式ヲ行ヒ爲メニ勅使參向アリシモノナ

ルヲ彼此相混同シ、遂ニ靈像歸座ノ天正十八年十二月二十八日ヲ慶長五年ノ十二月二十八日ト誤傳セルモノナリ。  
慶長十九年七月大雨山崩レ社殿破損セリ、徳川家光、桑山、檜村、小野三氏ヲ奉行ニ補シ之ヲ修造セシメ、元和五年之ヲ竣功ス、既ニシテ堂社漸次破損アリシカハ、慶安三年八月大衆寺社奉行ニ訴ヘ、修理ヲ請ヒ、土功ニ着手シ、寛文七年ニ至リ之ヲ竣フ、即チ現在ノ建物ナリ、談山古文書集ニ之ニ係ル文書アリ、録シテ參考ニ供ス。

言 上

略上慶長十九年七月七日大雨大洪水にて神殿上之山崩れ掛り破損候未及訴訟以前、大權現様被爲、聞召可被御造營之旨、被爲、仰出候就、夫、台徳院様右之御願を被爲、及聞召、元和三年九月三日大織冠神殿佛閣等御造營之奉行、桑山左衛門佐并檜村孫兵衛、小野惣右衛門ニ被、仰付同五年ニ造畢して、靈神遷座、勅使參向御座候當山御再興あそばされ、學侶取立被成候、大權現様御高恩難有御事ニ候、依之、毎月十七日二十四日兩日者、滿山之學侶等終日終夜梵鐘を鳴らし、捧法味候加之佛閣之勤行、神殿之再拜、抽精誠奉祈、御家門長久候然者、今度一山之堂社及大破候間、被爲成御造營被下候様奉、仰御披露事、慶安三年八月 日、多武峰大衆等

寺社御奉行所

多武峰社頭近年及破壞候然者、任先例御造營之儀、衆徒中大望候幸此節、學頭惠心院僧正令在府候間定而子細可爲言上候、各御馳走候而訴訟相調候様ニ偏所希候、彼寺爲當門寺

務之故如此候也

五月二十四日

尊純親王判

安藤右京進殿  
松平出雲守殿

社 領

王制ニ於ケル封戸ノ事記録ニ所見ナシ、現今當社所藏ノ圖書ニ建久中葛下郡磯野郷四至注量文、應仁中同郷契約文ノ全文被處、及ヒ高市郡忌部庄箸喰庄、廣瀬郡百濟庄、十市郡膳夫庄ノ古圖アリ、此等皆寺領ニ屬セルモノナルヘク、其他コレニ關スル文書ヲ左ニ掲ケ參考ニ供フ。

大和國仲川庄事、以後普光院攝政殿御寄附之例、所有御寄進當山也、永代全知行可被致、天下泰平御家門安全御祈禱之由、關白殿御氣色、所候也、仍執達如件

應仁二年七月八日

和泉守判

多武峰檢校三綱御中

一奉寄進、護國院御寶前大般若經料田合貳町、點役分田所領之内在之、右意趣者爲奉祈、一天太平、四海靜謐、怨敵退散、武運長久、子孫繁昌、家門富貴、郷内安全、諸人快樂、

大織冠大明神彼田所、永代奉寄進狀如件

永祿七年甲子七月十五日

越智伊豫守家増判

十 市 郡

一六一

天正八年九月織田信長ノ政ヲ近畿ニ爲スヤ惟任光秀瀧川一益ヲ當國ニ入ラシメ國中ノ田數石高ヲ檢覈セシム當時之ヲ差出ト稱ス首卷總說及法隆寺々翌年正月一山ヨリ二將ニ差出セシ目錄左ノ如シ、副本當社藏

從寺 出一紙目錄事

合九百八十五町九反八畝六步田

合六千三百五十ク所島屋敷同百濟方田島屋敷分

合百拾六町八反六畝十二步年貢百四石四斗八升五合御料

此内

四百三十六石五斗

三百十六石一斗六升三合

合七百五十二石六斗六升三合

五百五十一石二斗八升五合五勺

三千四百九十三石一斗二升五合

二百八石六升七合

六百九石六斗四升六合三勺

合五千二百五十五石三斗九合

惣高六千七百九斗六升八合

右所當知行……

興福寺  
他所侍衆へ立分

大織冠藏納并燈明田

寺中坊領

領中堂宮

百姓等持分

可被達 上聞仍爲支證差出如件

正月吉日

瀧川左近尉殿

惟任日向守殿

多武峰

ト見ユ當時既ニ六千石餘ヲ所領セラル談山古文書集ニ

當山寺領百濟庄郷領共ニ從往古 大織冠御眞地子細有之處を惟任許容ニ候歟爲明智

傳五金百濟を可關所之由被申候不謂題目ニ候至安土慥被仰分候而可被下候委榮賢可

被申上候此等之趣御披露所仰也恐々謹言

九月十六日

政所 英 訓 判

鳥居小路殿

禁中様江當寺之趣奏聞仕候處安土至被立勅使於滿山忝奉存候先以爲御禮使僧差上候今一往御禮旁仁被成勅書候之様二御調奉憑候仍乍輕綿二把致進上候此等之趣宜御披露所仰候恐々謹言

十一月廿五日

政所 法 印 英 訓

鳥居小路大藏卿殿

トアリ之ニ據レハ光秀等檢覈ノ後廣瀨郡百濟庄沒收セラレントスルニ方リ寺家ノ愁訴ニ依リ勅使ヲ安土ニ下サレ旨ヲ信長ニ諭セシヲ以テ其ノ事止ミタリト覺フ然レトモ漸ク削減セラレ

十市郡

天正十三年九月豊臣秀長新多武峯寺ヲ郡山ニ立ツルニ及ヒ六千石ヲ宛行フヘク其臣横濱一庵ヲシテ下知セシメシ事當社ノ古文書ニ見ユレトモ此時果シテ之ヲ實行セシヤ否記録ニ所見ナシ思フニ新寺ヲ隆盛ナラシメンカ爲故ラニ之ヲ懸ケ僧徒ヲ獎誘セシモノナラン上ニ引ケル天正十三年十二月文書ニ記セル假定ノ寺領高以テ證スヘシ文祿四年九月豊臣秀吉廣瀨郡廣瀨百濟藤森赤部ニ於テ三千石ヲ寄附セラル其朱印及ヒ郡山城代ノ下知狀左ノ如シ談山古文書集所載

寺領方目錄

- 一七百六十六石一斗六升
- 一千七百三十二石四斗六升
- 一四百四十二石四斗
- 一五十九石

和州廣瀨郡内  
 以ろせ  
 同くたら  
 同藤森  
 同わかべの内

合三千石

右以今度檢地之上改之令寄附訖全可寺納候也

文祿四年九月廿一日

朱

印

一當寺領廣瀨郡之内所々目錄別紙在之參千石今度以御檢地之上被成御寄附候被任御

朱印旨全可有寺納候恐々謹言

九月廿一日

増田右衛門長盛判

慶長八年八月德川氏更ニ朱印ヲ附シ寛文五年八月之レカ配當目錄ヲ定メタリ

一和州多武峰當知行分於廣瀨郡之内參千石并兩門前寺中近邊山林竹木寄附之永進止不可有相違彌勤修宗門佛法專作坊舍修造可抽天下祈禱精誠者也

慶長八年癸未八月六日

花押

和州多武峰領廣瀨郡藤森廣瀨百濟赤部四ヶ村高三千石配當目錄

青蓮院御門跡

- 一高二百石 寺務 領
- 一高三百石 學頭 領
- 一高千五百石 寺僧 領
- 一高百五十五石 御供祭禮 領
- 一高百四十石 年中行事 領
- 一高二百四十五石 諸役人給分小細入用 領
- 一高四百六十石 修理 料
- 都合三千石

右學頭名代并寺僧之内二人役者二人宛相加年々所務之且納次第可配當或私曲或違背有之輩者以衆議學頭江申届速可令離山者也

寛文五年八月十七日

大和守判  
 美濃守判  
 豊後守判  
 雅樂頭判

多坐彌志理都比古神社 多村大字多ノ宮内ニアリ、延喜式神名帳ニ多坐彌志理都比古神社  
二座並名神大月ト見エ、古ハ名神大社ニシテ月次相嘗新嘗ノ官幣ニ預レリ、大宮二座、若宮  
二座、別宮二座ヲ合セ意富六處社ト總稱ス、今郷社タリ。

祭神 創立

祭神創立ノ事ハ五郡神社記ニ詳カナリ、他ニ類本ナキヲ以テコ、ニ其全文ヲ載ス。

意富六處神社 神名帳云大和國十市郡多坐彌志理都比古神社二座、在意富郷意富村平  
森現在四座、現在四座之内、左二座水知津彦神、火知津姫神、大宮、預大祀也、右二座坐彦  
皇子神、命、姫皇子神、命、稱、若宮、預小祀云云亦合殿二座、小杜神、命、屋就神、命、稱、別宮、預小祀在  
本社去南二町平森、但春日大床造營、蓋若宮四神、並爲大社之皇子見神名帳。

多神宮注進狀草案

大宮二座

珍子賢津日靈神尊

天祖聖津日靈神尊

皇像瓊玉坐  
神物圓鏡坐

若宮四座

彦皇子神社

姫皇子神社

樹森神社

日月神社

皇孫日火靈神尊  
天媛日火靈神尊  
瓊玉戈神尊  
火瓊神尊

若宮二座

子部神社

子部神社

已上在意富郷

皇弟天火子日命  
皇弟天火子根命  
多朝臣爲禰宜  
肥直爲禰部

神像統玉座  
同上

外宮

目原神社

已上神社在川邊郷

若宮一座

竹田神社

八劔神社

天神高御產靈尊  
皇妃栲幡千千媛命  
肥直爲禰宜

神像圓鏡座  
神像竹箸座  
神像橫刀座

已上神社在川邊郷

葛城高岳宮

帝宮以降居於當國春日縣

皇祖天神、陳幣帛、啓祝詞、以答神祇之恩、而主神事之典焉、使縣主遠祖大日諸命、爲祝

而奉仕也、泊于磯城瑞籬宮、御宇御間、口入彦五十瓊殖天皇、爲祝

冬中、依卜、令祭八十萬群神之時、詔武惠賀前命、爲神八井耳命、子也、改作神祠奉齋珍御子命

皇御孫命、新寶天津日瓊玉矛天璽鏡劍神等號社地曰太鄉定天社封神地舊名春日宮當社與  
 河內國日下縣神共祭神今云多神社其後志賀高穴穗宮御宇稚足彥天皇御世五  
 年乙亥之歲初詔武惠賀前命孫仲津臣武彌依為祭多神之主負多氏依社號也是日天皇依  
 神託詔仲津臣奉齋祀外戚天神皇妃兩神於目原地今目原神社是也及于泊瀬朝倉宮御宇  
 大泊瀬幼武天皇詔六世孫螺贏清或口子被遣諸國收歛蠶兒誤聚小子奉貢之天皇咲以小子  
 賜螺贏詔曰汝宜自養于時螺贏即養小子於高邊仍賜為小子部連此小子等及壯令住我多  
 鄉俗號其處云子部里即位九年乙巳初春天皇依靈夢詔螺贏奉齋祀皇枝彥日根兩神於子  
 部里今子部神社是也至於淨御原宮御宇天淳中原瀧真人天皇諡曰天武即位十三年甲  
 申仲冬改天上之萬氏姓而分為八等之日多清眼十一世孫小錦下品治將數賜姓曰多朝臣  
 厥後和銅五年壬子孟春正五位上太安麻呂品治之子也安麻呂改奉勅撰古事記三卷以獻  
 上也養老四年庚申仲夏一品舍人親王奉勅撰日本書紀三十卷于時安麻呂預筆削既而功  
 畢因以授從四位下為太氏長者加位補民部卿然後水火知男女神延曆五年丙戌孟夏望前  
 奉授正四位上勳六等永治改元辛酉季夏初旬進加神位階奉授正一位充位田納神稅先是  
 制撰弘仁式之節改入神祇官神牒每春冬預祈年月次官幣奉祈禱年穀豐稔修禮請鎮護天  
 下安全致敬應令旨獻注進如右上狀謹恐啓白

久安五年己三月十三日

禰宜從五位下 多朝臣常麻呂

祝部正六位上 肥直 尚 弼

祝部正六位下 川邊連 泰和

謹上 新國府守藤原朝臣殿

已上注進狀草案書寫

多神宮注進狀裏書

上代舊國府在高市郡于時帝都大略在高市十市葛下三郡其後帝都遷添上添下兩郡于  
 時舊國府遷在添上郡而今屬平群郡仍稱新國府

社司多神命秘傳 多常丸手書

珍子賢津日靈神者天忍穗耳尊河內國高安郡春日部座宇豆御子神社同體異名也

天祖聖津日靈神者天疎向津姬命春日部座高座天照大神之社同體異名也

彥皇子神社皇孫日火靈神者瓊々杵尊高宮鄉座天津瓊々杵神社同體異名也神名帳河內國讚良郡津

杵神社一座小

姬皇子神社天媛日火靈神者天疎向津少女命天照大日靈尊之分身故姬皇子亦高宮鄉座天

照大神和魂神社同體異名也神名帳河內國讚良郡高

樹森神社瓊玉戈神尊春日部座神社同體異名也神名帳河內國讚良郡高

私考高宮當作高座彼大杜神社在高座神社相殿也神階記作高座大杜御祖神得實矣

大杜御祖神社即中臣氏祖天兒屋根命也

日月神社火瓊神尊者豐御氣津命為天明豐玉之命號玉祖鄉座豐玉社同名異體也神名帳河內國

高安郡玉祖神社一座

私考神階記作玉祖御祖神社得實矣神名帳異本無玉祖二字不可此玉祖御祖神即玉

十 市 郡

作氏祖羽明玉命也云云 一名帳河內國高安郡佐麻多度神社 神階記所云高座玉子御祖神即忌部氏御祖太玉命也

小杜屋就兩神社非忌部神之御魂可言天照大日靈神之皇子而若至當社攝社五部神殿第一中臣御祖天兒屋根命第二忌部御祖天太玉命第三猿女御祖天鈿女命第四鏡作御祖石凝姥命第五玉作御祖羽明玉命是也河州日下縣高座大杜御祖神高座玉子御祖神々々鐸比賣神社玉祖御祖神々々石老女神同體異名也疑自日下縣奉遷此地方今爲五部神殿也乎

子部神社皇弟天火子日命者天穗日命、子部神社皇弟天火子根命者天津彥根命、

已上二座皇枝彥日根兩神是也餘戶鄉四座縣主神社四座同體異名也大縣主凡河所祀祖神也神名帳河內國若江郡御野縣主神社二座小或抄云御野縣主神社在御手拍野

目原神社天神高皇產靈尊、目原神社皇妃栲幡千千媛命

已上二座外成天神皇妃兩神是也志貴鄉長吉神社同體異名也縣主川內志所祀祠也竹田神社天孫國照火明命者饒速日命高宮鄉坐國中神社同體異名也神名帳河內國讚良郡國中神社或抄云

八劍神社出雲速蛭建雄命者天叢雲神劍命豐浦鄉坐八劍神社同體異名也神名帳河內國石切劍箭命神社二座私考石切劍者天村雲劍

所以爲利劍得石切名猶謂之蛭研之劍耳

昔凡河內國日下縣可爲今大縣高安河內讚良四郡也乎哉右高座天照大神御魂大杜天之昇玉杵命二座宇豆御子神社一座已上在春日戶今云皇屬高安郡也天明豐玉神社一座玉祖御祖神社一座高座玉子御祖神社一座已上在玉祖鄉屬高安郡也天照大神和魂神社一座津杵神社一座國中神社一座已上在高宮鄉屬讚良郡也高座大杜御祖神社一座在平岡鄉屬讚良郡也八劍神社二座在豐浦鄉屬河內郡也鐸比賣神社一座石老女神社一座已上在神戶鄉美今云加屬大縣郡也御柏野大縣坐神社在餘戶鄉昔爲大縣郡今六鄉九社十六座惣號曰日下昔云也府上縣坐神社蓋日下縣者大縣仍其名遺于今存歟

下居神社此云乎利伊與降居同訓如云退位坐神八井耳命之靈即太朝臣小子部連肥直都介直志紀縣主等遠祖也又河內國志貴鄉縣主神社同體異名也

螺瀛神社一座雷螺瀛靈亦云雷神是即小子部連遠祖在子部里未預官幣已上注進狀裏書永享五年仲冬七日

愚僕歷年欲編集大和國五郡神社略解蓋意富六處神社可言十市郡大社之棟梁就中少知其神祕者直從用注進狀并裏書全部載記件抄云初篇而令相續子部下居神社等記之以下綿連列在五郡神社  
ト見ユ祭神ノ名稱創立ノ由緒記シ得テ詳カナリ就中其多神宮注進狀ハ多氏相傳ノ舊說ヲ錄シ國司ニ注進スル文書ニシテ其信ヲ措クヘキハ固ヨリ論ナシ抑モ注進狀ナルモノハ寺家ノ流記緣起資財帳ト同ク古ハ何レノ神社ニテモ之ヲ勘録シ官家ニ注進セルモノナルニ中世以來其書悉ク散逸シ全ク存スルモノハ僅ニ春日大倭大神等ニ過キサリシカ



當社ノ注進狀ハ幸ニ五郡神社記ニ其全文ヲ引用セラレタルヲ以テ數百歳ノ下之ヲ見ルヲ得タリ、眞ニ宮道氏ノ賜ナリ、今其書ニ據リテ本社若宮外宮等ノ神座ヲ記スレハ左ノ如シ。

大宮 第一殿 天忍穗耳尊津彦神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第二殿 天疎向津媛尊津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第三殿 瓊々杵尊津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第四殿 天疎向津少女命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

若宮 第一殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第二殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第三殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第四殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

別宮 樹森神 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

若宮 第一殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第二殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第三殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第四殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

若宮 第一殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第二殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第三殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

第四殿 天兒屋根命津即水神知 神名帳曰多坐彌志理都比古神社二座是也

現在ノ社殿尙四字ヲ存スルモ其祭神ハ社傳ニ第一殿ヲ神倭磐余彦天皇トシ第二殿ヲ神八井耳命トナシ、第三殿ヲ神沼川耳命トシ、第四殿ヲ玉依姬命トナス、而シテ小杜神ハ太安麻呂ニシテ屋就神ハ八劍靈ナリト云フモ共ニ據ヲ見ス、況ンヤ神八井耳命ハ多氏ノ祖席トシテ別ニ下居社ニ祭ラレ既ニ官社ニ列セラル、ニ於テヲヤ、社傳ノ杜撰ニ出ツル亦知ルハキナリ宜ク注進狀ニ依リ右表ヲ以テ正トナスヘシ。

ト云フ、然トモ當社ノ神體ハ瓊玉圓鏡タリシコト既ニ注進狀ニテ明カナリ、思フニ中世其神體ヲ亡ヒ更ニ木像ヲコ、ニ安置セシモノナラン、或人云現在ノ古像ハ本ト高市郡中曹子村磐余社ノ神像ナリシヲ多社舊神主植田氏ノ先人某彼社務ヲ兼帶セシトキ竊ニ齋ラシコ、ニ安置セルモノト、果シテ然ルヤ否。

神 戸 天平二年大和國大稅帳正倉院曰太神戶オホノカミベ稻壹萬伍佰伍拾貳束伍把、租壹佰參拾捌束肆把、合壹萬陸佰玖拾束玖把、用伍拾捌束祭神捌束神嘗、殘壹萬陸陸佰參拾貳束玖把、新抄勅格符抄云多神六十戶大和十戶 遠江十五戶

雜 事 當社ハ十市郡ノ大社ニシテ朝廷厚ク禮ヲ加ヘ、國郡司亦之ヲ崇敬セラレシハ國史延喜式ニ明カナリ、往昔ハ正一位勳一等大明神ノ扁額ヲ一ノ鳥居ニ掲ケニ現存ス、馬場先キ遠ク十町許ヲ隔テ大道ニ接セリ、當時ノ規模以テ想フヘシ、十市氏本郡ヲ領スルニ至ルモ仍厚ク崇敬セラレ時々參拜アリシト云フ、故ニ社頭ニ遠勝ノ獨文遠忠ノ筆蹟ヲ傳フ。

- 於多社造立令寄附條々
- 一社內諸公事免許之事
- 一社內爲社家料境內字點役分永々寄進之事
- 一四至六町方災國災諸科人申事停止事
- 右條々堅相定候間、後々末代聊不可有表裏違亂候、尙森本左橋介、田中主膳介、平井與橋介

申付候處也仍如件

天文廿一年壬子七月十六日

遠勝花押

多社社家中

多神社に詣でし折ふし雨乞あり

遠忠

ふりくるや民の草葉のなひくまで

雨こそ多の神のまに

耳成山口神社

延喜式神名帳ニ耳成山口神社新嘗次ト見ユ、五郡神社記ニ耳成山口神社在

河邊郷南裏村俗云天神愚僕考案、木神山雷神也、大和國七部山口社之内也ト云ヘリ、案スルニ

當社ハ山口神ナレハ本ト耳成山口即チ山ノ南麓ニアリシナルヘク、南裏村已廢シ趾詳カ

ナラサレトモ其地正ニ山口ニ當レル處ナラン、今耳成村大字木原ノ耳成山上ナル俗ニ天

神ト稱スルモノヲ以テ式内山口社ト定メ現ニ郷社タリ、然モ本朝神社牒舊藩府寺社奉行ノ今ノ編纂ニ係ル

一 天神社舊名耳成山口神社

一 耳成山天神宮

社人梨子彌兵衛

ト記セリ、願フニ當時天神ト稱スルモノ二社アリ、單ニ天神社ト稱スルハ即チ式内山口社

社人佐伯丹後守

ニシテ耳成山天神ト稱スルハ今ノ山上ノ神社ニテアリシモノ、如シ、後考ヲ俟ツ

神戶 奉幣

天平二年大和國大稅帳曰耳成山口神戶、稻肆拾捌束陸把、租肆束漆把、合伍拾參束參把、用肆

束祭神殘肆拾玖束參把、

新抄勅格符抄曰耳无神一戸大和

三代實錄曰貞觀元年九月大和國耳成山口神遣使奉幣爲祈風雨焉

目原坐高御魂神社 延喜式神名帳ニ目原坐高御魂神社二座並大月ト見エ、亦大社ニシテ月

次新嘗ノ官幣ニ預リシモ後チ荒壞シ殆ント其所在ヲ失フニ至レリ、志ニ在所不詳或曰太

田市村天神社即此ト非ナリ、耳成村ノ大字ニ木原アリ、木目音相通シ木原ハ目原ノ轉訛ニ

シテ即チ當社ノ所在地ナリ、今耳成山口社ニ配祀セラル

祭神 創立

成務帝即位五年多臣仲津詔ヲ奉シ高皇產靈、天萬栲幡姬ノ二神ヲ齋祀スル所ナリ、五郡神

社記ニ目原神社、在河邊郷目原村近代作木原、高森社家者直説曰、目原神社二座、高皇產靈尊、天萬

栲幡媛命也、多神宮注進狀云、外宮目原神社、天神高御產巢日神、神像圓鏡坐、皇妃栲幡千々姬

命、坐已上神社在川邊郷肥直爲、志賀高穴穗宮御宇、稚足彥天皇御世、五年乙亥之

歲初秋詔武惠賀前命孫仲津臣武彌依爲祭多神之主、負多氏依社號也、是日天皇依神託詔仲

津臣奉齋祀外戚天神皇妃兩神於目原地、今目原神社是也、ト即此、多社ハ天忍穗耳尊

等ヲ祭ル、高皇產靈尊ハ實ニ其外戚タリ、故ニコ、ニ祀リ彼社ノ別宮トナセルモノナリ、但

禰宜肥氏ハ多氏ト同祖ニシテ亦神八井耳命ヨリ出ツ、下居社ノ下參考スヘシ

神 戶

天平二年大和國大稅帳曰目原神戶、稻貳佰陸拾伍束、租陸束、合貳百漆拾壹束、用肆束祭神殘

十 市 郡

貳佰陸拾漆束

新抄勅格符抄曰目原神一戸大和

子部神社 平野村大字飯高ニアリ、飯高ハ即チ古ノ子部里ナリ、延喜神名帳ニ子部神社、二座

並大月ト見エ、今村社タリ。

祭神 創立

五郡神社記ニ子部神社、在意富郷飯高、昔呼於布村、平森社家者説云、子部神社二座、天之穗日命、天津彦根命也、亦曰天子部神社、爲大社、多神宮注進狀ニ若宮二座、子部神社、皇弟天火子日命、神像統玉座子部神社、皇弟天火子根命、同上、已上在意富郷多朝臣爲禰宜、及于泊瀬朝倉宮御宇、大泊瀬幼武天皇、詔六世孫仲津臣六、裸羸、或曰子被遣諸國、收斂蠶兒、誤聚小子奉貢之、天皇咲以小子賜、裸羸、詔曰汝宜自養、于時裸羸即養小子於高邊、仍爲小子部連、此小子等及壯、令住我多郷、俗號其處云子部里、即位九年乙巳、初春天皇依靈夢、詔裸羸奉齋祀皇枝彦日根兩神、於子部里、今子部神社、同書裏書ニ子部神社、皇弟天火子日命者、天穗日命、子部神是ト見エ、雄略帝九年正月、小子部連ノ祖、裸羸、詔ヲ奉シ、天之穗日、天津彦根、已上二座、皇枝彦日根兩ニ齋祀シ、地名ニ依リ、子部社ト稱セシナリ、裸羸ガ蠶兒ヲ誤リ、小子ヲ聚メ、因テ小子部連ノ氏姓ヲ賜ハリシ事跡ハ、國史姓氏錄ニ載スルモ、此注進狀ノ如ク詳細ナラス、實ニ史ノ闕文ヲ補フモノト謂フヘシ。

雜事

三代實錄曰元慶四年十月先是、大安寺三綱、申牒、備昔日聖德太子創建平群郡熊凝道場、飛鳥

岡本宮、明帝遷建、十市郡百濟川邊、施入封三百戶、號曰百濟大寺、子部大神在寺側、舍怒屢、燒堂

塔云

大安寺伽藍緣起資財帳、天平十九日、飛鳥岡基宮御宇、天皇……即位十一年歲次己亥、春二

月、於百濟川、側子部社、切排而院、寺家建九重塔……此時社神口而失火、燒破九重塔、并金

堂石鷗尾云

螺羸神社 子部社ノ未申半町許ニアリ、俗ニ小子部社、又雷神ト稱ス、多神宮注進狀裏書ニ螺

羸神社一座、雷螺羸靈亦云、雷神是即小子部連、遠祖在子部里、未預官幣ト見エ、小子部氏ノ祖

螺羸ノ靈ヲ祭リ、今俗ニ之ヲ、コ、ベト稱スルハ、即チヒサコベノ轉訛ナルヘシ、螺羸ノ小子

部連ノ氏姓ヲ賜ハリシ故事ハ、既ニ上ニ詳カナリ、古來當社ノ座筋ト稱スルモノ、八戸アリ、

當時富家ヲ以テ有名ナル小槻ノ岡橋氏ハ、其座長タリ、疑ラクハ此等ノ座筋ハ小子部氏ノ

苗裔カ、而シテ螺羸又詔ヲ奉シテ、雷公ヲ捉ヘシ事ハ、雄略天皇紀日本靈異記等ニ載セ、人口

ニ膾炙スル所ナリ、雷神ノ稱實ニ之ニ由レリ。

竹田神社 耳成村大字東竹田ニアリ、社邊ニ竹田川アリ、竹田川古ヘ忍坂川ト稱ス、故ニ忍坂

竹田社トモ云ヘリ、延喜式内ナリ、今村社タリ。

祭神 創立

火明命ヲ祭ル、火明ハ即チ竹田氏ノ祖ナリ、五郡神社記ニ竹田神社、在川邊郷竹田村川邊、社

家者、連川邊説曰、竹田神社者、天照國照彥火明命也、當社邊有刑坂川也、此川、岸原多生、綠大竹、俗

呼云、竹田、及于仁德天皇御世、祝部武田押命、建刀米命、七世孫、即以件大竹、作箸、獻上之、朝廷于

時天皇令賞美始賜竹田川邊連多神宮注進狀ニ若宮竹田神社天孫國照火明命神像竹箸坐攝社一座非官社八劍神社出雲速蛭建雄命神像橫刀坐已上神社在川邊鄉爲川邊連。姓氏錄ニ湯母竹田連火明命五世孫建刀米命之男武田折命之後也景行天皇御世擬湯母賜田夜宿之箇生其田天皇聞食而賜姓箇田連後改爲湯母竹田連又曰竹田川邊連火明命五世之孫建刀米命之男武田折命之後也仁德天皇御世大和國十市郡刑坂川之邊有竹田神社因以爲氏神同居在焉綠竹太美供御箸竹因茲賜竹田川邊連トアルニ相合フ。ト見ユ蓋建刀米ノ武田折ヲ生ムヤ景行帝湯坐古ハ皇子生ルトキハ產湯料トシテ土田部曲坐部ト名ク湯ニ擬シテ忍坂川ノ邊ニ於テ土田ヲ賜ハル既ニシテ猗々タル綠竹コニ生ス依テ其地ヲ竹田ト名ケ湯母竹田氏ヲ負ヘリ後チ其祖火明命ヲコニ祭リ氏神トナシ竹田社ト稱スト是即チ當社ノ創始ナリ仁德帝ノ世ニ至リ武田折此人ノ出生チ景行帝ノ朝ニ乃祖ノ名チ襲ヘルモニ互レリ疑クハ武田折ノ子孫彼ノ綠竹ヲ以テ御箸ヲ作り獻ル天皇大ニ賞美シ社地ニ因ミテ竹田川邊連ノ氏姓ヲ賜ヒ湯母竹田氏ト分タシム當社箸ヲ以テ神體トナスハ實ニ之ニ起因セルモノナリ是ヨリ子孫相繼キテ川邊氏ノ族長トナリ兼テ祭祀ヲ掌レリ。

雜事

大同類聚方ニ當社傳來ノ方劑ヲ載ス其ハ社號及祝部氏ニ關係ヲ有スルヲ以テコニ抄出ス。  
川乃反藥 大和國十市郡竹田神社乃方祝部川邊連刀自等乃家世々所祕方 宇波日目

者男女共爾三十餘乃頃初乃時者左乃目見流物紙平隔流耳似太利痛數之天自毛知壽亦數月之後右目亦明奈羅數……  
菟波岐二分 佐波良久草二分 菟務乃黎三分 枳囉夷聖三分  
邇俄楊藝三分 於保會民四分

太計太藥 大和國十市郡竹田神社乃祝竹田川邊連秀雄之家之方也 咳不止咽波禮痛

熱強久日數不留者耳用浮倍之  
麻由美三分 於斯久左二分 登良乃袁三分 久禮波奈二分  
斯奈岐三分 非々良疑二分

楚武川藥 大和國十市郡淤斯坂之竹田之神社之方多氣田川邊連之上奏所也 女子乃宇加見病月水不通面浮腫天手腫脹天氣否水腹痛夜入寢散流者元死血行水腹乃中乃肉中爾入天動加散流閑故也血行禮者氣母通比豆可愈此二用于流良藥是也

伊良奈乃美三分 以之阿也米十分 意甫會參二分 味九利年二分  
以波古計五分 加駕知三分 萬津甫士二分 阿加米久佐二分

下居神社 延喜神名帳ニ十市郡下居神社ト見ユ多武峯村大字下居ニ隣レル下村ニ同名ノ社アリ今之ヲ以テ式內下居社ト稱シ現ニ村社タリ然トモ下ニ引ケル記錄ニ據ルニ下居社ハ當ニ多村ニ在ルヘキナリ所謂下村ノ社ハ志ニ在下村隣下居村與倉橋淺古共預祭祀又文德實錄ニ天安元年八月大和國從五位下椋橋下居神授從五位上ト見ユルモノニシテ同名ナレトモ自其處ヲ異ニセリ其椋橋ヲ冠スルハ多ノ下居社ト甄別セルモノニシテ史